令和5年度

東京医療保健大学

点検・評価報告書

り

はじめに	C1	
第1章	理念・目的2	
第2章	内部質保証4	
第3章	教育研究組織6	
第4章	教育課程·学習成果 ······9	
第5章	学生の受け入れ	
第6章	教員·教員組織 ······5 8	
第7章	学生支援68	
第8章	教育研究等環境 7 1	
第9章	社会連携·社会貢献 ······77	
第10章	章 大学運営·財務 ······98	
	第 1 節 大学運営	
	第2節 財務100	6

はじめに

東京医療保健大学は、平成17(2005)年4月に建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、医療分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める高い専門性、豊かな人間性及び教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に探求し解決することができる人材の育成を理念・目的として、1学部3学科、入学定員280名(学生定員1,120名)により開学しました。

その後、社会のニーズに応じて教育研究組織の整備充実を図り、令和5(2023)年4月現在では、5学部7学科・4研究科・2専攻科、入学定員784名(収容定員2,889名)となり、これまで社会に有意な多くの医療人材を輩出しております。特に、大学における看護師の養成数においては入学定員490名(収容定員1,960名)となり我が国最大規模となっております。

本学の特色は、医療人材の養成において、我が国の中核医療機関との連携・協力のもとに、最先端の高度医療を臨地実習で学べることにあります。具体的には、NTT東日本関東病院、国立病院機構東京医療センター・災害医療センター・村山医療センター、地域医療機能推進機構(JCHO)船橋中央病院、日赤和歌山医療センターと連携協定を締結し、各医療機関の医師や看護師等に臨床教員としてご就任いただき、充実した実習教育が展開されております。

また、大学院においても本学の理念・目的のもとに教育・研究を推進するとともに、連携する医療機関の協力により診療看護師(NP)等高度医療人材の育成に 取り組んでおります。

令和5(2023)年度の点検・評価報告書については、社会への説明責任を果たすため、本学が策定した「今後10年間の教育研究活動に関する取組内容について (平成28(2016)年3月策定)」、「第2期中期目標・計画(平成29(2017)年3月策定)」「東京医療保健大学ビジョン(平成29(2017)年10月策定)」及びそ の実現のための「アクションプラン(平成30(2018)年9月策定)」等のこれまでの取組を継続しつつ、ポストコロナ対応等の今後新たに取り組むべき課題を加 えた「第3期中期目標・計画(令和4(2022)年度~令和8(2026)年度までの5か年計画)」の2年目の進捗状況について点検し、客観的な評価指標(KPI)に基 づき各計画の達成状況を4段階にて評価しております。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響から概ね脱却し、従来のキャンパス生活を取り戻しつつも、引き続きDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進し、ICTを活用した遠隔授業(オンデマンド方式・リアルタイム方式)や対面授業との併用によるハイブリッド型授業の実施などの取組も最大限活用しつつ、本学の教育理念・目的を念頭とした教育、研究及び社会貢献活動に取り組んでまいりました。

本学は、毎年公表する点検・評価報告書については、「(全学)自己点検・評価委員会」において取りまとめの上、「外部評価委員会」による検証・評価をいただき、学長に報告され、さらに「内部質保証推進会議」、「大学経営会議」、「理事会・評議員会」での審議・承認を経た上でウェブサイトに速やかに公表し、社会への説明責任を果たすとともに、社会からの評価を真摯に受け止め、その改善充実を図っております。

今後も、本学の建学の精神及び教育理念・目的に基づき、学部・学科(各キャンパス)、大学院研究科、専攻科がそれぞれの特色・強みをより発揮し社会の ニーズに応え、教育、研究及び社会貢献活動に戦略的かつ機動的に取り組んでまいります。

令和5年度計画の達成状況に基づく点検・評価報告書

【評価区分】Ⅳ:年度計画を達成している(達成率100%)Ⅲ:年度計画を概ね達成している(達成率80%以上)Ⅱ:年度計画を十分には達成できていない(達成率60%程度以上)Ⅰ:年度計画を達成できていない(達成率60%程度未満)

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
1. 理念・目的 【計画1】(企画部) 大学・学部・研究科等の理念・目的に大学・学部・学部・研究科等のに明とと、いて構成員に対した。 は、大学構成 員及び広く社会に、本学のウェブサイト等を活出公表する。 「計画遊成のための方策」 学生に対しては、対象を受ける。 は、大学構成 員の は、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、	Ξ.	・学生に対する新入生及び各学年のガイダンスについては、各キャンパス毎に以下のとおり、計画的に実施したところである。 ・教職員に対するオリエンテーションについては、全学の新採用オリエンテーションの実施のほか、各キャンパスにおいて、教職員オリエンテーションを要施したところである。 ・令和4年5月5日及び6日において、他のキャンパスの新入生と一堂の目的により、「令和4年度新入生台同研修」を国立オリ歌山看近との目的により、「全和4年度新入生台同研修」を国立オリ歌山看近との目的により、「全本4年度新入生台同研修」を国立オリ歌山看近とが困難であったため、残念ながら和歌山キャンパスで開催した。なお、和するとはの事態となったための講話や学部生は、コロナウル 残念ながら和歌山キャンパスで開催となったが困難であったため、残念ながら和歌山キャンパスでの開催となった。 ・当日は、田村理事長、亀山学長から研修や、学友会の活動紹介なども含め、有意義には、デジタルサイトの状態が流れるなど、建学の精神や大きの状態が変があるなど、建学の精神や大きの理念を各種情報を大学中の理念のすている。 ・大学・学部・研究科等の理念・目的については、毎年度最新の教育情報を大学中に公開している。	ガイダンスにおける履修設明等において周知を図る。また教職員で対しては、採用時のオリエンテー戦ョコを図る。社会に対しては、ホームページにおいて公表する。 「野価権観」 ・新入生及び各学年のガイダンスの参加者数、アンケートの実施状況・各部別毎のオリエンテーションの教職員参加者数、アンケートの実施状況・ホームページにおける公表状況	Ш	・学生に対する新入生及び各学年のガイダンスについては、各キャンパス毎に以下のとおり、計画的に実施したところである。・教職員に対するオリエンテーションについては、全学の新採用オリエンテーションの実施したところである。・令和5年4月27日及び28日において、他のキャンパスにおいて、教職員オリエンテーションを実施したところである。・令和5年4月27日及び28日において、他のキャンパスの新入生と一業に会し、東京医療保健大学の学生としての自覚を持つ機会とする学の目的により、「令和5年度新入生合同研修」を国立オリンピック記念青少年総合センターを会場として、学生を半分ずつに分けて、17日にオンライン視聴と独自プログラムにる場取サキャンパスでの開催した。なお礼和歌山希護学部生人会場確保等の都合により、27日にオンライン視聴と独自プログラムにる場所教山キャンパスでの開催した。なお礼歌山本ャンパスでの開催となった・当日には、田村理事長、亀山学長からの講話や学都混合でのグループワークとしてのコスゴケーション研修や、学友会の活動が一次である各種情報の表となった。・大学・学部・研究科等の理念・目的については、毎年度最新の教育情報を大学中に公開している。・大学・学部・研究科等の理念・目的については、毎年度最新の教育情報を大学中に公開している。・大学・学部・研究科等の理念・目的については、毎年度最新の教育情報を大学中に公開している。・大学・学部・研究科等の理念・目的については、毎年度最新の教育情報を大学中に公開している。		評生イ数実や地位状である。 「新の加ト人的ですべんが、施状である。」 「新の加ト人的ですべんが、 いっというでは、 いっといいでは、 いっといいでは、 いっといいでは、 いっといいといいといいでは、 いっといいといいでは、 いっといいといいといいは、 いっといいといいは、 いっといいといいは、 いっといいといいは、 いっといいといいは、 いっといいといいは、 いっといいといいといいといいといいといいといいは、 いっといいといいといいといいといいといいといいといいといいといいといいといいとい		

□ ○ 欧銀馬オリエンテーション実施状況	第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	価区	内部質保証推進会議
毎に自己直接、評価及び特証等を行い ながら、内部内容とシャテムのPOG サ イクルを構築する。 「即名併復日 ・ 前年2月27日には、各部局代表者等に対する記明会を開催した。 ・ 同年2月27日には、各部局代表者等に対する記明会を開催した。 ・ 同年2月27日には、各部局代表者等に対する記明会を開催した。 ・ 同年2月27日には、各部局代表者等に対する記明会を開催した。 ・ 同年2月27日には、各部局代表者等に対する記明会を開催した。 ・ 同年2月27日には、各部局代表者等に対する記明会を開催した。 ・ 同年2月27日には、各部局代表者等に対する記明会を開催した。 ・ 同年2月27日には、各部局代表者等に対する記明会を開催した。 ・ 同年2月27日には、各部局代表者等に対する記明会を開催した。 ・ 同年2月27日には、各部局代表者に対した。 ・ 同年2月27日にな、各部局代表者等に対する記明会と開発した。 ・ 同年2月27日にから、企業をは認定は、各部の手であた。 ・ 同年2月27日にから表示を対した。 ・ 同年2月27日にから表示を対した。 ・ 同年2月27日にから表示を対した。 ・ 同年2月27日にから表示を対した。 ・ 同年2月27日にから表示を対した。 ・ 同年2月27日にから表示を対した。 ・ 同年2月27日にから表示を対した。 ・ 同年2月27日にから表示を対した。 ・ 同年2月27日にからまま、計画は、日本2000年においてきままを制度を持たいる。 ・ 同年2月27日に対した。 ・ 同年2月27日に対した。 ・ 市和3年1日にからままに対した。 ・ 市和3年2日に対した。 ・ 「令和3年2日に対した。」で「令和3年2日に対した。」で「令和3年2日に対した。」で「今和3年2日に対した。」で「今和3年2日に対した。」で「今和3年2日に対した。」で「今和3年2日に対した。」で「今和3年2日に対した。」で「今和3年2日については、部局内で19月までに実施し報告書を作成し、また「令和3年2日については、部局内で19月までに実施し報告書を作成し、また「令和3年2日については、部局内で19月までに実施し報告書を作成し、また「令和3年2日については、部局内で19月までに実施し報告書を作成し、また「今和3年2日については、部局内で19月までに実施し報告を作成し、また「中記3日については、部局内で19月までに実施し報告書を作成し、また「今和3年2日については、部局内で19月までに実施し報告書を作成し、また「中記3日については、部局で19月までに実施していこのでは、2月21日については、部局で19月までに実施していこのでは、2月21日については、2月3日に対した。」「今和3日2日についこのでは、2月21日については、2月3日に対した。」「今和3日2日については、2月3日に対した。」「今和3日2日については、3月3日に対した。」「今和3日2日に対した。」「今和3日2日に対した。」「日本2日2日に対した。」「今和3日2日に対した。」「今日2日2日に対した。」「今日2日2日に対した。」「今日2日2日2日に対した。」「今日2日2日2日に対した。」「今日2日2日2日2日に対した。」「今日2日2日2日に対した。」「今日2日2日2日2日に対した。」「今日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2日2	教育の質保証の観点から、毎年度にい、公路体では、 ・ でいる。 ・	分分	ト・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5 月に設置し、政府の「教学マネジメント指針」等を踏まえ、「学修 者本位の教育の実現」のため、「教学マネジメント」が適切に機能 しているかを各階層ごとに、恒常的・総合的に点検・評価を実施 し、適切に教育改善が図られるよう。「教学マネジメントテェック リスト」及び「アセスメントブラン」を検討・準備した結果、令和 5年1月11日開催の内部質保推進会議にて正式に策定した。 ・同年2月27日には、各部局代表者等に対する説明会を開催し、趣 旨や内容等の説明を行ったほか、同説明会資料等は学内デスクネッ ツ内に収納し、いつでも資料の動画、Q&Aを確認できるよう情報 有に努めるとともに、本年度内の試 48人を確認できるよう情報 有に努めるとともに、本年度内の試 76分に運用についても依頼した	学長直轄の「学長戦略本部」を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学を完成」といり、大学をは、「大学全体ルル」、「授業科師のは、「一日の大学・「日の大学・日の「日の大学・「日の大学・日の「日の大学・日の大学・「日の大学・日の大学・「日の大学・日の大学・日の「日の大学・日の「日の大学・日の大学・「日の大学・日の大学・日の大学・日の大学・日の「日の大学・日の「日の「日の大学・日の「日の「日の「日の「日の「日の「日の「日の「日の「日の「日の「日の「日の「日	分	- 4月3日 五反田キャンパスにて実施	分		9分	

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
2. 内部質保証 【計画3】(企画部) 内部質保証保証保証は基づき、本学における内容が 関係では、本学するため、「では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	i III	・IR機能の強化を図るため、IR推進室においては次のような取り組みを行ったところである。 みを行ったところである。 1)、学生の学修に関する実態調査アンケート、授業評価アンケートには重要な定点調査であるところ、令和4年度は、分析結果を学生に還元する「IRNews学生版」の刊行ができなかったので、このデータに対する意見収集を行えていない。令和5年5月までに「学生版」を公表予定なので、早めに意見収集を行うようにしたい。「評価推選」・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率(継続)59.2%・授業評価アンケートの回答率(継続)59.2%・授業評価アンケートの回答率(継続)59.2%・決議評価アンケートの回答率(継続)59.2%・決議評価アンケートの回答率(継続)59.2%・決議評価アンケートの回答率(継続)59.2%・決議評価アンケートの回答率(継続)59.2%・決議評価アンケートの回答率(継続)59.2%・決議評価アンケートの回答率(継続)59.2%・決議評価アンケートの回答率(継続)59.2%・決議で制度した。・・学修成果の関係会議で報告した。・・学修成果の可視化の一環としてキャンパスプランの改修に取り組み、とくに出席状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実・かり場合に関係を学生を関係していた。その後、近隣大学と連携し、IR推進室同士の情報交換、「評価推選」・アセスメント・プランに基づく学修成果の発量的評価指標(ディブロマ・サブリメント)分析結果の報告件数(新規)年1回・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数年1回	を明確化し、その機能強化を図るため、部局の現状等を更にエピデンスに 基づき分析・評価であるよう、「登場 戦略本部」と連携しIR機能の強化を図 「評価指揮」・IR機能強化の状況、各種データの分析状況		・IR機能を強化するため、各学部・学会の教員から構成している「IR椎進室運出舎できるようにした。具体的には9月下旬に他大学のIR椎進室に出席できるようにした。具体的には9月下旬に他大学のIR椎進室に本学向け研修会を開催いただき、同メンバーの希望者に出席いただいた。・2023年度に大学ビジョンにDX椎進が位置づけられたことを受けて、学修基盤推進室及びDXマネージャーの主導により「ICTスキルチェックリスト」が策定された。同室とも連携し、教員のICTスキルもストラクチャー指標の一つとして有効活用していくこととした。・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率(継続)69.9%・授業評価アンケートの回答率(継続)70.3%				

第3期中期計画	評価区	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区	令和5年度計画達成状況	評価区公	自己点検・評価委員会	評価区	内部質保証推進会議
【計画4】(学長戦略本部・企画部) 教育の質保証の観点から、年度計画を 着実に推進するとともに、自己点検・ 評価及が外部有識者による評価を行い、その結果を改善・充実に反映基準協会の認証評価に適切に対応する。 「計画連成のための方策」 年度計画を着実に推進するとともに、 令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するとともに、 行和で連切に対応するため、計画的に準備作業を進める。 「評価指揮」・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、計画的に準備作構」・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価の準備、評価結果	Ш	・平成30年度に大学基準協会による認証評価を受審した結果、是正 動告2件、改善課題件の提言を受けたところであるが、内部質保証 に責任を負う全学組織である「内部質保証推進会議」において、提 言の内容等を有金し改善を図ることとし、その改善結果を「改善報 告書」として令和4年7月末に大学基準協会に提出した。 ・令和5年1月20日付で、大学基準協会から提出済みの「改善報告 書」に対し、「改善報告書検討結果(委員会案)」が示され、概ね大 学の取組は評価されたが、 1. 是正動告では、医療保健学部医療栄養学科、医療情報学科等にお ける空生受け入れに関する定員管理の問題は、今後も更なる改善に 努めること	令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、計画的に準備作業を進める。「評価指標」・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価の準備、評価結果	田田	・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、令和5年度から「教学マネジメントチェックリスト」に基づく点検・評価を本格実施することとして、令和5年10月25日に開催した「東京医療保健大学を語る会」において、「教学マネジメン取得チェックリストに基づく点検・評価の実施に向けて〜具体的な取りの視点について〜」をテーマとし、活発な意見交換を行った上で、「令和5年度教学マネジメントチェックリストに基づく自己点検・評価」については、部局内で「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」ごとに令和6年5月末までに実施し、「学位プログラムレベル」について報告書を作成した上で、企画部宛提出することとした。【詳細は、計画2を参照】	分		分	
【計画5】(企画部)		2. 改善課題については、医療保健学研究科における学位授与方針の 問題の改善や、財務についての財政基盤の確保に努めること との評価を受けたところであり、令和7年度の認証評価の中で今回 の評価分も含め、さらなる改善に努める必要がある。			・令和5年11月20日に大学基準協会がWEBにて開催した「第4期機関 別認証評価に関する説明会」に、亀山学長、松浦事務局長他企画部 職員が参加し、次期認証評価に関する方向性寿について学ぶ機会を 得た。この内容については、令和6年1月17日開催の内部質保証推進 会議において報告した上で、1月18日付で学内関係者に周知し情報 共有を行うこととした。				
内部質保証の状況を、所要の学内会議 に報告した上で、外部有識者等の意の 等を踏まえ、本学の教育研究活動等の 改善・向上を継続して推進するとも に、内部質保証に関する情報を学内外 に公表し、大学としての説明責任を果 たす。 「計画達成のための方策」			【年度計画5】						
・		・令和3年度に係る自己点検・評価については、「令和3年度点検・ 評価報告書」として取りまとめた上で、令和4年5月10日開催の内部 質保証推進会議及び大学経経営会議及び5月22日開催の理事会、 議員会において審議・承認された後、9月28日開催の「外部評価委 員会」において、事前に提出いただいた委員からのご意見等に対す る回答・対応等を中心に質疑応答を行ったところであり、委員から ご指摘いただいた点は次年度の計画等に反映することで、教育研究 活動等の継続的な改善等を図ることとした。 ・「令和3年度点検・評価報告書」は大学IPに公開している。	内部賃保証の状況を、外部負債者等が 委員を務める外部評価委員会、大学経 受会議、理事会・評議員会等の学内会 議に報告し、会議での意見、投言等存 診まえて、本学の管理運営及び教育研 究活動等の改善・向上を継続して推進	IV	・令和4年度に係る自己点検・評価については、「令和4年度点検・ 評価報告書」として取りまとめた上で、令和5年5月10日開催の内部 質保証推進会議及び大学経営会議及び5月24日開催の理事会・評議 員会において審議・承認された後、令和5年10月20日開催の「外部 評価委員会」において、事前に提出いただいた委員からのご意見等 に対する回答・対応等を中心に質疑応答を行ったところであり、委 員からご指摘いただいた点は次年度の計画等に反映することで、教 育研究活動等の継続的な改善等を図ることとした。 ・「令和4年度点検・評価報告書」は大学IPに公開している。				
る。 「 評価指標」 ・外部評価委員会等の開催状況及び ホームページにおける公表状況			「評価指揮」 ・外部評価委員会等の開催状況及び ホームページにおける公表状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	 評価区分	内部質保証推進会
教育研究組織 [計画6] ⑦ (大学院医療保健学研究) 学院医療保健学研究科修士課程ブラ でマリケア看護学領域を令和5年度に開 するための準備を進めるとともに、 間講後適切に運営する。								
「計画達成のための方策」 学院医療保健学研究科修士課程ブラマリケア看際学領域を令和5年度に開 するため、関係機関との調整等を着 に実施し、開講準備を着実に進める ともに、開講後適切に運営する。	ш	・①から③について、計画通り全て完了した。 ・入学試験結果11名が合格した。準備状況においては、非常勘講師 77名、実習施設の確保を完了し、現在は委嘱状の発行、教材作成を 進めている。 ・ ⑦演習教室の確保、⑧シミュレータの検討については、令和5年 前期に改修工事等を行いシミュレータの設置など教育環境の整備を 継続する。 ・また、講師情報の変更に伴って、厚生労働省の変更申請を随時 行っていく。	①4月開講 ②カリキュラムの進捗管理 ③科目試験の管理 後で各者の実習病院決定と厚生局 修正申請	IV	・①から⑪について、計画通り全て完了した。 ・講義・演習では、学外講師77名(内駅: 医師58名、看護師16名、そのほか専門家3名)学内講師8名の協力を得ることができ、計画通り、2023年4月に開講できた。 ・開講後は、カリキュラムの進捗管理、放送大学(特定行為共通科目)学習の進捗および評価管理、科目試験の管理により、設定期間内にすべての院生が履修合格ができた。 ・実習施設、実習指導医、実習指導PP(病院・施設・在宅)との打ち合わせを実施し、実習施設・機合格となった。また、今和6年に同じて実習病院14施設の確保ができ、厚生局修正申請を提出予定である。 ・演習室の確保と修繕を売し、令和6年の授業に向けて演習(OSCE)物品・シミュレータの搬入を行う予定である。 ・特定行為管理委員会は2023年10月に第1回の会議を実施した。 ・令和6年度学生募集と入試により、計16名が入学した。 ・予定8名を超える入学生にともない、令和6年度に教員(診療看題師)1名を学部兼任担当として採用できた。			
「 評価推復」 大学院修士課程プライマリケア看護 学領域の開講準備・運営状況 令和7・8年度) 入学者数、特定行為管理委員会開催 た、修了生の人数、日本PP教育大学院 高議会におけるPP資格認定試験合格 入数、修了後の就業先と職務の状 こ、修了後の学会や研究会等の発表件 な、在学生と修了生との交流及び研修 © 可開催状況			「 評価推復」 ・大学院修士課程プライマリケア看護 学領域の運営状況					
【計画7】(東が丘看護学部・看護学研 (本) は一 は立行政法人国立病院機構との連携協 により東が丘看護学部及び大学院者 は学研究科修士課程・博士課程におい 設置の趣旨を十分活かし教育研究を 青実に履行するとともに、国立病院機 はとの連携協力を一層強化し教育研究 制の整備・充実を図る。								
計画連成のための方策」 令和5年度に看護学研究科に認定看護 理者養成コース、放射線看護専門看 師コースを設置する。 評価指標」 認定看護管理者養成コース、放射線 護専門看護師コースの設置状況		1. 看護学研究科に認定看護管理者養成コースは計画通り設置した。 看護学研究科看護科学コースは、①「教育・研究」②「看護管理 者」プログラムに分け、NHO本部との意見交換実施しニーズ把握 後、②のカリキュラムを作成し、学則改正や、入学者募集等を進め ている。令和5年度は実習施設から看護師長等4名を受け入れる予定 である。日看協への届け出は不要である。収容定員増等の文科省へ の届出は令和5年5月の経営会議終了後届出予定である。	から40名程度に増員する。 「評価指標」	IV	1. 看護学研究科に「教育・研究者プログラム」と「看護管理者プログラム」を設置するとともに、大学院修士課程定員を40名程度に増 員した。そして、学則変更・文科省への届出等諸手続きを完了した。 た。 ・令和6年度入学生は、博士課程を含めて44名と定員を確保した。			

	1						1		
第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
2. 放射線看護研修センターで行っているがん放射線療法看護認定看護師養成課程は、発展的に終了し、上記看護学研究科における大学院教育に注力する。	Š	2. がん放射線療法看護認定看護師養成課程については閉じることとし、大学院のコースとして検討することとした。理由は、①コロナ禍で一カ所に研修会のために集合できない。②コローの影響もあり年月を持っても研修希望者は定員まで集まらない。③専任の設定を取得している指導教員が不在である。以上のような施設の条件が整わず、日看協の協力を得て数カ月努力をしたが、不採算のコースとなるため、大学院で専門看護師コース開設の方が現場のニーズはあると考え、認定コースの中止閉校を決定した。	2. —		2. 大学院としてがん放射線療法看護のコース設置を検討したが、全 国でのニーズが極めて乏しく、大学院としての新たなコース設置は 断念した。				
「評価指標」 ・放射線看護研修センターの円滑な終 了手続き状況	Į.		「評価指標」 —						
【計画8】(千葉書優学部) 独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) との連携協力により、千葉店 護学部において設置の趣旨を十分活か し教育研究を着実に履行するととも に、JCHOとの連携協力を一層強化し教 育研究体制の整備・充実を図る。	i N								
「計画達成のための方策」 1. 全学様式による教員自己評価を継続する。 「評価指標」 ・全学様式による教員自己評価の継続 (1回/年)		1. 全学様式で、教員自己評価を7月に実施した。	【年度計画8】 1. 全学様式による教員自己評価を継続する。 「評価指揮」 ・全学様式による教員自己評価の継続 (1回/年)	IV	1. 全学様式による教員自己評価を5月に実施し、学部長による総括を8月に公開した。				
2. JCHOとの人事交流を継続する。 「 評価指標」 ・JCHOとの人事交流の継続(助手1人/ 年)	IV	2.1名の助手の人事交流を継続している。	2. JCHOとの人事交流を継続する。 「 評価指標」 - JCHOとの人事交流の継続(助手1人/ 年)	IV	2. JCHO船橋中央病院看護師1名を助手として人事交流した(2022~2023年度)。2024年度については適切な人材が選出できず、本制度の評価と見直しを要すると評価している。				
3. JCHOとの共同活動に関するグランド デザインをもとに、人材育成と活用を 進め、点検評価を行い継続的な発展を 図るとともに、成果を公開する。 「評価指標」・JCHOとの共同活動状況(運営協議会1 回/年、未来を語る検討会4回/年、JCHO 学会発表1回/年) 4. カリキュラム改定準備を進める。 「評価指標」	1	新人研修への参加、看護研究に関する共同活動は実施したが、JCHO 学会には準備不足のため演題応募を行わなかった。新人研修、学生 実習を含物界来に向けた検討は継続的に実施しているが、「学生を 語る検討会」としては実施しておらず、次年度以降の課題である。 4.4月に将来構想委員会の下部組織として、カリキュラム評価プロ ジェクトを立ち上げ、カリキュラム評価に関する拡大会議の後、① DPとのシラバス照合	進め、点検評価を行い継続的な発展を 図るとともに、成果を公開する。 「評価指揮」 ・JCHOとの共同活動状況(運営協議会1 回/年、未来を語る検討会1回/年、JCHO 学会発表1回/年) 4.カリキュラム改定準備を進める。 「評価指揮」		3.JCHOとの運営協議会を8月17日に開催した。人材育成に関しては、船橋中央病院での新人研修への参加、船橋中央病院・東京山手メディカルセンター・埼玉メディカルセンターでの看護研究に関する共同活動、公開講座における講師依頼、JCHO学会でのポスター発表を行った。「未来を語る検討会」としては開催をしていらず、船橋中央病院の移転改築も控えて、次年度はグランドデザインとして包括的な視点から評価・対策することが課題である。 4.2022年度より将来構想委員会の下部組織として立ち上げたカリキュラム評価プロジェクトを、カリキュラムプロジェクトとして教				
・カリキュラム改定の準備状況 ・DPと一貫したAPを実現するための検 討状況	And	②全科目の授業評価アンケートの分析、③4年生卒業時カリキュラム評価アンケート、④現行カリキュラムの看護学教育モデルコアカリキュラムとの照合点検(全教員参加)を行い、3月に下戦告会を開催した。令和5年度は、令和6年度からの新カリキュラムを構想する予定。			展的に再構成し、文部科学省の看護学モデルコアカリキュラム改訂の動向を注視しながら、改定に向け活動を継続した。具体的には、①実習前881・0SCEの導入検討、②「育てたい人材像」の検討、③ 文科省モデルコアカリキュラム改訂の主旨・方向性・内容に関する情報収集、等である。8月17日および3月14日には学部全体での検討会を行い、方向性を確認するとともに、今後の課題と進め方について検討を行った。令和6年度も活動を継続し、新カリキュラム(案)を構想していく予定とする。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画9】⑦(和歌山看護学部・看護学研究料・和歌山看護実践研究センター) 生涯を通じて自己研鑽するための支援体制をつくり、生涯にわたって成長し続ける医療人の育成を図る。 「計画達成のための方策」 日赤和歌山医療センターとの協議のもとに、二を行い、一度に対応する。 「評価指標」・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況	IV	・医療職を対象に精神疾患を持つ対象者の地域移行をテーマにした 基本的な内容の学習会を計5回オンライン開催した。本学部の卒業 生を対象に交流会を開催し、前向きに取り組めるよう支援した。 2023年度日赤和歌山医療センターに就職予定学生を対象に基本的技 術を復習する研修を企画した。 ・生涯を通じて自己研鑚ということから、大学院進学について連携 病院には複数回、地域の医療機関には出向いて説明を行った。 ・学習会は5回とも概ね満足の評価を得、さらに経験者対象の学習 会の希望も出された。さらに他のテーマについての希望をもとに次 中度の研修計画を検討している。卒業生の交流会には数10名の参加 があり、前向きになれたとの感想が聞かれた。基本的技術研修の参 加は50名程度を予定している。 ・大学院令和5年度入学予定者は8名で内日赤和歌山医療センターか らは1名であった。今後入学生の確保を検討する。	ニーズを優先した研修計画を実施する。 ・大学院和歌山看護学研究科での学びの意味を発信し入学者の獲得を図る。 「評価指揮」・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況・大学院入学生数(日赤から2名以上)		・学習会「臨床実践を科学的に意味づける-文献検索の意義と方法を知ろう-」を4回にわたって実施した。参加者に本研究科について、参加者に本研究科について、・大学院進学については連携病院には複数回説明会を開催し、実習施設への家内、及び和歌山県看護協会長の協力により県下の医療施設看護管理者に大学院進学の説明と学ぶことを進めていただいた。学部生向けの大学院進学についても説明も行い、興味のある学生の声も聴いている。・学部卒業生を対象に日赤和歌山医療センターとの連携により、院内ラボにおいて就職前の看接技術研修(基礎トレーニング)を行った。今年度は和歌山県下の新就職者立対象とする前段階として、まずは県下の施設管理者における見学希望の周知を行い、施設管理者から複数名の見学希望があった。研修参加者の満足度は高かった。・秋季と奉の2回の学試験を実施の指数を加着の満足度は高かった。・・秋季と奉の2回の学試験を実施のより、大学院入学生数は8名(日赤からは1名)になり、定員を充足できなかった。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
. 教育課程・学習成果									
<mark>○医療保健学部看護学科</mark> 【計画10-1】⑦ 医療保健学部看護学科の新カリキュラ ムの運用と評価を実施する。									
「計画達成のための方策」 ・学年別目標の周知と評価の実施。 ・8ポートフォリオの運用。 ・新カリキュラムのモニタリング・新 現科目の準備・改善・評価の実施。		1. 学年目標(旧:学年別目標)は5月に教授会で承認された。そのため令和4年度入学生への説明は、7月に行った。卒業時到達目標(3・4年生)・学年目標(1・2年生)の自己評価は、4年生は2月13日に実施し、96名が回答した(回答率92.3%)。1~3年生は2月13日に説明し、4月10日までの回答期間を設定した。3月29日現在、1年生88.2%、2年生85.6%、3年生87%と前年度の53.6~59.6%から大幅に上昇した。 2. WebClassの修学カルテを利用し、eポートフォリオを実装し、3月末の卒業時到達春看標・学年別目標自己開始する。3夏季おより表帯も大場におけるポートフォリオの説明を行った。関連事項として、全教員に対し、各科目の別	イダンスで説明 2~3月学年別目標に 沿った学生自己評価の実施。 3. 新カリキーフォリオの運用改善。 3. 新カリキーコラムのモニタリング・新 規料性からのでは、一次では、一次では、 程教育(今年度より追加):大学での 学び方支援プログラムの導入、へルよ データサイエンスプログラム(保健者 護データコース)の普及、教学マネジ		た。次に、2~3月に改めて説明し、学年目標達成度の自己評価を実施した。実施率は、全学年目標だった80%を上回った(1年次88.7%、2年次88.1%、3年次83.7%、4年次81.5%)。 2. WebClassを用いた学修ポートフォリオの1・2年生実施率は、80%以上だった。運用について教員にも調査を行い、一部仕様を修正した。 3. カリキュラム・教育に関する企画は、2回実施した(9/29教学マネジメント企画を兼ねた、3/15カリキュラム企画)。また、カリキュラム評価に関する会議は、4回実施した(/27、9/7、11/14、3/4)。				
「評価指揮」 ・学年別目標の自己評価実施学生数: 0%以上 ・ポートフォリオの実施学生数:80% ・カリキュラム・教育に関する企画の 実施:年2回以上 ・カリキュラム評価に関する会議の開 ・カリキュラム評価に関する会議の開 ・カリキュラム評価に関する会議の開		重みづけワークを行い、担当科目の本学科カリキュラムにおける位置づけを確認する機会とした。2月各科目のDP重みづけがほぼ確定し、その結果を受けて、履修系統図を修正、2023年度以降のディブロマ・サブリメントに適用を開始する。	制への導入準備。 「評価指標」 ・学年別目標の自己評価実施学生数: 全学年80%以上 ・学修ポートフォリオの実施学生数: 80%(1.2年生) ・カリキュラム・教育に関する企画の実施: 年2回以上 ・カリキュラム上評価に関する会議の開催: 年1回以上		4. 大学での学び方支援プログラムは4月から5月まで計3回開催した。出席率は第1回88、196、第2回93、196、第3回96、696と、6096以上で推移した。次にヘルスデータサイエンスプログラム(保健看證データコース)の修了者(2023年度)は20名だった。教学マネジントの理解とカリキュラム・教育体制への導入準備として、7回会議を開催し(4/27、6/6、7/31、11/14、12/22、1/16、2/16)、学科教員に対してはFDを2回実施した(9/29、3/15)。				
			・大学での学び方支援プログラムの出席率、アンケート結果 ・ヘルスデータサイエンスプログラム (保健看護データコース)修了学生数 ・教学マネジメント淳人に関するプロ ジェクト会議:年2回以上 ・教学マネジメントに関する企画の実施:年2回以上 ※2学年別目標、学年目標が混在しており、学年目標で統一						

第3期中期計画	評価区分		令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画10-2】 ⑦ プローバル人材の育成のための取組みを推進する。 「計画達成のための方策」 1. 看陸学科グローバル人材育成に向けた全体権機の検討・実装・評価・改善の実施。 2. 外国人模擬患者を対めの実施。クの総続実施と評価の実施。 「評価指標」・外国人模擬即の実施。 「評価指標」・外国人模擬即者を対象としたシミュレーションプログラム10を以上、アンケート回収率90%以上・レニック先生の英語クリニックの参加者数10名以上(年)、アンケート回収率90%以上・グロブロ会議回数10回/年・活動実績広報件数3件以上		1. 看護学科が目指すグローバル人材とは/必要とされる資質/関連する科目について検討した。学科教員の意見聴取を経て資料を作成した。学生向けの紹介動画も作成し、当初ガイダンスにおける説明準備をすすめた。 2. 令和5年3月3日、6日、7日に実施、参加学生数15名(1~4年次)だった(アンケート回収率50%)。 3. レニック・ニコラス先生がNIT東日本関東病院から移籍されたことにより、レニック先生の時間の確保、謝礼の支払いなどが必要となったことから今後の活動継続については検討している。 【その他の活動実績】・グロブロ会議 11回 年。・活動実績広報件数4件(内訳:リレー講演各回計3回、学科報告会1回)。 ・育成したい人材像を踏まえた「国際看護論(選択)」科目構成(担当者含む)を検討し、次年度開講準備。・リレー講演「世界の医療ケアを知ってみよう」の開催(第1回12月22日レニック・ニコラス先生、第2回1月12日MICHIKの先生、第3回2月10日佐々江龍一郎先生)。申し込み者終数数(オンデマンド視聴者含む)1回目202名、2回目202名、3回目227名(リアルタイムオンライン参加者第1回8名/第2回61名、第3回73名)。	た全体構想の実装。 2. 外国人模擬音を対象としたシミュレーションでは、		1. 学生の関心を高めるための戦略と成果(推進担当:中山、山崎)・ガイダンスの充実(各学年年度当初ガイダンス、動画作成、医愛祭での紹介、ウェブクラス活用、国際交流委員会と連携した情報提供等、メンバーにより授業後等を活用した近報活動)など、学に債報が行き届くようこまやかに広報活動を行った。今年度は、昨年度に対して国際看護論受請生(4名―23名、外国人模擬患者演習参加者(12名―16名)と増加した。2、令和6年3月7、8日実施。参加学生数16名(内訳 1年生7名、2年生1名、3年生8名)外国人模擬患者6名(ベトナム、ミャンマー、指当:大堀)プログラム終了時にアンケート依頼を依頼したことにより回収何時は上昇した。今後のプログラム改善に受力でたい。プログラム終了時にアンケート依頼を依頼したことにより回収何時は上昇した。今後のプログラム改善に受力でたい。1年進程とは、1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年1年				
					【その他の活動実績】 ●グロブロ会議開催 10回(令和5年度) ●看護学科新規プログラムの立ち上げ 令和6年度からの看護学科新担プログラム「グローバル看護人材 育成プログラムー調和のとれた社会に向けて一」英語標記: Globally Competent Nursing Program(GCMP): Embracing Dibersit for a Harmonious Society-」の設置準備(要項の作成、学生向け 履修案内の作成、関連科目に周知)。 補足:GCMPは、看護学科独自プログラムとして、関連科目と活動を ポイント評価し、学科長による認証を行うもの。 ●グロブロ業績の発信 ・2021年外国人患者模擬演習参加者を対象にインタビューして得た 学びのデータを、紀要に投稿・採択決定(筆頭 山崎) ・第43回日本看護科学学会において交流集会の実施(国際看護論設 置と、グローバル人材の育成に関する交流セッションの企画運営 (筆頭 松尾)				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画10-3】		・質問項目の構成は「大学全体の各種相談窓口について」「看護学科のアドバイザー制度について」「"キャンパスライフリーフレット"について」「学生生活サポート制度に対する受け止めついて」「4月5日に実施した新入生への"学生生活ガイダンス"について」である。・結果として、全体の理解度の平均は79%で、満足度はとても満足、まあ満足を合わせて約33% (n-95) と高い満足度であった。自由記述では、相談ができる場所があると知って気持ちが楽になりました、サポートが手厚くてありがたいと感じた、高校生の時とは違い、自分から積極的に行動していく必要があると思いました」など前向きなコメントがみられた。・次年度のガイダンスは、現時点では従来通りの実施で問題はないと判断し計画することとした。	イダンス及びアドバイザー活動を実施する。 2. 新入生ガイダンス実施後に、Formsを用いたアンケートを実施し、アドバイザー制度・アドバイザーを動っている。 ボー学生相談室・障がいず生支援制度の認知度、及びアドバイザー活動の満足度を評価するとに、次年度のガイダンスに向けて成果と改善の場所をは、アドバイザーを実施状況・アドバイザー制度、アドバイザー教		1.2. 看護学科学生委員会では、学生自身の援助希求育成に寄与するために、新入生ガイダンスにて、学生生活ガイダンスおよびアドバイザー活動を実施している。昨年度アンゲートでは従来通りの減少ないまと感が確認されたものの、依然感染に情報提供や交流機会が画問たとした。具具体的にもからの効果が生活を発験を対した、ラインの交流と多中で、先生輩活経験を新けた、を評価といる。今和6月の方とでは、学生生活経験を新けた、を評価といる。今年度の6月へ7月に任意のwebアンでは、大き年の6月へ7月に任意のwebアンでは、大き年の6月、7月に任意のwebアンでは、これらを整まえたガイダンスの海上でする。次年度の6月、7月に任意のwebアンでは、新入生ができた。 報のアドバイザー制度にフロイザーを発展して、一般である。次年度の6月、7月に任意のwebアンでは、大学全体の各種相談窓コルフリーリー・新え生ガイダンスでは、「十年での1月、1月、1月、1月、1月、1月、1月、1月、1月、1月、1月、1月、1月、1				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画10-4】 ⑦ 臨地東習指導者講習会を実施する。 「計画違成のための方策」 1. 臨地実習指導者講習会を、看護学科、	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1. 看護学科実習委員会の担当者3名を中心に企画・運営・評価を実施できた。 2. 9月に2日間の基本知識の講義・演習については、学内教員5名の協力を得て実施できた。 3. 10月から12月に本学の実習を担当していただき、実践を踏まえらっと乗焼することができた。 4. 感染対策により、リモー・研修としたことで、訪問看護ステーシを実施することができた。 4. 感染対策により、リモー・研修としたことで、訪問看護ステーションや老健・特養施設の指導者は参加しやすい環境があった。大方、全体の参加人数が予定より歩かなく留まったを感染状況の中で数に対したがきた。予定人立った方、全体の参加人数が予定よりかながであれてに関してであって、実調者役割のの勤務額整とが影響したと推測できた。予定人立ったという回答であり、他の人にも勧めたということで参加者であり、他の人にも勧めたというになく研修評価をであり、他の人にも勧めたというになく研修評価をは高い、同内容で引き続き開催をする予定とした。 「評価情報」 「評価情報」 「評価情報」 「評価情報」 「おいまでは、第一年の名では、第一年の名で、第一年の名をで、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の名で、第一年の第一年の名で、第一年の名で、第一年の第一年の第一年の第一年の第一年の第一年の第一年の第一年の第一年の第一年の	実習委員会の担当メンバーを中心として、 で表情なる。 て、可修会プログラムは令和元年度の内容を踏襲し、9月に2日間の基本知識の 講義・演習を実施することとし、講師 は学内教員から募集する。 3. 対象者の看護師に10月~12月の実習 指導のリフレクションシート記載をのリ し、1月に名参加者の決置指導体験のリ フレクション演習を行う。 4. 令和3年度から5年間実施し、評価、 その後の継続について委員会内で検討 する。	ш	1. 看護学科実習委員会の担当者3名を中心に企画・運営・評価を実施できた。 2. 9月に2日間の基本知識の講義・演習については、学内教員5名の協力を得て実施できた。特に前年度からニーズの高かった参加者士のディスカッションの時間を多くとった。 3. 10月から12月に本学の実習を担当していただき、実践を踏まええ実習指導者として各自2事例を提出し、1月にグループリフンシを実施することができた。 4. リモート研修としたことで、訪問看護ステーションや老健・特養施設の指導者は参加しやすい環境があった。一方で勤務をしなも必要がある。から、ウーク時の入室遅れの参加者としている状況もあり、ワーク時の入室遅れの参加者配置することで、入室遅れの参加者へのサポートを行うことができた。授業所申のため、学内教員の参加人数には限界があった。「評価指数成状況」 ①研修後アンケート評価講義内容について、理解できた、役立ったという回答が主であり、他の人にも勧めたいということで満足度は高かった。②実習病院・施設の参加者人数・参加者20名(病院:6施設 16名、特養・老健・訪看:3施設 4 2・学内教員9名 計29名				
【計画10-5】 ⑦ 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施する。 「計画達成のための方策」 1. 医療保健学科卒業生を対象としたホームカまングデイネを実施するストル・卒業生活を教員としたとした。 一次では一個では一個では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	k Ш 5 4	学生等5名、教職員27名が参加した。 2. 今年度は今和5年4月より本学大学院にプライマリケア看護学領域 が開設されること併せ「高度な看護実践能力」をテーマに企画し た。また本学の卒業生支援に関する訴求力向上を目的として今年度	としたホームカミングデイを実施する こととし、卒業生によるパネルディス カッション及び運営を教員(看護学科 就職対策委員会)と協働して行う。 2. パネルディスカッションのテーマは 目的に合わせて年度毎に検討する。 「評価指標」 ・ホームカミングデイの参加状况卒業	ш	1. 令和6年1月12日に、対面とリアルタイム配信のハイブリッド形式で開催した。就職対策委員を加えた参加者は、69名。卒業生26名、在学生8名、教職員33名、元教職員2名であった。 2. 今年度は、新人看護師の離職率が10%を超えたことを受け「看護実践家としての壁を乗り越えよう!」をテーマに、第一部を参加者の主とよいで、10小児専門病院で働く3年日を発えたことを受け「有護とスピーカーによるトークセッション、第二部を参加者の目前36、3名をした。スピーカーは、①小児専門病院で働く3年日看護師、②3次救急病院の集中治療センターで働く7年目の看護師・②3次救急病院の集中治療センターで働く7年目の看護師・③3名とした。スピーカーの発表後には、卒業生を中心に活発な意見系統動の3名とした。スピーカーの発表後には、卒業生を中心に活発な意見を換も行われた。終了後のアンケートは、回答数:50名(回収率80.6%)。 全体の満足度では、満足とまあ満足が98.0%であった。交流会では、予定時間を超過して教真や同級生と会話をする率に、交流会では、予定時間を超過して教真や同級生と会話をするまた、在校生らも積極的にスピーカーに質問したリオン通定は妥りまた。今回の3人のスピーカーロラに支に参加者であったとで表でいる。次年度は、医愛祭が立ている。ことを検討している。さまいまがは、「大きないる」といる。「大きないる」とは、「大きないる」といる。「大きないる」といる。「大きないる」といました。「大きないる」といる。「大きないる。「大きないる」といる。「大きないる」といる。「大きないるいる。「大きないる」といる。「大きないる」といる。「大きないるいる。「大きないるいるないる。「大きないる」といる。「大きないるいるないる。「大きないるないる。「大きないるないるいる。「大きないるいるないる。「大きないるいるいる。「大きないるいるいるいる。「大きないるいる。「大きないるいるいる。「大きないるいるいるいるいるいるいるいる。「大きないるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいる				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
の提供や食育媒体の提供を行う。 「評価指標」 ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院主子等の提供を実施:3回/年 ※COVID-19感染拡大状況により、「せたがやハウス」での食事支援活動が可能になれば、食事提供を実施:1~2回/年 ・主に「せたがやハウス」を利用し、付き添い入院している家族へ食育媒体の	IV I	1.4回の実施を計画し、ボランティア学生を募り、延べ7名がボランティア活動を行った。 2.焼き薬子および食育カードを作成し、計3回の提供を実施した。 ・上記の通り、ほぼ予定通りの進捗であったが、本活動は社会貢献活動を複数実施している。そこで、次年度から、第9章に新たな計画 動を複数実施している。そこで、次年度から、第9章に新たな計画 として「地域への社会貢献活動の推進」を設定し、本活動もその中で進めていく。 ・一方、医療栄養学科では、過去から教育の改善活動を継続的に進 めている。そこで、次年度の計画に「教育の質の由上」、「リメ ディアル教育の改善」を追加し、それらの活動を見える化する。	大 		_				
提供:3回/年・ボランティア学生:4名程度×3回=12名 【計画11-2】 「網にリース で	I	・東京医療保健大学医療栄養学科令和4年度年度卒後教育を対面にて開催し、16名の卒業生が参加した(令和5年3月18日)。 ・今年度は今後の実施方法の見直しを図るための調査に重点を置いたため、年度計画を達成できていない。 ・卒業生のニーズ把握を目的に、9月に卒後教育に関するWEBアンケートを医療栄養学科卒業生に実施し、148名から回答を得た。その結果、医療分野に限らず幅広い分野の情報提供を求めていること、卒業生同士の情報交換の場が必要であることが明らかとなった。 ・そこで、次年度以降は病院の管理栄養士だけを対象とするのではなく、対象を広げて「卒後教育の拡充」を計画として掲げ、講義内容および運営方法を改善する。	会を、講義、演習、ワークショップが と様々な学習形態で実施し、卒業生に 向けて参加を募集する。また、企業の 協力と卒業生に講師の依頼をする。 「 評価指標」 「 評価指標」 「 評金 の実施回数:年3回以上かつ年間 の参加者数を卒業生・一般で100名以上 は	なこ D 引	・令和5年度は3回開催し、延べ95名が参加した 第1回「ケア環境研究所の夏野菜を活用した料理教室」令和5年8月 19日 参加者32名 第2回「臨床現場の研究報告会」令和5年8月30日 参加者22名 第3回「臨床投傷二子や豆腐を活用した料理教室」令和5年3月9 多加者41名 ・今年度は昨年度のWEBアンケート結果をもとに企画した。臨床現場での研究結合会では、研究に興味があるが実施できていない卒業生を中心に参加があり、実施後アンケートでは、満足度100%、次 回の参加希望100%であった。 ・今年度は卒業生だけでなくその家族や職場の同僚等も参加可能としたが、今後も引き続き卒業生と以外の参加も受け付ける。 ・今後を引き続き卒業生と以外の参加も受け付ける。 ・今後希望する内容として、「食育分野の報告会」「具業種交流会 (病院、会社、学校等)」などが多かったため計画に組み込んでいく。 ・今年度は1名の学科内教員、3名の卒業生・修了生、1名の管理栄養士に講師依頼したが、次年度は学科内教員への依頼を増やしていく。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画11-3】 ⑦ 卒業時に管理栄養士国家試験合格が叶わなかった卒業生に対し卒業後に管理栄養士免許を取得できるように支援する。 「計画速成のための方策」 1. 卒業生向け管理栄養士国家試験対策 講座を在校生の特別講義と同時開催する。 2. 卒業後にガイドラインの改訂などがあった場合は、卒業生対象に請座を開	IV IV	2. ガイドライン改訂などの情報提供を希望した卒業生にメールで情報提供を継続した。また、一部の科目について対策講座の動画配信を始め、卒業生に動画配信の案内メールを配信したが、視聴希望者はほぼいなかった。							
講する。この場合、日常業務と並行しての講座は日程調整で困難があるため、講座は動画配信で開請する。 「評価指標」 ・参加者の合格率50%以上		・上記の通り、講座の希望者がほぼいなかったため、本計画は一旦 中断する。一方、次年度から対象を広げる予定の計画11-2「卒後教育の拡充」の中で、本活動も含め卒業生に対し何に注力すべきかに ついて、再検討する。	「評価指標」 		-				
【計画11-4】 ⑦ 既卒であっても本学で栄養教諭一種免 許を取得可能とし、学校栄養職員から 栄養教諭への任用替えを目指す卒業生 への支援策を検討する。									
「計画速成のための方策」 本学科栄養教諭委員が担当し、科目等目 履修にて栄養教諭委員が担当し、契な科目 (栄養教育実習を含む)を修得できる 時間割・組織を構築することが将来的 に可能が調査を行う。 1.他大学の取組状況から本学で教職生 国際修可能な状況を見出し、可能の 研究する。 2.時間割作成について、重点として取		・本大学における科目等履修に対する規定に従い、医療栄養学科において、卒業生の教職科目履修の支援がどこまで実施可能か調査した。組織については、学科内の教職課程委員会が対応するだけでなると判明した。また、時間割内の受講は可能であると判明した。・一方、本学卒業生の希望者がほぼいなかったことから、本計画を地独で進めることは一旦中断することにした。その上で、今後は、次年度から対象を広げる予定の計画11-2「卒後教育の拡充」の中で、本計画も含め、何に注力すべきか、改めて検討していく。			_				
り組む。 3. 本校動務者並びに非常勤講師招聘が 可能か調査研究する。 「 評価指標」 ・調査研究の実施状況等			「評価指標」 		_				

第3期中期計画	評価区	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区	令和5年度計画達成状況	評価区	自己点検・評価委員会	価区	内部質保証推進会議
【計画11-6】 ⑦ 古代食の再現研究について、独立・日政法人文化財機構奈良へいけ研究を引き続き実施し、研究氏を通じ、成果発養を持つ。 「計画速成のための方策」独立行政立法と文化財機精館との大きが受力が、国立行政法人文化財機精館との大きが、国立行政法人文化財機構館との大きが、国立任度と科学研究費はおける方式のより、「計画とは、令和5年度と対する事業をのよう。本代食の多みた疾病、古代食研究などで、大きなが、大きないが、またないが、大きないが、はないが、大きないが、はいいが、はいかいが、はいかいが、はいかいが、はいかいが、はいが、はいかいが、はいいかいが、はいかいがいが、はいかいかいかいが、はいかいかいが、はいかいいいはいいかいが、はいかいいかいがいがりにはいいが、はいかいが、はいいかいが、はいかいが、はいいかいがいがいが、はいいかいが、はいいかいが、はいかいが、はいかいが、はい	ш	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響から海外調査は出来なかったが、国内調査に変更して古代の食品の再現実験を行った。国立歴史民俗博物館に加え新たに独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所とも共同研究を行い、西大寺食堂院跡出土の遺物について土器の化学分析も加えて共同研究を行った。それに関して令和5年3月に「西大寺食堂院シンポジウム」を開催して、全国に成果報告を公表した。 令和5年3月に吉川弘文館からその成果報告書として、『古代寺院の食事を再現する』を刊行した。	調査の実施。 ①奈良を中心として発酵食品の研究 ②静岡県沼津市・西伊豆町を中心とす る遺跡・遺物の調査と古代堅魚製品の 再現	<i>ℜ</i>	・奈良文化財研究所と本学で再現実験を行い、試料についても調理学・食品衛生学・栄養学などの分析を行い、成果を出した。またるの成果についてシンポジウムを行い、『カツオの古代学』として公刊する予定である。 ①今年度の研究計画であった発酵食品の再現実験であるが、奈良県御所市の油長酒造の協力の下、古代米と復元須恵器を用いた古代酒の再現実験を行い、『長屋王の酒を醸す』(庄田慎矢編吉川弘文館 2024年刊予定)に「古代史料に見える整酒づくり」として発える予定。 ②静岡県西伊豆町において地元の企業と協力して、古代の堅魚製の再現実験を行った。この成果は『カツオの古代学』(三舟隆之・馬場基編吉川弘文館2024年刊行予定)で発表する。			分	
【計画11-6】(令和5年度より新規)学生の主体的な学びを推進するとものでを推進するともできた。			【年度計画11-6】 ・各セメスターの終了時に、学修ポートフォリオを用いた振り返りと自己評価を学生に指導する。 ・能動的・計画的に国家試験外策を実行ンスや模擬試験の実施、ICT利定講像、ガオによる個外最適化された数材や対策講座の提級で行う。、ブ・ラーニング等の能動的授客や教授方法の高度化のため、教員にFD研修会への参加を促す。	ш	・新年度ガイダンスで学生に学修ポートフォリオについて説明を行った。また、教員へは教授会で、学生に学修ポートフォリオの成と提出を促し、学修ポートフォリオをもとに指導することを依頼した。学生にはWebClassで提示されるディブロマサブリメントから「GPA値を読み取り学修ポートフォリオに記入させたのち、自己分析と次期セメスターの目標を記載させ、WebClassで提出させた。アドバイザは提出された学修ポートフォリオを学生指導で利用した。学のボートフォリオにより学修の振り返りと自己評価を行った学生の割合は、89.1%であった。(1年生:90.3%、2年生:83.5%、3年生:94.7%)				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
「 評価指揮」 学修ポートフォリオにより学修の振返りと自己評価を行った学生の割合。(今和8年度) 管理栄養土国家試験合格率 全国平 リ以上・アクティブ・ラーニングを取り入れ いる講義・演習の割合 55%(令和8 度度) FD 研修会に参加した教員の割合 9%(令和8年度)、授業評価アンケー 学科平均値が前年比で2%増			「評価指標」 ・学修ポートフォリオにより学修の扱 り返りと自己評価を行った学生の割合 80% ・管理栄養士国家試験合格率 全国平 均以上 ・アクティブ・ラーニングを取り入れ ている講義・演習の割合 45% ・FD研修会に参加した教員の割合 90%、授業評価アンケート 学科平光 値が前年比で2%増		・自主的及び計画的に国家試験対策ができるよう、国家試験対策委員合外部講師によるガイダンスを実施した。試験問題への挑戦員員による授業、外部講師を招いての対策講座を、1回2時間を目途に、45回実施した。模擬試験は5回実施した。また、WebGlassで国家試験の過去問を、オンラインで受講できる験合グループの管理策者士教育支援システムを提供した。また、事務部と協力して学生が養士教育支援システムを提供した。また、事務部と協力して学生が自習できる教室やスペースを確保した。第38回管理栄養士国家試験の合格率は、本学・64.6%、全国:87.2%)であった。 ・外部講師を招き、「医療系カリキュラムにおける知識教授を目的としたアクティブ・ラーニング」のFD研修会を施した。アクティブ・ラーニングを取り入れている講義・演習の割合は、60.4%であった。 ・教授会及び電子メールで、学科内教員及び全学教員へFD研修会への参加を呼び掛けた。FD研修会に参加した教員の割合は、75.0%で助した。授業評価アンケートでは、学科平均値が前年比で8.7%減少した。ICIの利活用やアクティブラーニングの取り入れなど、学修の充実に関する情報提供を継続し、授業評価アンケート結果の改善を図る。				
【計画11-7】(令和5年度より新規) 原門性を高めるための基盤となる基礎 建力を向上させるため、リメデるるアル 対育を充実させ、その教育を継続する。 「計画連成のための方策」 新入生の学力把損の実施 リメディアル教育の継続的な改善 アルガイアル教育の継続的な改善 アリメディアル関連科目受講推奨者の 優修率100% 令和5年度リメディアル国語開設 リメディアル教育の改善実施			【年度計画11-7】 ・新入生の学力把握とその結果に基づくリメディアル教育の実施・リメディアル国語開設に向けた準備と教育実施 「評価指揮」・リメディアル関連科目受講推奨者の 履修率100% ・リメディアル国語開設	i	・入学時の化学・数学・英語テストの平均点は前年度新入生とほぼ同等であり、入学区分別では、例年通り総合選抜・推薦の方が一般・共通テストよりも低い傾向。一方、今年度開始の国語のテストに入学区分別の差はなかったが、大学生としては不十分な得点。・テストの低得点者に対し、オリエンテーション時、授業後の対面、メールを利用し、リメディアル関連科目の受講を推奨。 結果しして、低得底部20%。リメディアル関連科目の受講を推奨。 リメディアル関連科目の受講を推奨。 リメディアル国語320%。リメディアル国語は今年度計率の原因と推測。 ・リメディアル国語受講者のアンケートによる満足度は高く、利目として必要と考えられたため、次年度から選択科目として「実用国語」を開設することに決め、開設の準備を実施。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
D <mark>医療保護学部医療情報学科</mark> 【計画12-1】 ② ocity5. Oに基づくヘルスケア情報人材 験を確立し、高等学校、実習先、就職 も・進学先など社会におけるステーク にルダーからの信頼を勝ち取る。									
「計画連成のための方策」 poitty5.0におけるヘルスケア人材像や その背景の書籍化及びカリキュラムの 直直し・実装等を推進する。 「評価指標」 入学定員に占める学生の割合100% 実習先の実習系科目における肯定的 指導者評価75%超 就職先における肯定的な上司評価75%		1. 学科教員および有識者に執筆を依頼し、原稿の収集は9割程度終了した。校正作業を進めており、令和5年度前期中に出版予定である。 2. カリキュラムの見直しを行い、学生の多様性に対応できるように選択科目を多く配置する。令和5年度年度入学生より、新カリキュラムを実施する。・令和5年度の入学定員に占める学生の割合は60%で、目標不達となった。学生募集部主体から、学科教員、世田谷事務部が一体となって、募集活動に取り組む体制に再構築を行っている。・病院実習における肯定的な指導者評価は100%であり、今後もこれを継続したい。 就職先における上司評価は、新型コロナウイルス感染症による面会制限もあり、令和年度は調査が行えていない。令和5年度中に実施できるよう検討したい。	実装。 「評価指標」 ・入学定員に占める学生の割合100% ・実習先の表質系科目における肯定的な指導者評価75%超 ・就職先における肯定的な上司評価75%超		・2023年度入学者から新カリキュラムを適用し、その新DP/CPに基づくアドミッションポリシーの適用を行っている。 ・入学定員に占める学生の割合は60%を下回っており、入試広報部、世田谷事務部とも連携して抜本的な対策が急務である。 ・新カリキュラムに基づく人材像を取りまとめた書籍を刊行したため、これを配布するとともに実習失からの評価を定性的に調査しはじめている。現時点では肯定的な評価が多いので、その調査結果を2024年度に取りまとめたい。				
【計画12-2】 ⑦ 葉生への生涯学習支援として、卒業 の資格試験取得に向けた学習サポー を実施する。									
計画連成のための方策」 業生向けの医療情報技師等の資格試 講座を開講する。 評価指揮」 卒業後3年以内の推奨資格(医療情報 師等)取得者15名以上		・卒業生の就職先企業における資格取得講座を継続し、12名の若手 社員(本学以外の卒業者も含む)は受験し、6名が合格または科目 合格した。新型コロナウイルス感染症の影響もあり対象拡大できて いないが、より多くの卒業生に還元できるよう方法等の見直しを 行っていきたい。	取得ニーズがないか把握する。 「評価指標」		・卒業生の就職先企業における資格取得講座を継続し、3名が合格した。新型コロナウイルス感染症の影響もあり対象拡大できていないが、より多くの卒業生に還元できるよう方法等の見直しを行っていきたい。				
【計画12-3】 ⑦ 「要・学会誌への投稿を推進する。 「計画連成のための方策」 ご要・学会誌への投稿がスムーズにできる。 「計画連成のための問題にを抽出し、今後のアラションとスケジュールを決定する。 「評価指標」 学科全体として、英語論文を3本/年 は上公表		・国際会議抄録(Proceedings)の掲載実績はあったものの、英語論 行動にの掲載実績はみられなかった。なお、医学中央雑誌にお ける令和4年度の一人あたり記事数は0.81本/人であり、大学全体の 0.77本/人よりは若干高いものの、十分とはいえないので改善を 図っていく。			・英語論文の掲載が1件及び掲載決定が1件あり、目標を達成した。 このほか国際学会発表が4件あった。徐々に国際学会での発表が復 調し始めているので、その成果を学科のブランディングにもつなげ ていきたい。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○東が丘看機学部 【計画13-1】 ○東が丘看機学部 【計画13-1】 ② 音鏡	IV	1. 全領域でアクティブラーニングを取り入れた授業(講義・演習) に取り組み、その達成状況はほぼ100%であった。また、全領域の 計画・実施・評価に関する資料(全4ページ)を作成し、全領域で よった。以上2点から、今年度の取り組みは達成率100%とした。 2. 全領域で演習科目および技術項目を決定し、方法・内容を見直し に取り組み、その達成状況はほぼ100%であった。また、全領域で 計画・実施・評価に関する資料(全4ページ)を作成し、全領域で 共有した。今年度は看護過程の展開事例について情報交換を行っ た。以上2点から、今年度の取り組みは達成率100%とした。	入れた効果的な授業計画・展開する。 また、各領域で実施しているアクティ ブラーニングに関する情報を共有す る。 2. 看護実践能力の基盤となる知識・技		1. 全領域でテーマや計画に沿ってアクティブラーニングを取り入れた授業(講義・演習)に取り組んだ (100%)。それぞれのKPI・計画・実施状況および評価(達成度を含む)に関する資料(全4ページ)を作成し、全領域で共有した。以上2点から、今年度の取り組みは達成率100%とした。 2. 全領域で演習科目および技術項目を決定し、方法・内容を見直しに取り組んだ(100%)。それぞれのKPI・計画・実施状況および評価(達成度を含む)に関する資料(全4ページ)を作成し、全領域で共有した。以上2点から、今年度の取り組みは達成率100%とした。				
【計画13-2】 ⑦ ボランティア活動やボランティア・アナクルが定着し、4年間を通じて学生ー人が最低1回はボランティア活動に参加する。 「計画達成のための方策」 1. 学友会や学生サークルと連携し、学生のリクルートを積極的に行う。 2. コンタクトグループの前後に学生に連絡を行い、情報を周知する。 3. 学生サークルの活動が円滑に行えるようにサポートする。 4. ボランティア活動・ボランティア・サークルの推進について、学友会と連携を取り支援していく。 「評価推奨」・各種ボランティア活動の参加状況	· IV	1.2.3.4. コロナ禍の影響を引き続き受けており、登校制限や学生サークルの活動の自粛がみられた。また、コンタクトグループの活動も10Tによるミーティングのため、参加率も低下していた。しかし、今年度より、目黒区との地域連携を推進するため10月9日(日)に開催された「第46回目黒区民まつり」に学生ボランティアを10名派遣した。また、東戸底療センター主催の災害訓練に80名のボランティア学生を派遣し、さらに目黒区消防団に135名登録しており、約450名の東するという目標は達成できていると考えられる。今後は年度計画を遂行していくと共に、新規で参加する学生やボランティア活動を増やしていきたい。	生のリクルートを積極的に行う。 2. コンタクトグループの前後に学生に連絡を行い、情報を周知する。 3. 学生サークルの活動が円滑に行えるようにサポートする。 4. ボランティア活動・ボランティア サークルの推進について、学友会と連携を取り支援していく。 「評価推欄」	IV	・コロナ禍も落ち着いてきており、多少の活動制限はみられたが平時の活動に戻りつつある。その一環として、コンタクトグループも対面での活動に移行した。 ・目黒区との地域連携を推進するため10月8日(日)に開催された「第47回目と民まつり」に学生ポランティア5名及び教職員3名を・東京医療センター主催の災害訓練に約110名のボランティア学生を派遣した。また、目黒区消防団に173名登録しており、約450名の東が丘看護学部の学生が4年間で最低1回のボランティア活動に参加するという目標は達成できていると考えられる。今後は年度計画を遂行していくと共に、新規で参加する学生やボランティア活動を増やしていきたい。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○立川看護学部 【計画14-11 ⑦ 立川看護学部 【計画14-11 ⑦ 立川看護学部 「計画14-11 ⑦ 立川看護学部の「をよ場では大きに、 にしているのでは、大きに、 にしているのでは、大きに、 にしているのでは、大きに、 にしているのでは、大きに、 にしているのでは、大きに、 にしているのが、 にしているのが、 にしているのが、 にしているのが、 にしているのでは、 にしているのが、 にしているのでは、 にいるのでは、 にいる		1.全科目についてアクティブラーニング(AL)の実施状況についていた。に、実施率は95%で、82%の科目で複数のALが実施されていた。これらの結果を踏まえ、全教員参加によるFDを開催、ALに関する情報共有とディスカッションを行った。ALに関しては、現状の主要を開始できたことから評価する。 2.卒業時の書護技術の到達度については、実習検討委員会で分析を行っており、習得状況については情報を共有した。また、各領域で海でおり、習得状況については情報を共有した。。また、各領域で河・実習・実習得が新カリから変更しており、到達度の評価が適切かどうかを変更しており、到達度の評価が適切かどうかと変することも今後の課題である。 3.令和2年カリキュラムから、災害看護学に関し、必修科目5科目・修選することも今後の課題である。 3.令和2年カリキュラムから、災害看護学に関し、必修科目5科目・修工となって検討を行った。学年進行に伴い、災害看護での工作の政策に対して検討を行った。学年進行に伴い、災害看護の主に関係的に実践力を高めるものとなっているが、授業内容に重なりが助議・技術および地域を見据えた防災・減災の学習が必要であるとのは、接続なび地域を見据えた防災・減災の学習が必要であるとのとのは、	活用等について、全科目の20~25%の 見直しを行う。達成度の割合の増減を評価する。令和8年度の目標値の達成を目指す。3、新カリキュラムの進捗状況ととなる。、災害看護学コースに関連す組む。こ、災害看護学コースに関連す組む。をでの科目の学修評価・改善しを行う規定。と、副専攻災害看護学コースに、修了書を渡す。	<u></u> 皿	1. 新カリキュラムの進捗状況: 新カリキュラムは1・2年次の学生にフトリーでは、1・1・2年次の学生に対している。今年度は科目ナンパリング、新カリキュラムトコームのマッラム全体の総確認をした。結果、新カリキュラムのアッラム全体の総確認をした。結果、新カリキュラムのPIC向内容を取り目標の積み重ね状況を確認・整理したりの音楽をでの積み重ねが月でリスティグシスにはいて学生のでは、一般では、10年の大きに対応が、10年の大きに対応する実践力を強化する、10年の大きに対応する実践力を強化すること、よりをと乗き者に対応する実践力を強化すること、よりを主要を指導を対している。10年の大きに対応する実践力を強化をしていた。10年の大きに対応する実践力を強化をしている。10年の大きに対応するまた。10年の大きに対応する実践力を強化をしているには、10年の大きに対応するまた。10年の大きに対応するまた。10年の大きに対応するまた。10年の大きに対応するよりに対応が、10年の大きに対応が、10年のよりに対応が、10年の大きに対応が、10年の大きに対応が、10年の大きに対応が、10年のように対応が、10年の大きに対応が、10年の大きに対応が、10年の大きに対応が、10年の大きに対応が、10年のよりに対応が、10年の大きに対応が、10年の大きに対応が、1	分			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画14-2】	ш	1. 自己採点結果での判断ではあるが、必須問題はクリアしているが、一般状況設定問題の合格ラインが64%以上なら1名不合格となる。受験勉強していない学生が親の勧めで受験をし、56%しか取れていない。 2. 100%就職の内定は頂いたが、卒業前に看護師以外の道を選ぶ学生が出てきたため評価を引き下げた。 3. 卒業生のメールアドレスを作成中であるがまだ、3割程度である。更に、就職先も変更している状況であり。連絡先の確保ができていないが、卒業生に演習指導の協力が得られ、本人たちからも「今後も協力したい」いう要望が聞かれた。 ・次年度は、連絡先が分かる学生からホームカミングを実施していけるように計画立案する。	2 8月末までに就職内定90%以上(進学 希望者を除く)、卒業時就職・進学率 100%をめさす。 3. 卒業後の支援体制を構築する。 「 評価指標」 ・看護師国家試験合格状況 ・就職内定状況 ・卒業後の支援体制の構築状況	II II	1. 本年度は成績不振者の下位20名に対し、業者の講義を入れ、全員合格対策の一つとした。自己採点結果では、受講した学生は全員ではないが合格ラインに入ってきており、受講を進めたが、金銭的理由から受講しなかった学生は、合格点に達していない結果であっる。最終的な合格者は110名(97、396)であり、全国の大卒平均93、596より高いものの、目標の全員合格には届かなかった。と表験に関しては、8月末の時点で内定率1896だったが、報告が遅れている学生に再確認したところ内定率は90%に達し、10月10日時点では394%であった。最終的に1名は看護師に向かないと判断した。3、卒業生支援体制として、3月6日にホームカミングテルを対しとして、3月6日に大ルムカミングラできたため、目標の100%を達成したと判断した。4、2年生支援体制として、3月6日にホームカミングラできたため、同様の100%を達成したと判断した。そを移れがある2年できたがある342名に連絡したが、7下ドレス変更などのためにうまくメールが届かない状況が多く感があり、1期生を中心に14名の参加があった(連絡が2月が多く寄せられら、1期生はちようどステップアップや転職等を見考える報からり、1期生はちようどステップアップや転職等を見考える場合いのより、1時に付よの体制を受講した人には転職が多を経緯を報告して、5、11期生はちようどステップアップや転職等を見考える時にあり、特定行為研修を受講した人には転職が多径経緯を報告してもらったのを始め、大学は大きには転職が多く経緯を報告してもらったり、結婚した人や子供がいる人には町での経緯を報告した人や子供がいる人には取りを発きを報告してもらっなど、各自が近辺報告をし、7の内法についてディスカッションすることで様々な環境とその対処方法、参加者に関係を出し、3月に開催することとしたい。	2		2	

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
の出席率を各学年80%以上に維持する。 2. 新入生合宿研修での学科プログラム の企画運営を効果的に行い、参加学生 の満足度を80%以上にする。		1. 前期は全学年80%以上の参加率であったが、後期は4年生の参加率が低下していたため評価を引き下げた。 2.3年ぶりに新入生研修が行われたが、今回は学生支援センターが企画運営し、学部(学科)では企画運営に関与していない。 ・新入生研修の運営方法の変更に合わせ、計画内容の見直しが必要である。 3.3年ぶりに令和4年11月5日、6日に医愛祭が行われ、学部(学科)企画を行った。両日とも80名以上の来場者があり、災害に関しての認識ができた。等の意見が多かった。 4.事務部を通して、立川市、立川警察署、日赤等のボランティア募集のアナウンスができた。 ・学生の各種ボランティアへの参加は増加しているが、個別には現状が把握しきれていないため、今後は学生のボランティア参加経験についての状や握を行う。 ・老人保健施設でのボランティア募集に際し、学生のボランティアの参加応募があった。	の出席率を各学年80%以上に維持する。 2. 新入生合宿研修での学科プログラム の企画運営を効果的に行い、参加学生 の満足度を80%以上にする。 3. 医愛祭での立川看護学部の企画イベ ントで地域に貢献する。両日80名以上 の来場者を確保するとともに、学生ボ ランティア10名以上を確保する。 4. ボランティア活動参加の活性化を図る。 ・プランティア活動に関する情報提供 を年2回以上行う。	ш	1. コンタクト・グループミーティングの出席状況は、前期開催80.5%、後期開催62.2%であった。 2. 新入生合宿研修の形態およびプログラムが変更となり、学科プログラムが無くなったため、評価不能である。 3. 医愛祭での(学科企画への)来場者、学生ボランティア数・ボランティア活動の参加状況については、令和5年11月4日が114名、5日が74名、計188名の来場者があった。また、学生ボランティアの参加は、ACTへの参加が10名以上あった。 4. 学生ボランティア活動は、立川消防団、赤十字奉仕団、立川シティマラソンなどへの学生の主体的な参加と活発な活動があり、ボランティア活動の活性化が図れた。情報提供は3回以上実施できた。医療機関や老人保健施設などへのボランティアは、コロナ等の関係でまだ控えることにした。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画14-4】		1.6月23日(木)に各実習施設と立川キャンパスで対面・オンラインのハイブリッド形式にて開催した。全体会として2021 年度の実習実施報告、臨地実習実施上の工夫や課題について説明し、20施設(来校5施設)から48名の実習担当者が出席した。 2.12月12日(月)に主たる実習施設と連携会議をハイブリッド形式で実施した。教員と実習施設の実習担当者と実習指導に関するディスカッションを行い、交流も図ることができた。3.4年次生に調査を実施した。到達度60%未満の項目は、178 頃事、45%1の到達は前年度と同様に到達度が低かった。到達度の低・45%1の到達は前年度と同様に到達度が低かった。到達度の低り4.第42回について各領域で到達は前年度と同様に到達度が低かった。力達度の看護実践力を育むシームレスな教育のあり方」について実現後との看護実践力を育むシームレスな教育のあり方」について実現をと共同で交流集会を開催した。シームレスな教育を負り済また看護技術教育に関する基礎的研究について成果発表「口演・示意と行った。5、今年度は臨地での実習ができたため、学内実習のための教材作成にな至らなかった。来年度以降に臨地実習が可能になれば、学内実習のための教材作成に取り組みたい。また、VRを利用した教材作りも行う予定である。	施。 (1回/年) 2. 看護学実習連携会議の実施。 (1回/年) 3. 技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討。 下東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コース4年次生の看護技術卒業時到達度達成の到達度60%以上の項目が90%以上。 ・到達度未達成(60%未満)項目の共有及び対策の検討。 (1回/年) 4. 大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究。 ・大学と実習施設による共同研究の実施。 (1回以上/年) ・学術集会での成果発表。 (1回以上/年)	IV IV	1.6月22日 (木) にハイブリッド形式にて開催した。実習施設数 19施設(対面:6施設、オンライン13施設)実習担当者48名、教員 2.12月11日 (月) に災害医療センター、村山医療センター、共済立 1.18 項目中9項目 (5.1%) コロナの影響で実施でき方で、対人関係でデル人形で実施できたと転じた項目があった一方で、対人関係がモデル人形で実施できたと転じた項目があった一方で、対人関係 1.18 項目中9項目 (5.1%) コロナの影響で実施でき方で、対人関係 1.18 項目中9項目 (5.1%) コロナの影響で実施でき方で、対人関係 1.18 項目中9項目 (5.1%) コロナの影響で実施でき方で、対人関係 1.18 項目中9項目 (5.1%) コロナの影響で実施でき方で、対人関係 1.18 項目中9項目 (5.1%) まないの表達した。 2.18 項目中9項目 (5.1%) まないるが監督による時間が短いなった。 コロナの影響で病棟にいるが監察された。 2.18 報題がかかかった。 コロナの影響で病棟にいるが監察に有いるがといるがとなれた。 4.第43回日本看護科学学会学術集会にて「看護系大学と実習施設に向けた取り組みみー」について実習施設と交流集会を全面の多様な実のリカナルのより行を取り組みの実施とする。 4.第43回日本看護技術の検討一実践的な「60VIPの違い」についた。 4年度と領域でアストルの違い」についた。 今年度と領域で実習記録を電子化し、看護技術到達度ポートフォリオもF. CESSで一元化した。また、実習記録の標準化を図った。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
を利用して、大学の社会貢献活動の重要性を丁率かつ適切に伝え、学生が主体性を持って入動のは、ことをもよって入動の様子を広くPRし、		1.471名の内、151名(32.1%)が消防団に所属していることから全学部生の30%以上の加入を満たしている。 2.概和名訓練・行事への出席率は30%は上を満たしているが、今年度の出初式(1月8日開催)については、成人式に出席する団員が複数いたことから出席率が30%未達だった。 3.応募期間内に立川市が設けている規定参加枠(60名程度)の人数を満たした。	防団)活動の活性化。 1. 立川市学生消防団に所属する学生 数。全学部生の30%以上加入 2. 立川市学生消防団における主な訓 練・行事への出席。平均出席率コロナ	IV II	1. 立川市学生消防団に所属する学生数は、各学年 32名、39名、34名、37名の計142名であり、全学生数46名の31.1%であった。2.1年の任命式は30名(21%)であったが、11月の総合防災訓練は17名(12%)1月の出初式は20名(19%、4年生は除く)であり、年間の出席率は15%に留まった。ポストコロナに向け、消防団員としての自覚を促し、出席率の向上を図りたい。3.上級救命講習の受講者は10名(31%)であり、全団員の資格取得者は67名(47%)となっている。				

第3期中期計画	評価	令和4年度実績	令和5年度計画	評	令和5年度計画達成状況	評	自己点検・評価委員会	評	内部質保証推進会議
333797 1 79381 🖂	価区分		IN THE TAXABLE	価区分		価区分		価区分	
【計画14-6】 ⑦ 立信 14-6】 ② で	IV IV	1. オーブン・ミニオーブンキャンパスを合わせて3回開催した。そのうち2回が来校型とWEB型のハイブリッド、1回が来校型単独であった。来校型の参加者は年間計約700人であった。実施後参加者2個別更学会を来校型学科説明会に機能拡大して開催した。これらへの参け名説明会を1回開催した。これらへの参い者とんどが実施後アンケートにでは回答者のほとんどが満足と答えた。3. 来校型学校推薦型入試説明会1回を開催した。参加者アンケートにでは回答者のほとんどが満足と答えた。4. 出張請座を計5回行った。とかし、どの回答者のほとんどが満足と答えた。4. 出張請座を計5回行った。しかし、どの回答はとんども良いた。これらのごとも活発で、拍手なども盛んに受けた。これらのごと参加者満足度は70%以上と判断した。	ニオーブンキャンパスの開催。 ・オーブン・ミニオーブンキャンパスの開催数。3回 ・オーブン・ミニオーブンキャンパス 参加者。満足度70%以上 2. 来校型による、個別見学会の開催。 ・個別見学会の開催数。3回以上 ・個別見学会の夢加者。満足度70%以上 3. 来校型・WEB型による、入試説明会の実施。 ・入試説明会開催数3回以上 ・入試説明会制工者。満足度70%以上 4. 出張請座の実施。	IV	1. 広報イベントの実施状況 全広報イベント参加者合計: 753組(約1520名) 1)参加者授業体験型オーブンキャンパス 目的: 参加者が在校生、教員、授業などに直接触れ、本学部を良く が3520 の学部紹介 計3回 600組(約1220名) 参加者満足度 80% (33月115組(26月189組(38月307組 2)入試説明会 目的: 詳しい入試情報を得たい高校生への情報の提供 計2回130組(約260名) 参加者満足度 80% (1) 9月 総合型運抜対象 84組 (2)10月 字校推薦型選抜対象 46組 3) WEB人試説明会 「2023年12月18日 ~2024年2月28日 約190名閲覧 4) 学科説明会の回数と参加組数 00を要約した形の短時間の学部紹介で、個別見学会の規模を拡大して開催。参加者満足度 80% (1) 6月 教員対象 16名 (2)11月 —般公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 —般公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 —般公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 —般公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 一般公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 年末の公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 一般公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 一般公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 一般公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 一般公募受験者対象 15組(約30名) (3) 12月 一般公募等と表社、表別を表別を表別を学部の紹介)の実施校、ただし、参加者満足度は未調査 (1) 埼田・北京・大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画14-7】		も多くなっていることも要因である。さらに学生は、図書館から文献依頼ができることをしらない学生もいるため、文献依頼の方法を周知していくことが課題である。	67件 (2~29件/月) を1.25倍の83件を 目指し、年間166件をめざす。 2.立川図書館の貸し出し冊数(図書お よび雑誌) は令和2年度3.523冊であ	Ш	1. ILL申込人数は、3月~2月で52件であった。文献のオンライン化 (無料PDF公開を含む) が進んでいるため、ILLの申し込みが減少し ていることが考えられる。実際に、申し込みのあった約半数の文献 が無料PDF公開で入手可能であったためキャンセル扱いになってい る。よって、年度計画を一度見直す必要があるかもしれない。 2. 貸し出し冊数は、4月~2月で3567件であり、ほぼ目標数に達して いた。				
○千葉看護学部 【計画15-1】 未来に向けた主体性を涵養する教育を推進する。 「計画速成のための方策」 「計画達成のための方策」 「計画を的に学修できる仕組みと環境を整備する。 (1) 学生がビジョンに照ら ポートスカースカースカースカースカースカースカースカースカースカースカースカースカース	ш	1. (1) ・令和5年度からのLMSを用いた学修ポートフォリオの導入に向け、 検討を行った。また、学生に対して具体的な履修につながる学年別 ガイダンスを定期的に実施した。ポートフォリオの試行とガイダン スについては新年度に年2回程度行う計画とした。 ・各学年、各セメスター開始時、終了時に履修ガイダンス・履修指 導を行ったほか、1年生には定期試験に向けたガイダンスを追加で 行った。	(1)(①LMSを用いた学修ポートフォリオの 利用を拡大する。 ②学生に対して定期的にガイダンスを 実施し、具体的な履修につながるよう		1. (1) ・学修ポートフォリオの運用に関して教務委員会で検討後、申し合 ・学修ポートフォリオの運用に関して教務委員会で検討後、申し合 わせについて学修支援員会でも検討を行った。両委員会が共同し、 運用申し合わせを作成した(運用検討会議各委員会が1回ずつ開 催)。ポートフォリオに関する学年別ガイダンスを2024年2月およ び3月に計2回行い、1~3年生の各学生複数名の学生が入力を試みた (正確な人数は、システム上教員が把握できず)。令和6年度は評 価指標を再検討し、活用を促進する。				

₩0#8±#8=1.75	-a	A South tricks	∆ 405 € \$\frac{1}{2} \frac{1}{2} \frac\	=30		400) + bb = = =	200	
第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
(2) 早期から看護職としての意識を高めるため、1年前期から看護職としての意識を高めるため、1年前期から不足での現場での演習を実施すると共に、授業内外会・イベント等の参加機会を提供するなど、アーリー・エクスポージャーのプログラムを行う。		・教員からの講演会やイベントの案内は9回(学内1、学外8)であり、その他学会やイベント等のチラシの掲示が行われており、十分に行われたと考える。参加者数については、学内の地域交流イベントに20名、大学で取りまとめた災害訓練は32名であったが、それ以外は任意参加としており数の把握はできていない。	う。 ②外部の保健医療福祉関係者の授業の 実施状況(特に低学年)を確認し、次 年度に反映させる。 ③前年度の評価を受け、①を活用しな がら、改善計画を立案する。評価調査	IV	1. (2) ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業は、各学年複数回行われた。 ・看護学概論の授業評価は、肯定的評価が7割以上であった。 ・授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント 等は、1回以上行われた。本学非常勤教員の看護倫理に関するトー クイベントには、1年生が複数名参加した。また、3月24日に開催した地域交流イベントにおける船橋中央病院の医療従事者による講演 会には、5名以上の学生が参加し、学生ボランティアは40名以上が 参加した。				
「評価指標」 ・学外の看護・医療保健福祉関係者等 による授業回数、看護学概論の授業幹 価、授業外での看護・医療保健福祉関 係者等による請演会・イベント等の案 内回数、参加人数、グ生ポランティア の割合、情報提供の頻度		・・令和4年度は、4年間のカリキュラム全体を通して、4年次生にDP に照らした評価調査と学習環境に関する評価調査を行ったが、1、 2、3年次生や教員への野価調査は行っていない。 ・次年度以降は、評価調査を実施する予定である。	『評価指揮』・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数(1回/各学年)、看護学概論の授業評価(肯定的評価が割以上)、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数(1回)・参加人数(5人/回)、学生ボランティアの割合(5人/回)、情報提供の頻度(3回)・学外の授業関係者からの聴取(1回)						
(3) 自ら学修に取り組む意義と方法との 獲得をめざして、主体的な学、方法源と しての、図書館利用の促進、スタディスキルズに関する教材の主供、国际のに取り 総合格に向けて計画的・主体的時かり 組むことが出来るような低学年時かの がイダンスや学修環境整備を行う。 「評価指纜入館数、貸出数、スタディス		1. (3) ・入館延べ人数は前年比122%、学部学生、大学院生の資料貸出延べ数は前年比161%であった(令和5年2月末時点)。・学部4年生科目「看護研究」の希望領域を対象に、文献検索ガイゲンスを実施した。・スタディスキルズ動画4本を作成・配信したが、アクセス数100にとどまった。また、1年生科目担当者からは、スタディスキルズに関する質問への個別対応件数が多いという情報もあった。次年度は、学生が当該スキルを要すタイミングで、科目担当者より動画視	ら改善点を提案する。	IV	1. (3) ・ 入館延べ人数は前年比130%、学部学生・大学院生の資料貸出延べ数は前年比110%であった。 (2月末時点の比較) ・ 学部4年4科目「看護研究」の希望領域を対象()、図書館司書の協力により、文献検索ガイダンスを実施、大学院生向けにも同様の動画視聴の機会を設けた。 ・ 国家試験対策支援として、模試、ガイダンス、有料講座等を実施した。 【7模試】				
高音品の関する教材の視聴率 キルズに国家試験合格への取り組みの実施状況及び対策参加状況		間を促して頂くよう、日報告会で教員に向けて動画内容を紹介した。 - 4年生には国家試験関連ガイダンス等6回、模試6回、有料講座 I. II、講座等を実施した、任意有料講座受講者103人/104人(昨年81人/105人)となった。自己学習室も105学生ホールを開放し、感染予防を行いながら、毎日複数の学生が利用していた。3、2年生は任意受験模試を実施したが、2年生は100%受験、3年生は1人のぞき全員が受験した。	・附属船橋図書館の入館者数、貸出件 数が、前年度より増加する ・国家試験対策支援への参加者数増加 状況		2年生: 2回実施し、全学生102人が受験した。 3年生: 2回実施し、全学生115人が受験した。 3年生: 保健師模試も含め8回実施し、対象学生全員105人、20人が受験した。 【ガイダンス】 2年生: 3回実施した。学修方法や国家試験理解の促進、模試の振り返りを行った。 3年生: 3回実施した。模試の振り返りや学修方法を行った。 4年生は、6回実施した。模試の振り返りや学修方法を行った。 4年生は、6回実施した。 模試、ガイダンスの他に、4年生には有料講座を実施し、105人が 受講した。				
2. 入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。 入学前からの学修に対する主体性涵養 をめざし、主として推薦試験による入学生を対し象に、入学前準備プログラム を構築・実施する。 「評価推復」 ・入学前準備プロジェクトの参加者 数、参加者への入学後アンケート調査 結果、入学後の学業成績の分析結果状況		2.総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学予定者63人を対象とした入学前準備プログラムを永続実施した。「大学での学修を知るうpart2(対面)」は、53人が参加した。協力学生からは入学予定者の質問に応えることができたという評価をもらった。今和14年度入学生の入学後のアンケート結果では、対象者60人おなかで、不参加者38名。不参加理由は日時が合わなかった(28名)であった。今和5年度入学生対象の日程は、卒業式がる3月を避け、祭日としたところ53名/63名の参加となった。今和5年度入学予定者対象アンケートは今405年(6月に行う予定である。・また、総合型選抜による入学予定者17人の内、地域交流イベントには1人が参加した。、入学前準備プログラム受講者への入学後の主体性獲得状況調査は行うことができなかった実施についての検討を継続する。	入学前に開始する。 ①~②前年度と同様 ②一般入学試験合格者に対する入学前 ブログラム実施についての検討を行 う。 『評価指標』 ・令和3年度比、入学前準備ブロジェクトの参加者数109/増加 ・前年度比、プログラムに対する肯定	IV	2.11月25日(土) に総合型選抜地域指定(千葉)の入学予定者向けに「千葉での実習を知ろう」をテーマに、本学部で行われる千葉県内フィールドに焦点をあてた4年生4名との交流会を実施し、対象者16名中14名の参加を得た。・2月23日(金)に総合型選抜地域指定(千葉)および学校推薦型の入学予定者向けに、「大学での学修を知ろう:計画的な学習うと学生交流」を開催した。対象者54名中参加希望者41人で、参加者44人であった。・3月24日(日)千葉看護学部の地域交流イベント企画として、総合型選抜地域指定(千葉)、学校推薦型、一般入試の入学予定者100人を対象に「大学での学修を知ろう 地域交流イベントへの参加と学生交流」を実施した。参加希望者53人で、参加者は49人であった。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
3 学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会とでいる。 授業支援 の学修機会の提供や学修活動を支援 できる。 医療・福祉の現場に関加る機会の のの の		3. 学生を対象とした調査は実施しなかった。学部が提供した学生の 課外活動の機会は、医愛祭と地域交流イベントだった。医愛祭には 2日半で述べ29名、地域交流イベントには1日で6名の学生が参加し た。課題は、コロナ禍における活動や参加の制約(実習による)が 最も大きいと考えらえた。②地域交流イベントの参加学生数は昨年 度より減少したが、子どもを対象とした2つの新企画に学年を超え て学生が参加し、縦の交流を促進できた。参加学生による評価は、 項目を含め次年度検討する。	得を支援する機会として、授業以外で の学修機会の提供や学修活動を支援す る。		3. 学生を対象とする調査は実施しなかったが、課外活動の機会として、①医愛祭は2日間で17人。②地域交流イベントへの参加者は74人、③ふなばし健康まつりボランティアでの参加は32人、「からだのお話し会企画」運営は7人、④市川市マナフェスへのボランティア参加は40人、「からだのお話し会企画」は7人、⑤認知症サポーター養成講座学内開催の参加者は14人であった。				
【計画16-2】 学生主体の教育における多様性に対応した教育を推進する。 「計画達成のための方策」 1.多様な教育ニーズに対応する。 学生の能動動のなででででででででいる。 学生の能力を推しています。 対なをを推進する。 学生の能力を推進する。 学生の能力を推進する。 学生の能力を推進する。 学生の能力を推進する。 学生の能力を推進する。 学生のに数する。 学生のに数する。 学生のに対して、数ティープライムを、透音を指して、現場では、立て、は、現場では、立て、は、現場では、対した、対し、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、	IV	1. COVID-19への対応の継続及びDX化が推進され、ほぼすべての科目でLMSが利用されるなど学部内でのICTの利活用等はほぼ浸透したといえる。また、「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業(令和34年度補正)」により多目的DXルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各1回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。	①授業の目標を達成できる各種の授業 方法を取り入れ、学生の理解を把握し 成果を評価する。		1. 常勤教員の担当科目では、ほぼ全科目ICTを活用している。全開 講科目のうち93科目 (75.7%) でアウティブラーニングを取り入れ たている。 ・若手教員が大阪大学の授業設計に関するオンデマンド研修を受講 したり、関心のある所属領域以外の授業を見学し、その成果を発表 会で共有した。				
2. 学生等の多様性に対する教職員の理解を促進する。(1)教職員の多様性への理解を向上させ、多様性に配慮した授業運営を行う。(2)教職員に対し、多様性に関する研修や情報共有の機会を定期的に設ける。「 評価指標」 「 評価指標」 の数、教員へのフィードバック調査の結果、授業評価アンケート結果		2.FD委員会と共催で、「学生の個別ニーズに応じた相談支援研修」を8月24日に開催した。	2. 学生等の多様性に対する教職員の理解を促進する。 学生等の多様性をテーマとした教職員 研修、カリキュラム評価・授業評価報 告において学生の多様性への対応を視 点とした評価を実施する。 「評価指標」 ・令和3年度から継続して多様性に関す る研修・情報共有機会の提供状況	IV	2. カリキュラムプロジェクトとFD担当の共催によるFD研修会を8月17日および3月14日に実施し、カリキュラム改正について検討するとともに、学生の多様性への理解を深めるとともに情報を共有した。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画15-3】 第2期中期目標・計画における教育の評価を行い、DP及び社会ニーズの変化に応じたカリキュラムへの改定を行う。									
「計画達成のための方策」 教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 学生からの授業評価並びにそれに対する教員の目ご評価、各会議での検討等に基づき、大学院DPに照らした点検評価を行い、CP、APおよびDPの改定に向けた準備を行う。	ш	1.4月に将来構想委員会の下部組織として、カリキュラム評価プロジェクトを立ち上げ、カリキュラム評価に関する拡大会議の後、① Pとのシラバス照合、②全科目の授業所価アンケートの分析、③4 年生卒業時カリキュラム評価アンケート・④現行カリキュラムの電 護学教育モデルコアカリキュラムとの照合点検(全教員参加)を行い、3月に印報告会を開催した。また、プロジェクトメンバーで、現行カリキュラムにおいて改善が念がれる事項を全領域から関き取り、教務委員会に①4年次4月の時間割の過密の緩和、②統合実習のリ、教務委員会に第104年次4月の時間割の過密の緩和、②統合実習の立門を対し、3 精神医学の学修を組み入れる必要性でついて申し入れ、教務委員会により対応が始められている。・令和5年度は、カリキュラム改定に向けたワーキングに発展させていくことが課題である。	活動を行う。 ①前年度までの評価をもとに、令和8年度(開股9年目)からの新カリキュラムグ 検討会(年1回)を開催する。 ②前年度の改善改善成合・授業内容や時間割変更で改善改善の持続な。長につて、改善疾状況を情報共有し、DPの達成 株況を養生とその就職先を対象らみとの状況を実行い、公本のよりなシースを表して、ない。	ш	1.①~④令和4年度のカリキュラム評価プロジェクトをカリキュラムプロジェクトとして発展継続し、実習前OSCE、実習前CBTの導入を視野に入れた改正カリキュラムの実現に向けた検討を開始し、8月および3月に全学部教員対象のFDを通を行い、文部科学省の看護学教育・モデル・コア・カリキュラム改正ならびに実習提携関係にあるOCHの船橋中央病院の移転を視野にいれたカリキュラム改正の準備に着手した。 ・年度末資料を加えたDP達成状況の評価から、教務委員会主導で、看護管するまで、大大会では、1年度、1年度、1年度、1年度、1年度、1年度、1年度、1年度、1年度、1年度				
「評価指標」 ・検討会の開催回数、成果物としての 新カリキュラムの有無と内容			看護学教育において実現可能なカリキュラムについての研修を行う。 「評価指標」 ・検討会・評価会議・研修会の開催各1 回、卒業生を対象とした記価を結果、 員を対象としたFD研修による学びのレポート内容、成果物としての新カリキュラムに向けた改善内容の提言						
【計画15-4】 ⑦ 学生の主体性を涵養する教育を推進する。 「計画連成のための方策」 1. 教育DX化と並行して、学生が自己の学修活動を記録し振り返ることが可能な仕組みを準備し、年に1回以上、学生的多学修活動について振り返り、そ		1. LMSを用いた学修ポートフォリオの実施について記載フォームを 検討し、令和5年度より試行することとして準備した。	【 年度計画15-4】 1.LMSを用いた学修ポートフォリオの利 用を拡大する。	Ш	1. ポートフォリオに関する学年別ガイダンスを2024年2月および3月 に計2回行い、1~3年生の各学年複数名の学生が入力した(正確な 人数は、システム上教員が把握できず)。 ・次年度は、より、多くの学生が入力するよう推進するとともに、				
の後の自らの目標について考えることができるよう指導する。 【評価指標】 ・学修活動の記録と目標についての自己評価を、各学年のほぼすべての学生が実施する(1回/年)			[評価指標] ・学修活動の記録と目標についての自己評価を、各学年のほぼすべての学生が実施する(1回/年)		評価指標を再検討する。				

	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
干葉看護学部のビジョンに共鳴する ・	IV	2. 地域交流イベントで企画した2つの公開講座に関して、3名の学生が運営を手伝った。船橋市が5月に募集する1年間のボランティア情報を年間通じて学生に掲示した。 ・オープンキャンパス・学部説明会計7回実施、参加人数計518組(R3年度410組)、参加者のアンケート内容は「学部の特色が良くであった。」「是非入学したい」など肯定的なのものがほとんどあった。・入学前準備プログラムのうち「大学での学修を知ろうpart2」はオンラインから対面とし継続実施した。参加者アンケートは入学後、オンラインから対面とし継続実施した。参加者アンケートは入学に実施する計画を立案し準備している。また、学校進総型入試、およの場合型選抜での入学予定者の高校(校長)すベての入学前準備プログラムの資料を送付し、その周知を図った。・各学年、各セメスター開始時、終了時に履修ガイダンス・履修指導を行ったほか、1年生には定期試験に向けたガイダンスを追加で行った。	学部のビジョンをわかりやすく説明し、参加者の反応を把握し、必要に合わせ改善する。b. これまでの入学前準備プログラムを継続しつつ、参加者アンケートにてより、二人ズに合うプログラムにする。た、学校選抜型(校長)に入学前準備プログラムを周知する。c. 学生に対して定期的にガイダンスを実施し、具体的な履修につながるようにする。		2.a.オープンキャンパスや学部見学会等を計7回実施し、参加者は515名であった(同伴者含まず)。参加者のアンケートからは、本学部のことがよく理解できた、志望校選択に役立ったなどの感想が多数挙がった。 b. 学校推薦型の入学予定者の所属高校の校長にも入学前準備プログラムの資料を郵送し、周知を行った。また、2023年度入学生で学校推薦型での入学予定者に、入学前準備プログラムの資料を郵送し、周知を行った。また、2023年度入学生で学校推薦型での入学予定者に、入学前準備プログラムが作成したがそのうち15人は途中でやめていた。入学前準備プログラムに参加して34人が聞きたい、ことが聞けたと回答した。さらに、大学からの情報は郵送資料の乗り返23年度も信報の提供を行った。。 c. 学修支援委員会にて、各学年ごとにセメスター開始と終了時にガイダンスを行った。。 c. 学修支援委員会にて、各学年ごとにセメスター開始と終了時にガイダンスを行った。 c. 学修支援委員会にで、各学年ごとにセメスター開始と終了時にガイダンスを行った。 c. 学修支援委員会にで、各学年ごとにセメスター開始と終了時にガイダンスを行った。 c. 学修支援委員会にて、各学年ごとにセメスター開始と終了時にガイダンスを行った。 c. 学修支援委員会にて、各学年ごとにセメスター開始と終了時にガイダンスを行った。 c. 学修支援委員会にて、各学年ごとにセメスター開始と終了時にガイダンスを行った。 c. 学修支援委員会にて、各学年ごとにセメスター開始と終了時にガイダンスを行った。 c. 学修支援委員会に一般では、本学のでは、				
早期から看護職としての意識を高めため、1年前期から看護の現場での演場での演像を実施すると共に、授業内外で、看一職や人々の健康に関する講演会・イン・等の参加機会を実施するとが、ーリー・エクスポージャーのプログムを行う。 「評価情報」 「評価情報」 「評価情報」 「評価情報」 「評価情報」 「評価情報」 「新聞報」 「新聞報報」 「新聞報」 「新聞報報」 「新聞報報」 「新聞報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報		3. 学部の保健医療福祉関係者の授業は1年生14回、2年生8回、3年生4回、4年生1回の計27回、加えてJCHO船橋中央病院の医師らによる疾病や治療に関する講義が上記分を除き67回実施されており、十分に行われている。1年次前期の看護学概論における見学演習を継続した。将来構想委員会のカリキュラム評価プロジェクトにより、4年次学生へのアンケートならびに専任教員全員に対するヒヤリングを行った。地域交流イベントにおいて、船橋中央病院の院長・栄養士・看護・台でが表しまると、1000年ので、10	の実施状況(特に低学年)を確認し、次年度に反映させる り、前年度の評価を受け、①を活用しながら、改善計画を立案する。評価調査 がら、改善計画を立案する。評価調査 の対象として学外の授業関係者からも 聴取を行う。 こ、講演会やイベント、ボランティア募 集に関して定期的に情報提供を行う。 「評価指標」 ・質別看護・医療保健福祉関係者等 による授業評価(総合評価が4以上)、授 業外での看護・医療保健福祉関係者等 業外での看護・医療保健福祉関係者等		3a.外部の保健福祉関係者の授業の実施状況(第一回目)アンケートを実施中(集計はこれから)。第二回目のアンケートでは保健医療関係者についてデータ収集を実施する。 c.イベント(ふなばし健康まつり、地域交流イベント、マナフェスの情報提供を行った。また、認知症ケアサポーター養成講座を開催し、12名の学生、2名の教職員の参加があった。 ・次年度は、より体系的に実態を把握できるようなしくみを検討する。				

第3期中期計画	評価区分		令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画15-5】⑦ 生涯学習支援を継続する。 「計画連成のための方策」 ・・学部における生涯学習支援を継続し、これが大学ビジョンに向かうものとなっているかを評価し、改善するためのICTを活用した基盤を整備する。	I	1. 当該目標に関する検討会は開催しなかった。 評価のための仕組み作成にも着手することができなかったため、次 年度の将来構想委員会の課題とする。	を敗け、。	Ш	1. 当該目標に関する検討会は開催できていないが、将来構想委員会において、卒業生担当を置き、学生生活支援委員会主催で、地域交流イベントと同時開催で、「ホームカミングデイ」を実施した。生涯学習支援の仕組みを検討するために、プロジェクトメンバーの選出し、シミュレーションを用いた生涯学習支援を検討しており、シミュレーション実施教室の環境を整備した。次年度は、「卒業生チャレンジ」(卒業生に声をかけて、DXについての研修を行う企画)を開始する予定である。	7		л Л	
【 評価指標】 ・当該目標に関する検討会開催回数と 参加人数、評価のための仕組み作成状 兄と実施状況			評価・改善が可能となるよう、名種活動時にでデータ収集したい共通項目を洗い出し、アンケート項目を作成し、ICTを活用した仕組みを検討する。 【評価指載】 ・当該目標に関する検討会開催回数と参加人数、評価のための仕組み作成状況と実施状況						
2. 卒業生を継続してサポートできる仕組みを整備し、学びの機会を提供する。 [評価指標] ・卒業生の連絡先を管理する仕組みの作成と登録状況(100%)、年2回のメールマガジンの発行、講演会等の案内回数(年2回)と参加人数(各回00%)	ш	2. 卒業生の連絡先登録は、3/15時点で70%であり、登録を促す連絡を行っている状況である。メールマガジンは3月中に2回目の発行を予定している。地域交流イベントにおいて開催した2つの講演会の案内はメールマガジンで情報連携したが、卒業生の参加は2名程度であった。連絡先管理の仕組みは整備できたが、全員登録は任意性を鑑みて現実的ではないとも考えられる。次年度以降は、登録90%程度を目指す。講演会への卒業生の参加は、コロナ禍の影響も大きいと考えられる。次年度は将継続委員会による卒業生を対象としたイベント開催も合わせて企画を検討し、早めの情報提供を行う。	映した卒業生の連絡先管理および継続 教育支援の方法を実践し、年度末に現 状と改善策をとりまとめる。 [評価指標] ・卒業生の連絡先を管理する仕組みの 作成と登録状況(100%)、年2回の メールマガジンの発行、講演会等の案		2. 卒業生の連絡先登録は12月から呼びかけて91.7%であり、さらに 早い時期から呼びかける必要性がある。メールマガジンは年2回発 行し、発行後にメールアドレス変更を連絡してきた卒業生が数名確 認できた。2023年度は初の試みとして、3月の地域交流イベントに てホームカミングデーを開催し、9名が参加した。また、ホームカ ミングデーにて、アンケートを実施した(9名回収)。参加者を増 やすために、卒業生が関心を持つ企画を検討する必要がある。				
8. 実習指導者講習会およびフォロー アップ研修会、受講施設管理者を対象 とした研修・情報交換を開催し、千貫 献する。 展内の実習指導者育成と質の向上に貢 献する。 [評価推標] 長の120%)、修了時の満足度(70%以 上)、フォローアップ研修の参加人数 (50%以上)、受講施設管理者をが加入数象 とした研修・情報交換の参加人数、とした研修・情報交換の参加人数、自 施工、資本に表現		3. 実習指導者講習会 (30日間コース) については、40名定員のところ48名の受講 (募集定員の120%) となり、目標を達成することができた。ただし、7日間コースについては40名定員のところ受講に18名 (募集定員の45%) と、目標を大幅に下回っている。コロナの感染拡大により、訪問看護ステーションからの申し込みキャンセルなども複数あり、今後の感染収束の受講者の動向を確認する。フォローアップ研修については対面で実施したものの、56.3%) し、目標は達籍で来たと考える。なお、上記3研修ともに終了時の受講生アンケートでは、満足度したとの回答がおおむね90%を超え、100%を変速するで選申も多数存在しており研修内容の担保については目標を達成したものと考えられる。	会、フォローアップ研修、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換を企画・周知・実施し、実績と改善策を取りまとめる。 「評価推復] ・実習指導者講習会参加人数 (募集定員の120%)、條了時の満足度 (70%以上)、、フォローアップ研修の参加人数		3、実習指導者講習会参加人数は30日間コースは定員40名のところ49名の受講(募集定員の123%)となり、目標を達成することができた。ただし、7日間コースについては40名定員のところ受講者は24名(募集定員の60%)と、目標を大幅に下回っている。ただ。昨年度よりは増えているため、今後さらなる受講者の増加のための取り組みを行っていく。フォローアップ研修については対面で実施したものの、34名が参加(69、4%)し、目標は達成できたと考える。なお、上記3研修ともに終了時の受講生アンケートでは、満足度したとの回答がおおむね90%を超え、100%を達成する項目も多数存在しており研修内容の担保については今年度も目標を達成したものと考えられる。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
主として千葉県北西部及びJCHOの看 ・介護職者等に向けた生涯学習機会 提供する。 「理価推想」 千葉県内及びJCHOからの講師依頼内 ・作数、本学部主催または共催(有 含含む)による研修会等の開催回数・ 加者、満足度	N IV	「看護管理ビギナー研修」「タイムマネジメント研修」 「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」2件 「認定看護管理者教育課程サードドレベル」 ・JCHO本部からの講演依頼は下記5件である。 「認定看護管理者研修セカンドレベル(人材育成)」 「同(医療安全)」他、3件 「JCCHO保健師助産師看護師実習指導者講習会(実習指導方法)」 ・JCHO船橋中央病院からの講演依頼は下記合計3件である。	4、実習指導者講習会やJCHO本部 ・	IV	4、実習指導者講習会やJCHO病院との会議等の機会に、教員の研究内容。講演できる内容等の周知を行った。 ②周辺地域機関からの依頼 〇千葉県看護協会:「千葉の今年度の実績は次のようである。 ②周辺地域機関からの依頼 「老護研究学会研究相談員」「看護管理 ビギナー研修」「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」 「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」3件 〇千葉県がんのリハビリテーション研修会実行委員会:「がんリハビリテーショを接受機会と、「がんリハン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			2	
【計画15-6】 ⑦ t員の研究力の向上を図る。 「計画連成のための方策」 教員の研究活動の情報交換会を定期 51に継続する。 評価指揮] 情報交換会の開催回数(1回/年以 5.)		 活動報告会において、「からだフシギブロジェクト」の情報共有を行った。 	【年度計画15-6】 1. 定期FD研修やイブニングセミナーで 教員の研究活動について情報共有を行う。 「評価指標」 ・情報交換会の開催回数(1回/年以 」)	IV	1.3月13日に実施した学部活動報告会において、教員の研究活動・ 社会活動に関するポスター展示及び情報交換会を実施した。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
2. 学会(国際・国内)で、研究成果を 発表を促進し、発表する。 「 評価指揮]・国際学会参加人数(1人/年以上)、 国際学会発表者人数(1人/年以上)、 国内学会発表者割合(年間7割)	Ш	2. 国際学会参加人数:9人、 国際学会発表人数:3人 国内学会発表人数:24人 国内学会発表人数:12人 学部活動報告会での情報共有は実施されなかった。	2. 年度末の学部活動報告会で国際学会 及び学内学会で発表した教員について 情報共有を行う。 「評価指標! ・国際学会参加人数(1人/年以上)、 国際学会発表者人数(1人/年以上)、 国内学会発表者割合(年間7割)	IV	2. 国際学会参加人数:8人 国際学会発表人数:6人 国内学会発表人数:34人 国内学会発表人数:22人/36人(61.1%) 学部活動報告会で情報共有を実施した。				
3. 研究成果を査読のあるジャーナルへの投稿を促進し、採択される(共同執筆含)。 「評価指標」 ・採択者人数、採択者割合(国際・国内、年間で全教員数のうち4割以上)	•	3. 論文 (国内) 採択人数: 11人15件 論文 (海外) 採択人数: 2人2件 学部活動報告会での情報共有は実施されなかった。	3. 年度末の学部活動報告会で論文採択された教員について情報共有を行う。 「 評価指標」 ・採択者人数、採択者割合(国際・国内、年間で全教員数のうち4割以上)	IV	3. 論文(国内) 採択人数:17人28件 論文(海外) 採択人数:6人11件 国内・海外のいずれかに採択された人数:17人/36人(47.2%) 学部活動報告会で情報共有を実施した。				
○和歌山看護学部 【計画18-1】で 「大学での主体的な学び方の体得」及 び「地域を理解する科目の充実」、 「地域への愛着形成の支援」を図る。									
「計画達成のための方策」 1. 主体的な学習に取り組めるために必要なカリキュラムと機会を充実する。 2. 入学初期に主体的な学び方に関する科目と地域への関心を高めるための科目を設定する。 3. 卒業後も学び続けるための支援体制を構築する。		1. 初年次教育において、「アカデミック・スキル」「わかやま学」を設定し、さらに複数科目で高校から大学教育への円滑な意識の転換と能動的な学習方法を身につけ、専門教育における自主的・主体的な学習への移行を目指した取り組みを行った。主体的に学べる質う、シラバスにアクティブラーニングを明示し、全科目で学びの質を保つためにシラバスチェックをシステム化した。国試対策は「~3種業者の講座やサイト紹介、アブリの情報提供など)など主体的に国は同かう取り組みを推進している。4年生には年間計画を立情報で、中途を自が作成し、国試委員・アドバイザーと学生の主体的な取り組みを支援・アドバイザーと学生の主体的な取り組みを支援・アドバイザーと学生の主体的な取り組みを支援・非常勤講師(日赤和歌山医療センター医師)担当科目である「体	得」、「地域を理解する科目の充実」 に関する科目の充実」 に関する科目の実施・評価する。 2. 先輩学生からの学習経験をもとに、 学習計画を立て実行する。 3. 主体的な国家試験への取り組みへの 支援を行う。 4. 実習指導者との相互理解により学生 の主体的な学びをサポートする。 5. 学生の学びにタイムリーな図書の紹 介をし、利用を促進する。 6. 卒業生の自己研鑚のための支援を試 行する。	IV	1. 大学での学び方を内容としたアカデミックスキル、これからのキャリアを考えていくためにキャリア教育 I ~ Ⅲ、それを支える情報に関する科目や論理的表現法も設置している。 2. 地域への関心を高める科目としてわかやま学 (講義) とわかやま生活健康探索実習 (実習)を設定している。 内容・実施状況、参加状況を以下の方法で得た。・わかやま学では、受講学生がレスポンスカードを作成。・わかやま生活健康探索実習では、最終日のまとめの機会に、実習・欠席者以外、9割以上が提出し、内容を質的に分析を行った。・わかやま学での発表会、和歌山生活健康探索実習での実習報告会にて、学生が得たことを表現できる機会となっていた。				
「評価指標」 ・カリキュラム実施状況 ・愛着の程度を把握		の仕組みと働き」、「治療学総論」、「疾病治療論」の講義内容、試験問題内容等について、成果に応じて学生の主体的な学びの促進のために学部教員が支援を行い、教育目標の共有のために日赤和歌山 山医療センターとの合同教育会議を2回実施した。国試対策は1年次の名。2. 先輩学生の取り組みの成果を受けて、学生にに「予すとでして支援している。2. 先輩学生の取り組みの成果を受けて、学しに「予すとでして支援をといる。2. 先輩学生の取り組みの成果を受けて、学び行えるように支援を実施した。国家試験への取り組みについて、医学祭の企画として「期生を招きん学性が熱心に聞き質問をしていた。・学習支援した多くの科目の平均点が一定の水準に到達するなど取り組みの成果が見られた。学生自身が目標を設定し、アドバリ組みの成果が見られた。学生自身が目標を設定し、アドバリ組みの成果が見られた。学生自身が目標を設定し、アドバリ組みの成果が見られた。学生自身が目標を設定し、アドバリ組みの成果が見られた。学生自身が目標を設定し、アドバリ組みの成果が見られた。学生自身が目標を設定し、アドバリ組みのは果が見られた。学生自身が目標を設定し、アドボリリ組みのは果が見られた。学習がは強み、看護師がよいて保健師国試とも平合格者は1名であった。してを知った」「和歌山 に住んでいたが知らないことが知れた」など自由記述が多4目内容を把握し、次年度からの活動を検討した。	- 愛着の程度を把握 - 国家試験に向けての学習計画立案実施評価、模試受験、補講受講の状況 - 実習指導者連絡会の開催と指導側及 び学生からの評価 - 和歌山図書館入館者数、貸出数の利 用状況 - 卒業生の自己研鑚としての環境整備 と活用状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画16-2】 ⑦ 「ボランティア活動の体系化」、 「地域の看護教育ボランティアからの 学びの推進」及び「関連団体と連携し た社会的要請への対応」を図る。 「計画達成のための方策」			【年序計画16-2】	,,,		2		,,,	
	ш	1. ボランティア依頼は玄関ホールに掲示し、さらに学生に声をかけて募集を行った。活動届はWeb上で提出できるようにした。ボランティア活動のサポート体制として学生全員が初歌山市ボランティア保険に加入している。学生のボランティア活動に加え、地域住民の看護教育への協力を得る看護教育ポランティアの説明会にも学生ボランティアが参加した。	1. ボランティア活動を体系化し試行的 に運用する。	IV	1. 2023年度ボランティア活動の報告件数は、延べ人数252名、活動 団体数は54種類であった(2024、2月末地点)。 ・ボランティア論履修生は92名、ボランティア活動履修生は85名であり、選択科目となっているものの、9割の学生が履修出来ていることから、学生の関心が高いことも伺える。 ・ボランティア活動届については、デスクネッツ回覧レポートを通して記載提出できる体制を作り、ほとんどの学生がweb上で提出できているため継続していく。 ・和歌山市ボランティア保険は大学として学生全員加入出来ており、WILLへの加入に加え、安全なボランティア活動のためのサポート体制は取れている。 ・地域の看護教育ボランティアからの教育支援については、4つの看護学領域が必要な内容とボランティアの参加を得て、教育を実施している。年2回の教育ボランティア集いの会を催し、成果の発表や意見交換を行っている。	i			
2. 赤十字活動を中心とした活動を活発 化する。 [評価指標] - ボランティア活動状況、教育ボラン ティア参加状況	ш	2. 学生赤十字奉仕団を団員12名で発足し、活動を開始した。 ・ボランティア報告件数は延べ人数118名、活動団体数54種類であった。選択科目「ボランティア論」74名、「ボランティア活動」82名の学生でが履修した。奉仕団発足と教育ボランティアの集いにいては大学ホームページに掲載している。本学学生が参加している学生団体の活動もSNSで発信し、学会発表がなされた。奉仕団は和歌山県支部の活動への参加、主体的な活動として子ども食堂イベント企画を実施した。その他、日赤和歌山医療センター大規模地震時医療活動訓練に12名が参加、社協祭りへの参加など日赤関連、市関連団体への要請に応えている。	[評価指標] ・ボランティア活動状況、教育ボラン ティア参加状況		2. 学生赤十字奉仕団は、現在1年生19名、2年生7名、3年生5名、4年生5名の計36名となっている。現在日本赤十字社和歌山県支部主催の活動に参加したり、自分達で企画した学内演習、市民図書館でのイベント企画と運営等、教員のサポートのもと活動できている。医愛祭で献血パスでの学生の献血活動を実施した。和歌山県学生献血推進協議会(以後、学推)には、これまで、都今のあう人が随時活動に参加している状況であったが、今年、本学は、学推の副委員長校となった。活動がおれば、ボランティアサークルメンバーと赤十字奉仕団メンバーに情報がいきわたる仕組みを作っている。	\$ B			
【計画16-3】 ⑦ 異文化理解や語学力、コミュニケー ション能力を習得させ、豊かな教養の もとに多様な価値観に対応できる医療 人の育成を図る。									
「計画速成のための方策」 1. 海外研修及び海外からの研修生の受け、海外研修及び海外からの研修生の受けたとの交流の機会をつくる。 2. 海外研修への参加案内と学生の参加しやすい環境を整える。ペトナムの大学との学生変流を進める。または保健医療福祉施設で働く多国籍の人々との交流の場をつくる。 [評価指標] 「評価指標」 ・海外研修参加学生数、ベトサムの大学との学生交流の有無、多国籍の人々		1. サイネージやポスターだけでなく個別的に声掛けをし、積極的に学生の研修参加へのアプローチを行った。 2. MOU縁結後、COVID-19の影響により交流の機会を持つことができなかった。 3. 外国人医療従事者との交流会を開催した。 ・オーストラリア研修1名、ハワイ研修に1名の参加があった。2023 年度にベトナムのナムディン大学との交流会の開催を行えるように 準備を進める。外国人医療従事者3名と学部学生14名の対面での交流ができた。	2. ベトナムの大学との交流の機会を1回 以上つくる。 3. 地域で生活する多国籍の人々との交 流の機会を1回以上つくる。		1.9月の本学主催の海外研修はリモート研修、3月の現地研修が開催された。9月の研修には学生の参加はなかったが、3月のオーストラリア現現地除には学生4名の参加があった。 2.ベトナム ナムディン大学とのMOU締結後、交流会を持つための交渉が進まず、交流会が開催できなかった。 3.交流会には、和歌山市内の外国人医療従事者2名、本学部学生5名と大学院生1名が参加し、対面で開催した。国際交流委員会と連携を取りながら、参加者募集の広報を行い、会場の感染対策や交流後の進行をサポートした。学生が直接、外国人との交流ができる機会となるため、今後も継続していく。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	評価区分	内部質保証推進会議
【計画16-4】 ⑦ ICIを駆使する能力を備え、保健医療福祉に貢献できる医療人を育成する。 「計画速成のための方策」 ICIを活用した授業の実施と充実を図り、ICIによる主体的学習システムを構築し、学修成果の可視化を図る。 【評価指標】 ・システムの利活用状況、新システムの利活用状況、デ習過程・成果の可視化の程度	<u>分</u> [] Ⅲ	1. WebClass、Z00M、Vsim、Medi-EYE、スマートグラス、Tobii3Pro、電子黒板を導入し、学内で使用できるよう初期設定した。Medi-EYE ペスマートグラスを用いた授業・演習設計についても報告し、ICT ツールや、Nursing-skill、Nursing Channel についてマニュアルを作成して公開している。HSP受講について学部内で周知し募集を行った。 2. ICTツールの使用状況とニーズ調査を行い、研修計画を立てた。WebClass、Z00M の研修2回実施し、それぞれ35名が参加、90%以前理解できたと回答した。レールグル社によるナーシングアンの勉強会を2回実施し、参加者延べ10名が参加した。Web class で修学カルテを用いた実習記録の運用についての研修は参加者36名、90%カルテを用いた実習記録の運用についての研修は参加者36名、90%対したい80%であった。可視化を進めるために、ICEルーブリックの学部内の勉強会を2回開催した。入門編20名、実践編10名程度の学部内の勉強会を2回開催した。入門編20名、民践編10名程度の学部内の勉強会を2回開催した。入門編20名、民践編10名程度の分学部内の勉強会を2回開催した。入門編20名、大き編10名程度の分学部内の強強のWebの内の勉強を2回開催した。入門編20名、大き編10名程度のが向上し、2月に実践報告会を行なった。・研修参加者は理解度が向上し、200Mについてはほとんどの領域で後有効活用している。電子黒板は授業・滅習での使用実績がなく今有効活用している。電子黒板は授業・ある。複数科でICEループリックが活用され始めたが12%にとどまっている。次年度には各領域で10年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年11年1	活用と評価を行う。 2. 新システム増設時の活用可能にする ための研修を行う。 3. 学習過程・成果の可視化を試行的に 開始する。 4. 各領域に1名のICI推進委員を置き、 各種システムの活用を拡大する。 5. 学生のHSP取得を維持維続する。 [原価指揮] ・システムの利活用状況、新システムの利活用状況、学習過程・成果の可視 化の程度 ・学生のHSP取得状況	IV	1.年間スケジュールを作成し、授業運営において必要性の高いICT ツールや教材の使用方法についての実践例を紹介できるよう、学室を開催した。またICTツールや教材の使用に関するマニュアルを配信した。 ・WebClassによる体調管理の入力・管理方法、実習記録の使用方法について勉強会を行なった。 ・学生への情報モラル教育について『情報倫理ガイドライン』動画を作成し、周知した。 2. *Web Class 修学カルテ(卒業時技術到達度、体調管理表、実習記録) ・Web Class ICEルーブリック・Microsoft 365 Teams、F. CESSnurseを用いた演習および実習記録の活用 3. ・修学カルテを全領域で活用できるように整え、卒業時技術到達度を全学年で統一して使用できるよう教員を学生に周知した。初の活用 2. ・修クカルテを全領域で活用できるようを要になどについても説明した。初に活用できるよう指導した。演習記録などを対しては卒業時技術到達度を入力する義義などについても説明した。有いに活用できるよう指導した。演習記録などを必要に応じて全領域が使用できるように設計した。 をラミュレーションセンター設置に向けた取り組みについて、今本年度に導入された映像機器を活用し、シミュレーション流でがスムーズに行えるよう、MIOI教室に配置した。実際に配置した機材を表状態であることを確認した。 ・シミュレーションで学長表世長に表記した。 ・さらに、「看護基礎教育におけるデジタル教育ツール活用の効果検証」のテーマで学長裁量費に採択され、備品の拡充を行った。 5. 2020年度生57名、2021年度生50名にオーブンバッチを付与した。	分别。张胜三人,可能		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○大学院医療保健学研究科 【計画17-1】の 教育理念・教育目標に沿った教育方力で有効でするため、人キュラムで構築本研究科のカリーでの現面しを行う。 「計画達成のための方策」 1. 大学の教育理念に則った教育プログラムの確立教育目標の設定。 3. 教育目標に応じたカリキュラムの再構築。 は新しい教育制度の導入。 5. 主体的な学修を促す教育方法の導入。 「評価指標」・新しい教育制度の導入状況・主体的な学修を促す教育方法の導入状況・美修医療保健学研究科カリキュラム評価班会議:5回	т Т	1-3. 各領域で3Pを設定し、それに基づいたカリキュラムを構築した。 4. 教育制度の導入までに至らないが、教育方法としては、オンライン教育を充実させていった。 5. 図書館データイースに自宅からアクセスが可能となり、自己学習の機会が充実し、主体的な学修の支援システムが整備された。 また、大学院教務委員会が発足し、定例会議が開催され、教務関連について、大学院での検討が開始された。	ラムの確立。 2. 明確な教育目標の設定。 3. 教育目標に応じたカリキュラムの再 構築。 4. 新しい教育制度の導入。		1-3. 各領域で3Pを設定し、それに基づいたカリキュラムを構築しそれに基づいた教育実践が実施されてきている。 4、教育制度の導入までに至らないが、教育方法は、オンライン教育でも対面と支障なく双方向での討議等を充実させている。 5. 図書館データベースに自宅からアクセスが可能となり、自己学習の機会が充実し、主体的な学修の支援ンステムが整備された。また、大学院教務委員会が発足し、定例会議が開催され、教務関連について、大学院での検討が開始され、規定などの改定がなされている。				
【計画17-2】 教育の質保証が実証できるマネジメントシステムを構築する。 「計画達成のための方策」 研究指導の質を保証するためのマネジメントシステムを構築する。 1. FD活動による教育システムなどの開発。 2. 教育プログラムの実効性の確認。 3. 教員相互協力による教育能力向上。 4. マネジメントシステムの第三者評価。 「評価指標」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	: Ш Н	1-3. 学部と共同で、研究倫理、科研費獲得へのプロセスなどに関する講義・講演を実施し、またFD活動を通して、教員の教育・研究指導の能力を向上させるための支援を実施し、質の保証に努めた。4. 定期的に、大学及び大学院の教育に関する資保証のための外部評価委員会が開催され、評価を受けて改善に繋げている。	メントシステムを構築する。 1. FD活動による教育システムなどの開		1-3.大学院独自に研究倫理、科研費獲得へのプロセスなどに関する 講義・講演を実施し、またFD活動を通して教員の教育・研究指導の 能力を向上させるための支援を実施し、質の保証に努めた。 4.定期的に、大学及び大学院の教育に関する質保証のための外部評価委員会が開催され、評価を受けて改善に繋がっている。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画17-3】 ⑦ 学際的・国際的な視点から自分の専門性を認識できる人材育成システムを整備する。 「計画達成のための方策」 グローバル化に対応した人材を育成する。 1. 学際的・国際的な視点から自分の専門性の認識。 2. 学とのグローバル・リレーションシップ育成。 3. 実践的英語教育の導入。 「評価拍響」 ・実践的英語教育の導入状況・修士・博士課程論文の学会発表状況・海外論文発表経験者数 年間3名以上		グローバル化に対応した人材を育成することとして、3.に関して立案した。学生自身が自分の専門性を認識し、2.学生のグローバル・リレーションシップ育成するために、まず、3.の実践的英語教育の導入状況として、「学術コミュニケーション特論」を開設し、抄録を英文で作成する能力の授得までを目指した。授業は実施できたが、全員が抄録作成できるまでには至らなかった。 修士・博士課程論文の学会発表状況は、各領域の関連学会における学術集会で発表は実践できているが、論文投稿に至ったものは少数であった。 全体論文報告会では、修了生は全員発表を実践できた。 海外発表に至ったのは名であった。引き続き、海外発表および論文投稿に繋げられるよう指導を行っていく。	る。 1. 学際的・国際的な視点から自分の専門性の認識。 2. 学生のグローバル・リレーションシップ育成。 3. 実践的英語教育の導入。 『 評価抽線 』 ・実践的英語教育の導入状況	ш	・グローバル化に対応した人材を育成することとして、3.に関して 立案した。学生自身が自分の専門性を認識し、2.学生のグローバル・リレーションシップ育成するために、まず、3.の実践的英語教育の導入を図り、abstractを英語で書けるとした。 ・実践的英語教育の導入状況は、「学術コミュニケーション特論」を開設し、抄錄を英文で作成する能力の発力までには至らなかった。 ・修工・博士課程論文の学会発表状況は、各領域の関連学会における学術集会で発表は実践できているが、論文投稿に至ったものは少数であるものの増加傾向にある。 ・全体論文報告会では、修了生は全員発表を実践できた。 海外発表に至ったのは1名であった。引き続き、海外発表および論文投稿に繋げられるよう指導を行っていく。			<u> </u>	
【計画17-4】 ②【計画6の再掲】 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケための準備を進めるとともに、開講後の大学院医療保健学研究科修士課程度に、開講後適切に運営する。 「計画遺成のための方策」 大学院医療保健学領域域やの現本科修士課程度に考している。 「計画遺成のための方策」 大学院をア看護順係機関を高実に違うる。 「計画遺成のための方策」 大学院をアを調査の表現である。 「中国情報を表現に、開講後適切に運営する。 「中国情報を表現に、開講後適切に運営する。 「中国情報を表現に、開講後適切に運営状況(今和7・8年度)・ 数、修会に、開講後適切に運営状況(今和7・8年度)・ 数、修会で開業を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	ш	・①から③について、計画通り全て完了した。 ・入学試験結果11名が合格した。準備状況においては、非常勤講師 77名、実置施設の確保を完了し、現在は委嘱状の発行、数材作成を進めている。 ・②演習教室不信保、③シミュレータの検討については、令和5年前期に公修工事等を行いシミュレータの設置など教育環境の整備を継続する。 ・また、講師情報の変更に伴って、厚生労働省の変更申請を随時行っていく。	①4月開講 ②カリキュラムの進捗管理 ③科目試験の管理 ④入学合格者の実習病院決定と厚生局 修正申請	IV	・①から⑩について、計画通り全て完了した。 ・講義・演習では、学外講師77名(内訳: 医師58名、看護師16名、 そのほか専門家3名)学内講師名の協力を得ることができ、計画通 り、2023年4月に開講できた。 ・開講後は、カリキュラムの進捗管理、放送大学(特定行為共通利 目)学習の進捗および評価管理、科目試験の管理により、設定期間 内にすべての院生が履修合格ができた。 ・実習施設、実習指導医、実習指導限、(新院・施設・在宅)との打ち合わせを実施し、実習施設、MP9名の協力を得ることができ、食生局修正申請を提出予定である。 ・演習室の確保と修繕を完了し、令和6年の授業に向けて演習 ((SSC)) 物品・シミュレータの搬入を行う予定である。 ・特定行為管理委員会は2023年10月に第1回の会議を実施した。 ・令和6年度学生募集と入試により、計16名が入学した。 ・予定8名を超える入学生にともない、令和6年度に教員(診療看護 師)1名を学部兼任担当として採用できた。				

	第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
独究い	計画17-63 ⑦ 自の公開講座の開催など、学生の研 巻表や研鎖の場を企画して提供して くとともに、科学的研究費などへの 請数及び採択率の向上を目指す。									
1. 2. 1 2. マ 3. 応 4. のる択 「「	計画達成のための方策」 公開講座の開催。 公開講座の開催。 後勢的資金の獲得に向けて研究テー を物出する。 複数の領域が協力して、研究計画と 等書類を作成する。 等審査結果の開示以降に、不採択理由 検証を行う。また、不備の認められ 点について検討し、次年度申請の採 評価指標」 公開講座の開催年1回 科研費獲得に向けた取組状況	ш	1. 各領域から代表が集まり、その年のテーマを決めて公開講座を開催した。また公開講座のプログラムの中で、修了生の研究発表が実施できた。 2-4 教員及び大学院生による科研費の申請は試みているが、採択には至らなかった。査読結果に関しては、指導教員が共に指摘内容を確認し、計画修正に繋げている。	2. 競争的資金の獲得に向けて研究テーマを抽出する。 3. 複数の領域が協力して、研究計画と	ш	1. 各領域から代表が集まり、その年のテーマを決めて公開講座を開催した。また公開講座のプログラムの中で、修了生の研究発表が実施できた。 2-4. 教員及び大学院生による科研費の申請は試みているが、採択には至らなかった。査読結果に関しては、指導教員が共に指摘内容を確認し、計画修正に繋げている。				
コ化パートをなを「・ト	計画17-6】 か	п	・キャンパス教育環境向上プロジェクトについては、施設環境の充実が図れていない。次年度は、新設領域が開設されることからも、使用教室の調整や、キャンパス内の清掃・衛生管理を徹底し、システムを整備していくこととする。	を推進する。知的創造のための拠点と	п	・キャンパス教育環境向上プロジェクトについては、施設環境の充実が図れていない。次年度は、新設領域が開設されることからも、使用教室の調整や、キャンパス内の清掃・衛生管理を徹底し、システムを整備していくこととする。				
学る。 「1 1. I 2. : 3. 的[計画達成のための方策」		1. オンライン上でのICT教育を整備し充実させた。 2. 入学生全員へのPC貸与により、学生の学習環境の確保ができた。 3. 大学院会議において、特に博士課程の入学者に関しては、研究遂行の能力の査定が必要であることが確認された。また、本審査の前段階として予備審査を設けるなど、段階的に審査を実施することの検討も行っていく。	3. 一般入試方式重視による入学生の質	IV	1. オンライン上でのICT教育を整備し充実させた。 2. 入学生全員へのPC賞与により、学生の学習環境の確保ができた。 3. 大学院会議において、特に博士課程の入学者に関しては、研究遂行の能力の査定が必要であることが確認された。また、本審査の前段階として予備審査を設けるなど、段階的に審査を実施することの検討も行っていく。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区公	内部質保証推進会議
【計画17-8】 ⑦ を学協同体制の構築によるブランドカ 引上プロジェクトの推進を図る。 「計画速成のための方策」 を学協同体制の構築によるブランドカ 引上を図る。 ・卒業生との交流活性化によるPR効果 ・産学協同研究成果の対外的なPR促進。 ・地域社会との連携によるPR促進、 ・地域社会との連携によるPR促進入。 ・特別教授制度による先端研究導入。 「評価指揮」・ ブランドカ向上プロジェクトの推進 大況		産学協同体制の構築によるブランドカ向上を図るために、計画1-4を立案した。 1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進では、大学院公開講座を開催し、学びの交流を図った。 2と4では、産学協同研究成果の対外的なPR促進では、企業との産学連携のもと、特別教授制度による先端研究を実施している講師を招聘しての研究会とを開催した。 3. 地域社会との連携によるPR促進では、市区町村や企業との連携をすることによって産学協同体制の構築によるブランドカ向上を図る。学内の総合研究所や産後ケア研究センターなど、産官学連携による事業も展開、開始され、PR促進に繋がっている。	向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的なPR促進。 3. 地域社会との連携によるPR促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 「評価権機」		・産学協同体制の構築によるブランドカ向上を図るために、計画1-4を立案した。 1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進では、大学院公開講座を開催し、学びの交流を図った。 2と4では、産学協同研究成果の対外的なPR促進では、企業との産学連携のもと、特別教授制度による先端研究を実施している講師を招聘しての研究会とを開催した。 3. 地域社会との連携によるPR促進では、市区町村や企業との連携をすることによって産学協同体制の構築によるブランドカ向上を図る。 学内の総合研究所や産後ケア研究センターなど、産官学連携による事業も展開、開始され、PR促進に繋がっている。				
○大学院看護学研究科 【計画18】⑦ 大学院告課程における課題研究及び 大学院修士課程における課題研究及び 特別研究の成果について、修了後1年以 内に口頭発表を行うとともに、誌上発表を行い、発表数を増加させる。 「計画選成のための方策」 ・研究倫理審査レベルの向上。 2. 迅速な審査と結果の伝達。 「評価指揮」・ 「評価指揮」・ ・の研修の受講状況・審査日後2日以内の申請者への結果伝達。		1.2. 研究発表会並びに大学院教授会を通して大学院生と指導教員への啓発を行い令和3年度修士課程修了者30名中14名(47%)が1年以内に学会発表を行ない、4編の誌上発表が行われた。・倫理審査委員向けの受講者は2名増加し、受講終了者は委員7名中4名となった。 ・審査日後の結果伝達は平均0.7日(0~2日)であり、迅速に結果をまとめた上で報告できた。	2. 迅速な審査と結果の伝達。 「 評価指標」 ・小委員会委員全員の倫理審査委員向 けの研修の受講2名		1. 研究発表会・大学院教授会により大学院学生と教員への啓発を行い、令和5年度には修士課程修了生35名中3名(9%)が学会発表を行い、3編の誌上発表が行われた。(2/28集計中)・倫理審査委員向け研修の受講者2名。委員の交替もあったが、受講修了者は委員7名中5名となった。・審査後の結果伝達は平均0.2日であり、迅速に結果を報告できた。 2. NPフォーラム2023を2023年12月2~3日で開催した。のべ参加者数は在学生含め136名であった。修了生によって実践報告で1題、シンポジウムで超の活動報告があった。また修了生実態調査報告では、対象となった修了生のうち、課題研究の学会への発表は約6割(54人)、学会誌等への掲載が約2割(21人)が実施していたことが明らかになった旨報告された。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○大学院千葉看護学研究科 【計画19-1】 研究科修士課程においては、各指導教員の役割分担と連携体制を明確にして 指導教員間の綿密な協議に基づき、DP を実現する体系的な大学院教育を行う こととし、院生の質を保証する組織的 な教育・研究指導体制の充実を図る。									
「計画連成のための方策」 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 施、工業看護学部の地域交流イベントにおいて、院生を主体とする企画を実施し、主として西船構地少住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 『評価指模』 ・地域交流イベントでの企画数、参加住民等からのアンケート結果、参加学生からのアンケート結果			【年度計画19-1】 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 (前年の情報をもとにテーマをしぼって情報収集を行う。 (2成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。 「評価指標」 地域交流イベントでの企画数(1つ以上)、参加住民等からの肯定的な意見、参加学生からの肯定的な意見、参加学生からの肯定的な意見、参加学生からの肯定的な意見、活動報告公開数(1つ以上)	ш	1. 前年度の成果について、一部をJGHO学会において発表した。3月 24日に開催された地域交流イベントにおいて、研究科学生による演習成果発表会を行った。令和6年度は、それまでの活動を令和7年度 紀要に発表することをめざして成果の整理を行うとともに、今後の成果発表の焦点化について検討することが課題である。				
2. 修了生の研究発表支援の実施。 修了生の研究成果の公開を支援し、実 装的研究実施支援の在り方を検討す る。 「評価指標」 ・修士論文の学会等での発表及び学会 誌等へのアクセブト数、及び内容、自己/第三者評価結果		2. 毎月行う研究指導教員で行う研究科運営会議おいて、特別研究の進捗状況について共有し、外部審査担当を置いた特別研究の審査体制を明文化し、初の修士課程修了生5名を輩出する足ができた。合わせて、終了後の学会発表・論文公表への支援を継続するとができた。大学内外の関係者に公開する発表をを開催した。研究科教員、学部教員ほか、病院の看護部長の参加も得ることができた。・研究科学生により、地域交流イベントで、研究科の学修成果を発・研究科学生により、地域交流イベントで、研究科の学修成果を発教授会では未実施である。	修了生を支援し学会・誌上発表を行う。 ・地域交流イベント等において発表の企画を設ける。 前年度計画記載の修了生の状況を加え た検討会を開催する。		2. 令和4年度修了生5名中4名が学会発表し、1名は令和6年度5月の学会発表が確定している。 ・令和5年度地域交流イベントでは、「地域看護機能推進演習(必修)」履修者により、演習での成果物をもとに発表をおこない、参加者との意見交換を行った。当日は、上智大学地域看護学教授を招聘し、意見交換及び助言を得ることで、今後の課題についてフィードバックがなされた。 ・令和4年度修了生の授業評価アンケート結果に基づき、令和5年度の授業改善につなげた。定期研究科運営会議にて、特別研究の進捗、令和5年度学位(修士)申請者の論文審査の評価基準をもとに各学生の取り組み状況を共有し検討した。				
3. 教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 学生からの授業評価並びにそれに対する教員の自己評価、各会議での検討等に基づき、大学院DPに照らした点検評価を行い、CP、AP及びDPの改定に向けた準備を行う。 「評価指揮」・検討会の開催回数、成果物としての新カリキュラムの有無と内容		3. 令和3年度の学生からの授業評価アンケート結果を、8月に各科目で検討し、後期の教育活動ならびに令和5年度授業改善に活用した。令和4年度前期・後期開講科目については、今年度の履修者等了生の状況を資料として、各科目ならびに研究科運営会議で改善点の検討を行った。特に、1年次後期必修科目の「看護機能推進演習」については、点検評価金議を開催し、1年次前期必修科目の「看護機能推進演習」については、点検評価会議を開催し、1年次前期必修科目の人人学者の上学イネスを考慮し、DPの達成に向けて効果的に運営が、入学者のレディネスを考慮し、DPの達成に向けて効果的に運営する方策について意見交換し、議事録として改善計画報告書を作成した。また、和歌山看護学研究科と合同で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」という合同学習会を行い、入学者のレディネスに合わせた指導について検討した。	活動の推進。 「評価指標」 ・検討会の開催回数(年2回)、成果物としての点検評価・改善計画報告書と	IV	3. 令和4年度の学生からの授業評価アンケート結果に基づき、令和5年度の授業改善につなげた。各科目の検討会議および研究科運営会議において、到達目標の達成状況や他科目との関連性からの学習的展生を検討した。科目と各PVとの関係については、次年度以降さらに整理を行う必要性を教務委員会で確認した。以上の記録は、各議事場にした。、十会和5年度は特別研究担当教員1名を加えるとともに、各学生の研究テーマに応じて、大学院担当教員のなかから副指導教員を選出し、指導体制の充実を図った。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画19-2】 ⑦ 『子生の研究成果の公開を支援し、実 を的研究成果の公開を支援し、実 を的研究実施支援の在り方を検討する。 「計画達成のための方策」 研究科PIにのつのとり、保健護療福祉に明 健化をめば連携の修工をの研究成果の公 引を支援し、実装的研究実施支援の 引を支援し、実装的研究実施支援の方を検討する。 「評価指揮」 学生の授業津評価アンケートによる授 学生の授業津平価アの研究成果の公開を の質評価集の作工をの研究機能の明確 との質評価携の性進や看護機能の明確 とに関する情報交換会等の開催数		・「特別研究」は、初開講であるため、授業評価アンケート結果はまだ届いていないが、研究指導教員で毎月開催する研究科運営会議の場を中心に、特別研究の進捗状況を共有し、学会発表や学会誌投稿を視野にいれた支援の在り方を検討した。	う。地域交流イベント等において発表		・令和4年度修了生5名のうち4名が研究生となり、担当教員の指導のもと学会発表、論文の投稿準備を進めた。研究生ではない者も含め、5名中4名が学会発表を終え、1名は令和6年5月学会発表が確定している。・令和5年度地域交流イベントでは、「地域看護機能推進演習(必修)」屋修者により、演習での成果物をもとに発表をおこない、参加者との意見交換を行った。当日は、上智大学地域看護学教授を招聘し、意見交換及び助言を得ることで、今後の課題についてフィードバックがなされた。・令和4年度修了生の授業評価アンケート結果に基づき、令和5年度の授業改善につなげた。定期研究科運営会議にて、特別研究の進捗、令和5年度学位(修士)申請者の論文審査の評価基準をもとに各学生の取り組み状況を共有し検討した。				
【計画19-3】 ② 受計画で学生を確保する。 「計画速成のための方策」 基盤となる人材の獲得を保健和受力を通して、研究を対して、研究を対して、研究を対して、研究を対した。ない、工作を対した。ない、工作を対した。ない、工作を対した。なり、工作を対した。なり、工作を対して、研究をもって、工作を対して、研究をもって、工作を対して、対して、対して、対して、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	ш	・千葉県内の施設470箇所ならびに、JCH0病院・看護学校60箇所に 募集ポスター配布を2回行った上で、入試説明会は2回開催し、個別 相談は15名に実施した。学生へのアンケートとの照合はデー るが、本学研究科志願理由や、入学後の科目選択、研究テーマ設定 から、本学研究科で目指す地域医療の場で看護機能を推進する人材 像と一致していることを確認できている。	業評価アンケートを分析し、評価改善を行う。修了生の現場での活動状況を 把握するための手段(アンケート、修	IV	・千葉県内の施設470箇所ならびに、JCHO病院・看護学校60箇所に募集ポスター配布を2回行った上で、入試説明会を2回開催した。また、学部の実習施設となっているJCHO病院に訪問し、パンフレットの配架依頼等の広報活動を実施した。・学生へ授業評価アンケートの分析は科目担当者間のみの実施であり、全体での把握はよしていなが、PPと照合しての自己評価や、研究テーマ設定から、本学研究科で目指す地域医療の場で看護機能を推進する人材像と一致している。・就学中に離職していた学生も修了後は就職し、全員保健医療現場(教育含む)で活動していく。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画19-4】 ⑦ 仕事を持つ学生への修学支援等を行う。 「計画達成のための方策」 1. 学生が仕事を継続しながら学修できるよう時間割を工夫するとともに遠隔 対策とそのサポートの仕組みを整備する。	IV	1. 令和3年度および4年度の授業実施・出席状況ならびに、学修成果 について、研究科運営会議にて検討した。その結果を受け、選択必 修科目の時間割上表裏を最小にしたり、履修希望者の多い隔年開講 科目を毎年開講としたり、複数科目について、研究デザイン検討と 使時間割を作成した。令和5年度の入学者は11名全員が社会人であ り、令和5年度の入学予定者10名もすべて社会人となっている。	WEB公開する(1コマ分)	IV	1. 令和5年度入学生10名が仕事を継続しながら学業を継続できるよう、業務で欠席せざるを得ない授業については終了後にオンデマント配信を行った。特別研究のゼミに関しても、学生の勤務に応じて柔軟にスケジュール調整を行い、研究計画を進められるよう支援した。				
2. 科目等履修制度の整備・活用を推進 する。	ш	2. 科目等履修制度ついて、入試説明会だけでなく、個別相談でも 周知し、ホームページ上でも募集案内を行い、令和4年度2名、令和 5年度1名 の科目等履修生の利用があった。		IV	2. 科目等履修制度について、入試説明会、個別相談、ホームページ 上で募集案内を行い、令和5年度1名の利用者は、令和6年度入学予 定となった。令和6年度も1名の科目等履修生の利用予定であり、該 当者には、大学院出願に向けた準備とあわせて、効果的な履修計画 となるよう個別相談を行った。科目等履修生選考の実施要項を作成 し、本制度の運用を円滑にする体制を整えた。				
3. 地域交流イベントやWEB掲載等により研究科主催の公開授業を実施する。 「評価指標」・学生の授業評価アンケートによる出席のしやすさ・サポート評価、仕事を継続しながらの入学生数、欠席・休学状況、科目等履修制度利用者数、研究科主催の公開授業実施数		3. 地域交流イベントで、研究科主催の公開授業は行わなかったが、大学院学生による学修成果報告を行った。	「評価指標」 ・学生の授業評価アンケートによる出 原のしやすさ・サポート評価、仕事を 継続しながらの入学生数、欠席・休学 状況、科目等履修制度利用者数、研究 科主催の公開授業実施数	Ш	3. 学生の授業評価アンケートから、出席のしやすさ、履修支援に関して否定的な意見は認められなかった。令和5年度は入学生10名中9名が前から従事する仕事を継続していた。残り1名も学内で非常勤助手として働きながら学修に取り組んだ。前年度休学していた学生1名は後期から復学したが、研究より非常勤業務の優先を希望し、退学した。科目等履修生は1名であった。研究科主催の公開授業は行わなかったが、地域交流イベントで大学院生10名が看護機能推進演習における学習成果を発表した。・次年度は、公開授業について、募集につながる模擬授業をWeb公開することを検討する。				
【計画19-5】 ② 地域連携に関する共同研究を実施する。 「計画違成のための方策」 保健医療福祉における地域連携の推進 養・流習生開発・展開し、これ自研究 を行う。 「評価指揮」・近れ自動をを開始し、 「評価指揮」・である地域を が、対しての教員によるピるる地域を が、対しての教師、保健を が、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して		・令和3年度入学者9名から、初の修士課程修了生5名を輩出し、修 士論文に対する学外審査も得ることができ、発表会では病院看護管 理者の参加も得た。個人の事情で1名が選挙したものの、1名は働きながらの研究の継続として卒業を延期しており、2名は休空活迅 し、修了に向けている。修了生5名からは、カリキュラム全体を活通 し、修了に向けている。修了生5名からは、カリキュラム全体を活 して、PPを達成する力を獲得したとの高評価を得ている。教員のピ アレビューを通して、入学後に科目を履修しながら、研究に合わせ アレビュを通して、入学後に科目を履修しながら、研究に合わせ には、修士研究としての質向上に向けた1年次からの指導 していく上では、修士研究としての質向上に向けた1年次からの指導 上の工夫と履修年限に関する学修支援を行う必要性を確認してい る。修士論文のテーマはいずれも地域連携を推進する研究であり、 令和5年度に多看護系学会等で共同研究として、学会発表、学会誌 投稿を予定している。	(1つ)。 『評価指標』 ・研究科内での教員によるピアレビュー数と評価、修士論文に対する学 内外の評価、保健医療福祉における地 壊連携の推進と看護機能の明確化に関 する共同研究の数	ш	・開設初年度(令和3年度)より、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する講義・演習として、看護機能推進特論および演習を実施し、3回目となる本年度に学生の授業評価との達成状況と基づいた評価を科目担当教員全員で行い、内容と方法に改善をかったフィールドワークを取り入れ、これ19感染のため実施できなかったフィールドワークを取り入れ、これにより周辺地域への貢献につなげることを検討する。加えて、修了生の研究公開状況を確認する。・共同研究は実施しておらず、次年度には実践報告として本学紀要に投稿すること、および修了生との研究の可能性を探索する。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○大学院和歌山看護学研究科 【計画20-1】⑦ 教職員体制の充実のもと、DPを実現す るための教育方法を開発し学生の学び の質を保証する。									
「計画連成のための方策」 1. 社会人学生の学びを推進する教育方法を開発する。 「評価指標」 ・教育方法と教育体制の検討・開発状況、大学院担当教員数 ・遠隔地でも学べる学習環境の整備状況	ш	1. 准教授、講師を特論、演習科目に配置し、修士論文審査では新たに准教授を中心に副査として配置し、充実を図った。社会人学生であるため、学びの準備のために入学前教育を実施した。また学びを推進する教育方法を検討するため、修了生、在学生、教員を対象に「教学調査」を実施した。学習環境については8割が満足というに学修支援アプリー、実であった。自由記載から、ICTスキルの向上とそれらが学修成果に繋がるように、Desknet'sやWebClassといった学修支援アプリッドに対応できる受講環境の整備し、遠隔地からも学べる環境が整った、大学院生当教員数は、開設当初の教授7名、准教授2名、講師3名から、今年度は教授8名、准教授9名、講師5名となった。新規教員の多い体制であったために教育方法検討については、次年度の課題として引き続き検討したい。	①社会人学生の学びを推進する教育方法を検討する。 ②遠隔地でも学びを可能にする教育方法、教育体制を検討する。 ③入学前教育により大学院での学びへの適応を図る。 「 評価指標」 ・教育方法と教育体制の検討・開発状況、大学院担当教員数	IV	1. 令和4年度に引き続き、充実した担当教員により、修士論文審査を実施することができた。 ・ハイブリッドによる受講環境の下、学生は仕事の状況に応じてタイムリーにオンラインか対面を選択して講義や演習への出席が可能になった。学生の学修ニーズの確認し、必要な文献検索、分析方法など個別に対応した。研究室の整備により、研究室がよく活用され、学生同士のディスカッションが活発に行われるようになった。今年度は7名中6名が2年で終了した。 入学前教育はプレセミナーとして、大学院で学ぶことについて説明し、在学生から学び方や生活について具体的に聞く機会を設けている。 ・大学院担当教員数は、教授8名、准教授9名、講師4名の体制であった。				
2. 修了生の研究成果の公表を支援する。 「 評価指標」 ・学会等での発表および学会誌等への 投稿数及び内容の状況		2. 修了生に学会発表と学会誌への投稿について継続して指導することを伝え、指導教授は支援した。学生の連絡先の登録ができたため、支援体制の構築に向けては次年度に検討する。・令和3年度修了生10名中、学会発表は今年の発表予定を含め6名、投稿は紀要に1名、学会誌に2名行い、1名は学会誌に原著で受理された。	その後の投稿を支援する。 「 評価指標」 ・学会等での発表および学会誌等への		2. 修了生への学会発表および論文投稿に向けた指導を継続して行っている。次年度からは個別指導を継続するとともに研究生制度をスタートし、キャンパスの学習環境も整えた。 ・修了生の成果として、学会誌への原著:2、紀要への研究報告:1、学会発表が9(内1名優秀演題賞)、院内報告が2であり、今後に向けて学会誌への投稿中、次年度学会発表にエントリーしている。				
【計画20・2】⑦ 学生の社会生活と学習を両立できる環境整備を図る。 「計画速成のための方策」 各種奨学金、補助金等に関する情報収集と獲得及び学生への周知を行うとともに、学生の学べる。科目履修での学び方法の検討を行い、科目履修での学び存制のる。「評価指揮」・各種奨学金、補助金の獲得状況・学生の学べる時間に応じた学習方法の開発状況(e-ラーニングなど)・科目履修生制度の利用状況	Z IV	1. 各種奨学金、補助金等について、入試説明会、大学院教務ガイダンスで行っている。学生募集に大きく関わるために具体的な説明を実施した。特に教育訓練給付制度については、入学1か月前までに申請が必要なため間に合うように説明を行った。2. 学生の学へる時間に応じた学習方法の検討(eーラーニングなど)は、検討を継続する。 3. 科目履修は入学につながる可能性があるために、入学説明と同時に科目履修についての説明も行い、広報活動を行っている。・教育訓練給付金制度は令和5年度から開始のために説明を受けた人学予定の3名が手続きを行っている。対面、オンデンド、ハイブリッドの環境が整ったため、科目レベルでそれらを有効に活用するための検討を継続する。学習方法の開発は次年度継続して検討する。今年度の科目履修制度の利用はなかったが、令和5年度は3名の予定である。	収集と獲得及び学生への周知を行う。 2. 学生の学べる時間に応じた学習方法 の検討を行う(eーラーニングなど) 3. 科目履修での学びを勧める。 「評価提供」 ・管生の学べる時間に応じた学習方法 の開発状況(e-ラーニングなど) ・科目履修生制度の利用状況	ш	1. 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練給付)の指定を受けているため、申請手続きについて説明し、6名の学生が活用し学費の負担軽減がされている。 2. ハイブリッド型の授業を行っているが、自分の都合の良い時間に学べる。ラーニング等の検討をしていく。 3. 科目履修生は2名。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画20・3】で 修了生の学修継続支援を行う。 「計画連成のための方策」 修了生の研究成果発表の機会を確保するなどにより、修了生の学修継続支援 を行う。 「評価指標」 ・修了生の学習支援機会の確保数 ・研究成果の発表と投稿数		・修了生の研究成果発表の機会の確保については、修士論文指導教員が主として個別的に行っている現状である。 ・修了生の動向を把握し、学習支援機会について検討を始めたところである。教務委員会が推進するシステムを構築する予定である。研究成果としては、修了生1名が日本看護協会認定看護管理者に合格した。研究成果の発表と投稿数は【年度計画20-1】の評価で示した。	るなどにより、修了生の学修継続支援 を行う。 「評価指標」 ・修了生の学習支援機会の開催数	ш	・本研究科修了生に対して研究生制度を次年度から開始する予定で 2名が応募した。研究生の学習環境として文献検索できるパソコン の設置も行った。				
○助産学専攻料 【計画21-1】⑦ 教育理念・教育目標に沿った教育プログラムを構築する。 「計画建成のための方策」 1. 教育理念に則った教育プログラムの確立。 1) 明確な教育目標の設定。 2) 教育目標に応じたカリキュラムの再 構築 2. (2) 教育制度の導入 (3) 主体的な学修を促す教育方法の導入 (2) ルーブリック評価法などを活用し、学生へもわかりやすい評価の提示 (3) CBT・OSCEの実施 (4) 契傷縫合・経腹エコーの技術の獲得 「評価権援」 ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入 状況	Ш	1. 母子保健法の改正により、助産師は生後1年までの母子の支援が 求められるため、カリキュラム変更を行い「乳幼児の発育・発達と ケア」を新規科目として立ち上げた。本科目では、新生児科医師の 講義も多く配置し、健診時の診断能力の向上も目指している。 2. OBTやOSCEが今後、国家試験での新規取り組みとして導入が見込 まれるため、全国助産師教育協議をでの取り組みにも参加し、次年 度以降実施していくための準備を行った。ただし、OSCEの実施にあ たっては、学生1名あたりに多大な時間を要するため、実施方法に 関して検討が必要である。 製傷縫合演習は今年度も実施した。経腹エコーは機器の購入が図ら れた。次年度以降演習内に取り入れていく。	1) 明確な教育目標の設定。 2) 教育目標に応じたカリキュラムの再 構築 2. 新しい教育制度の導入 1) 主体的な学修を促す教育方法の導入 2) ルーブリック評価法などを活用し、 学生へもわかりやすい評価の提示	Ш	1. 母子保健法の改正により、助産師は生後1年までの母子の支援が求められるため、カリキュラム変更を行い「乳幼児の発育・発達とケア」を新規科目として立ち上げた。本科目では、新生児科医師の講義も多く配置し、健診時の診断能力の向上も目指している。2. CBTやOSCEが今後、国家試験での新規取り組みとして導入が見込まれるため、全国助産師教育協議会での取り組みにも参加し、プログラム作成に携わった。今後、1年課程への導入方法に関して検討していく。 製傷縫合演習は今年度も実施した。経腹エコーは機器の購入が図られた。次年度以降演習内に取り入れていく。				
【計画21-2】⑦ 産後ケアセンターでの実習を通し、地域の母子を支援する。 「計画連成のための方策」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ш	1、6、7.産後ケア研究センターが、地域で生活している母子の支援に触れることができ、助産学専攻科の実習施設として成立してきている。また、オンライン育児クラスの開催によって、コロナ禍における地域の母子の実際や支援ニーズを学ぶ機会となった。 2. 地域母子保健学の講義内で、地域や海外で活躍する医療職の話を関き、異なる文化圏における学習の機会を設けた。 3. 各講習会を受講し実践演習を行った後、試験に合格して資格認定を受けた。 4. コロナ禍により、実習受け入れ人数や受け入れ期間の減少などあるが、学内実習での補充も含め、10例程度の分娩介助を確保できた。5. 母子保健法の改正により、定後ケアの対象は産後1年までの母子となったことから、「助産診断・技術学」や新設した「乳幼児の発育・発達とケア」において、1年までの母子を診る力の向上に努めている。	開始。	ш	・産後ケア研究センターにおいて、地域で生活している母子の現状と実際の支援に触れることができ、助産学専攻科生全員の実習施設として成立している。 ・母子支援クラスの開催によって、地域の母子の実際や支援ニーズを学ぶ機会となった。 ・地域母子保健学の講義内で、地域や海外で活躍する医療職の話を関き、異なる文化圏における学習の機会を設けた。 ・各請習会を受講し実践演習を行った後、試験に合格して資格認定を受けた。 ・実習受け入れ人数や受け入れ期間の減少などあるが、学内実習での補充も含め、10例程度の分娩介助を確対象をできた。 ・母子保健法の改正により、産後ケモと。 ・母子保証法の改正により、産後ケースを診る力の向上に努めている。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画21-3】 ⑦ 大学と臨床施設との連携を図り、 大学大学と臨床施設との連携を図り、 大学大学院までのキャリアを見据えた教育を実施する。 「計画選成のための方策」 1. NCPR講習会や受胎調節実地指導員講習会の開催。 2. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 3. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 4. チーム医療推進助産師研修会への参加。 5. 実習協議会の開催。 「評価指揮」 ・実習施設への就職率	: III	1、2. 産後ケア研究センターの従事者研修会やNCPR講習会など、実習施設にも公開し、臨床スタッフの参加も促している。3. 本学で開催した東京母性衛生学会学術セミナーに、実習施設の助産師の参加が多数あった。4. オンラインで実習協議会を開催し、今年度の実習指導の振り返りや次年度に向けての検討を行った。今年の卒業生の実習施設への就職率は40%程度に増加した。	会への参加。 3. 東京母性衛生学会学術セミナーの参	ш	1.2. 産後ケア研究センターの従事者研修会やNCPR講習会など、実習施設にも公開し、臨床スタッフの参加も促している。 4.5. オンラインで実習協議会を開催し、今年度の実習指導の振り返りや次年度に向けての検討を行った。今年の卒業生の実習施設への就職率は40%程度であった。				
【計画21-4】 ⑦ 研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立する。 「計画達成のための方策」 研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る。 1. 体系・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指揮」・研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成状況	. п	・研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立するために、研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る計画1-4を立案した。 1. 体系的なカリキュラムの構築として、共通科目から個別的な専門科目、そして修士・博士論文作成の研究に至るまでを段階的に学べるように、研究特論など基礎的科目も充実させた。 2に関しては、進行はできなかった。 4の産学連携・地域連携による共同研究の推進を図ることで、計画3の国際会議発表の推進に導けるように取り組んでいる。取り組みの中で、研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成を図るために、研究のスケジューリングを指導している状況である。	材育成を図る。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指揮」・研究レベル向上の為の大学教育プロ	ш	・研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立するために、研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る計画1-4を立案した。 1. 体系的なカリキュラムの構築として、基礎科目から助産の専門科目、論文作成に至るまでを段階的に学べるように、カリキュラムを構築している。 2. 首都圏の内部進学者が増加し、学部から助産学専攻科への一貫教育が図られつつある。 3. 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進を図ることで、計画国際会議発表の推進に導けるように取り組んでいる。				
【計画21-5】 ⑦ 研究レベル向上の為の教育プログラム際でレベル向上の為の教育プログラムの確立を図るとともに、学際的・調できる人材育成のシステムを整備する。 「計画達成のための方策」 研究ウベルに裏付けられた大学院での人材育成を図る。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大禁疫の推進携による共同研究の推進。 「評価担果上の学会、研修会への参加・勉強的英語教育の導用催状況・実語が録析を受の場所状況、英語が録析を発表状況、・実践語が録析を発表状況・学生の海外発表経験者数の状況	п	研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立するために、研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る計画1-4を立案した。 1. 体系的なカリキュラムの構築として、共通科目から個別的な専門科目、そして修士・博士論文作成の研究に至るまでを段階的に学べるように、研究特論など基礎的科目も充実させた。 2に関しては、進行はできなかった。 4の産学連携・地域連携による共同研究の推進を図ることで、計画3の国際会議発表の推進に導けるように取り組んでいる。取り組みの中で、研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成を図るために、研究のスケジューリングを指導している状況である。	「評価指標」 —		_				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画21-6】 ⑦ 助産学専攻科のアメニティ空間の改善を図る。 「計画達成のための方策」 キャンパス教育環境向上プロジェクト を推進する。 1. 施設のアメニティ空間の改善。 2. グローバル化に対応する施設環境整備。 3. 良質な学修環境整備。 「評価指揮」 ・キャンパス空間の整備状況	П	1、2 講義教室が大学院と共有であるため、常時使用できるわけではなく、使用教室が日によって変わってしまい、学生の学習環境の確保が求められる。3. 学生の分娩介助演習のために、分娩介助モデルを新規購入したが、学生数に対し不十分であるので、充足させていく。	【年度計画21-6】 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1.施設のアメニティ空間の改善。 2.グローバル化に対応する施設環境整備。 3.良質な学修環境整備。 「評価指揮」 ・キャンパス空間の整備状況	п	1-3. 講義教室が大学院と共有であるが、日程調整し、学生の学習環境の確保に努めている。第3別館の教室や階段に関して、学生より整備を求めるオピニオンが出ており、対応が必要である。				
【計画21-7】 か 大学ブランドを学生が認めて受験したいと思える大学及び助産学専攻科をつくる。 「計画連成のための方策」 産学協同体制の構築によるブランドカ 向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化によるPR効果 の促進。 3. 地域社会との連携によるPR促進。 4. 特別教授制度による予保促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 5. 国際交流グローバル化推進。 「評価指揮」 ・一般入試志願倍率 5倍以上	III	1-3. 産後ケア研究センターでの取り組みや、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページでの紹介などのPR促進効果により、オンラインでの助産学専攻科のオーブンキャンパスでは、参加者100名程度と大変盛況であり、本学に進学したいと思ったなどの感想が多かった。 一般入試の受験者は70名程度であり、志願者倍率は、5倍以上となった。 5. 【年度計画21-2】を参照。授業の一環で、海外で活躍する医療職の話を聞く機会を設け、将来のキャリア選択の一助としている。	1. 卒業生との交流活性化によるPR効果 の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的なPR促 進。 3. 地域社会との連携によるPR促進。	ш	1-3. 産後ケア研究センターでの取り組みや、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページでの紹介などのPR促進効果により、オンラインでの助産学専攻科のオーブンキャンパスでは、参加者100名程度と大変盛況であり、本学に進学したいと思ったなどの感想が多かった。内部進学希望者も増加している。4.5. 授業の一環で、海外で活躍する医療職の話を聞く機会を設け、将来のキャリア選択の一助としている。				
○和歌山助産学専攻料 【計画22-1】⑦ 「災害と助産」の必修科目を踏まえ、 一 「災害と助産」の必修科目を踏まえ、 一 「計画速成のための方策」 全国でリスで、 全国でリスで、 一 「公本では、 一 「大のでは、 「大の	IV	・地震をはじめとした災害時の助産や母子保健について、備えから 発生直後、中長期にわたる避難所生活に至るまで、専門家を招聘し でオムニバス方式で多面的に授業を行った。 ・アンケートによると「基本的な専門知識が得られた」「新しい考 え方や発起が得られた」「総合的に満足を上りの問いに全員が 「思う」と回答した。和歌山県の実情に沿った現実的な授業を展開 できた。	健における災害時への関心が高まる授 業アンケートの実施。	IV	・災害時の助産や母子保健について、備えから発生直後、中長期にわたる避難所生活に至るまで、専門家を招聘してオムニバス方式で授業を行った。・アンケートによると「基本的な専門知識が得られた」「新し身が「え方や発剤が得られた」「総合的に満足できた」の問いても見が「思う」と回答した。和歌山県の実情に沿った現実的な授業を展開できた。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画22-2】 必修科目喪人体験者、一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一	IV	・臨床カウンセラーである講師の演習を行った。 ・アンケートでは、「基本的な専門知識が得られた」「新しい考え 方や発想が得られた」「発展的な学びにつながる」「総合的に満足 できた」の問いについて全員が「思う」と回答した。このような実 践的な演習は初めてで、実習前に有意義だったという声が多かっ た。	て理解する、授業アンケートを実施す る。	IV	・昨年同様、大学病院で周産期のペリネイタルロスなどを支援している専門のカウンセラー(公認心理師)を非常勤講師に招いて、版成の実践的な演習も踏まえた授業科目を開講できなかったが、学生の声を聴くと授業は好評で、有意義な時間だったと述べていた。				
【計画22-3】 ⑦ 一歩先を見据えながら助産を創造し、 地域周度を期医療向上に寄与できる助産 師の育成を図る。 「計画連成のための方策」 和歌山看護学部から進学を希望希望・ 子ので地域周をから連ずを希をなり、 の大した。優秀な人の方では、一条とし、後の ができるよう支援する。 「評価指揮」 ・定員充足率の状況 ・助産師国家試験合格率、就職率の状況	IV	・実習施設の確保の問題から定員には満たないが、8名の合格者全員が入学した。 ・実習施設の現状から80%の定員充足率であった。就職率は100 で、助産師国家試験は全員が受験し100%の合格率であった。	科したため、以降の定員充足率を100%	ш	・令和5年度までは実習施設の確保の問題から定員は8名としたが、 入学辞退者が1名出て7名の入学者で開議した。入学者7名全員が単 位を取得し、修了することができた。 ・令和6年度からは定員10名の入学者を予定していたが、学部内受 験者数が3名、学外受験者数も7名とどちらも昨年よりも少なく、合 格辞退者1名が出た結果9名の入学予定者で開議することとなった。 学部内進学希望は多かったものの最終的に受験につながらず、奨学 ウルート方法も検討していく必要がある。 ・就職率は令和5年度も100%で、助産師国家試験は全員が受験した。				
【計画22-4】 ② 国際的視野と研究力を備え、国際資質を研究力を備え、国際資質を研究力を一となるの子を成する。 「計画連成のための方策」グローバル化の問題を解決するたフルグので世界の問題を解決するカールので世界の間が多数をがある。で要求して、「実際では、一般では、「実際では、一般では、「実際では、一般では、「実際である。」での優を表して、「実際である。」での優別では、「実際である。」での個別では、「実際である。」で、「国際は、「大学、シスで、「国際母子、保健活動」の関係をまたは聴講状況・学会への参加状況	IV	・ガイダンスで当該科目の意義を説明した。 ・全員が選択した。授業アンケートでは、「専門知識が得られた」 や「新しい考え方や発想が得られた」「この授業は総合的に満足できた」に全員が「思う」と回答するなど関心は高かった。令和4年月の日本母性衛生学会学術集会に全員が参加し、履修状況と機等担価も踏まえ、国際母子保健について視野を広め、将来のリーダーとなる資質を養成できた。	・履修または聴講する。学会に1回参加す) る。 ፤	IV	・ガイダンスで昨年同様に意義を説明し、全員が選択した。授業アンケートを閲覧できなかったが、担当教員からは学生が熱心に受講していたと聞くことができた。 ・令和5年度も日本母性衛生学会学術集会に学生全員が参加し、国際母子保健について視野を広め、リーダーの資質の基盤ができたと考える。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○感染制御学教育研究センター									
【計画23-1】 グ 「感染制御実践看護学講座」を継続す るとともに、COVID-19パンデミックを 経験し、感染制御に関わる人材育成に ついて、本学がどのように貢献できる のか、引き続き検討していく。									
「計画達成のための方策」 1. 「感染制御実践看護学講座」の継	Ш	1. 23名の合格者のうち、個人的理由で1名離脱し22名が修了し「感	【年度計画23-1】 1. 合格者数を20名~25名程度を維持す	Ш	1.24名の入学者全員が修了し「感染制御実践看護師」を授与した。				
^{続。} 2. COVID-19パンデミックを経験し、感 染制御に関わる人材育成についての検 討。		がえた。本研修会は診療報酬上の施設基準「適切な研修」と認められており、わが国の医療施設の感染対策を担う人材育成機関として	ために従来からの考査に加え「修了試験」を新設し、研修生と講座全体の評価を実施する。 3、修了生の動向調査を行う。以後、定期的に実施し、結果を公開していく方		2 「修了試験」に合格することが卒業認定の重要ポイントとして位置付けているが、それ以外に前期修了時点で実施する「科目試験」、自施設実習修了時点での「成果発表」、そして外部委員により審査を経て総合的に評価している。 3. アンケートは終了し、集計中。 4. 令和5年の研修生の応募数は定員の2倍に及び、関心の高さをうかがえた。本研修会は診療報酬上の施設基準「適切な研修」と認められており、行が国の医療施設の感染対策を担う人村育成機関として大きく貢献していたおり、令後も本体制を維持しつつ継続し				
「評価指標」 ・合格者数20名~25名を維持		C. Service Co. Co. S. F. Company 2 was 19 0 5 5 man by Co. Co.	ついて「特定看護師」育成プログラム を含め情報収集していく。 「評価指標」 - 合格者数20名~25名を維持		TIVE COMPANY OF THE STATE OF TH				
【計画23-2】 ⑦ JHAI 誌発刊を継続するとともに、高齢者施設医療従事者に対する感染制御の知識普及のためのセンターで可能な「研修」の在り方など情報収集を行う。									
「計画達成のための方策」 1. JHAI 誌発刊の継続。 2. 高齢者施設医療従事者に対する感染制御の知識普及は喫緊の課題となっていることから、センターで可能な「研修」の在り方などの情報収集。「評価指標」・JHAI 誌発刊年2回の発行維持・高齢者施設従事者への研修体制の構築状況	ш	1. 予定通り年2刊発刊。 2. 「高齢者施設性者」対象の感染制御に関する研修については、 現状のセンターの運営体制では企画自体難しく、当面高齢者施設従 事者をサポートする「感染制御実践看護師」の育成に注力してい く。	【年度計画23-2】 1. 年2回の発刊を維持していく。 2. センターで可能な高齢者施設従事者への研修体制を構築する。又は高齢者施設の感染制御の底上げのためにセンターで貢献できることを検討する。 「評価指揮」 - JHAI 誌発刊年2回の発行維持 - 高齢者施設従事者への研修体制の構築状況	IV	1.予定通り年2刊発刊。 2.計画「2」に関しては昨年同様、「高齢者施設従事者」対象の感 染制御に関する研修は、現状のセンターの運営体制では企画自体難 しく、高齢者施設従事者をサポートする「感染制御実践看護師」の 育成に注力していく。				
○ 産後ケア研究センター 【計画24-1】 ⑦ 産後ケア研究センターでの実習を通 し、地域の母子を支援する。									
「計画連成のための方策」 1. アーリー・エクスポージャーの一環として、定後ケア研究とンターなど、現場で働く助産師活動に触れる。 2. 地域や海外で助産師活動に従事する 調節の招致。 3. 地域に貢献できるように、妊産婦・	IV	・オンラインでの集団教育を計3回実施し、延べ20名の母親が参加した。 ・助産師学生21名を、地域母子保健学の演習や助産学実習Vの実習内で、地区路査や家庭訪問の実際、助産管理実習を実施した。電話相談や訪問型ケアの実際を学ぶことができたと学生より評価を受けた。	【 年度計画24-1】 COVID-19禍でオンライン育児クラス開始。	IV	・地域の母子を対象とした集団教育を計3回実施し、合計21組の母子が参加した。 ・助産師学生20名が、地域母子保健学の演習や助産学実習Vの実習内で、地区路査や家庭訪問の実際、助産管理実習を実施した。 ・母性看護学実習で8名、統合実習で10名、実習の受け入れを行った。				
乳幼児健診の実習の機会を増やす。 4.生活の場における地域での母子支援 の在り方について検討する。 「評価指標」 ・実習の受け入れ状況		・母性看護学実習で12名、統合実習で10名、実習の受け入れをした。	「評価指標」 ・実習の受け入れ状況						

第3期中期計画	評価区	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区	令和5年度計画達成状況	評価区	自己点検・評価委員会	評価区	内部質保証推進会議
【計画24-2】 か 大学と品川区との連携を図り、大学院 までのキャリアを見据えた教育を行う。 「計画達成のための方策」 1. 産後ケア研究センターの従事者研修 会への参加。 2. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 3. チーム医療推進助産師研修会への参加。 「評価指揮」 ・研修会の参加者数、参加回数	分 : : : : :	1. 産後ケア研究センターの従事者研修会は年度当初、3日間に渡り実施し、年度途中にブラッシュアップ研修も実施しており、参加者数は約20名であった。 2. 東京母性衛生学会学術セミナーは約50名が参加した。 3. チーム医療推進助産師研修会は、今年度はコロナ禍により中止した。	会への参加。 2. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。	分 IV	1. 産後ケア研究センターの従事者研修会は年度当初、3日間に渡り 実施し、年度途中にブラッシュアップ研修も実施しており、参加者 数は約15名であった。 3. チーム医療推進助産師研修会は、4名が参加した。	分		分	
【計画24-3】 ⑦ 産後ケア研究センターのアメニティ空間の改善を図る。 「計画速成のための方策」 キト面次ス教育環境向上プロジェクトを推進する。寿命化及び更新(アメニティ空間の改善)。2. グローバル化に対応する施設環境整備。「評価指標」・キャンパス空間の整備状況	п	1-3. 事務職員や従事者が働きやすい環境となるよう、配置転換を行った。また看護学科学生や助産学専攻科生の実習受け入れに関して、学生が学修しやすい環境整備を図っているが、産後ケア研究センター内のみでは狭小のため、他教室を利用して実施している。	を推進する。	IV	1-3. 事務職員や従事者が働きやすい環境となるよう、配置転換を行った。看護学科学生や助産学専攻科生の実習受け入れに関して、保健センター内の産後ケア室の開設により、学生が学修しやすい環境整備を図った。				
【計画24-4】 ⑦ 産学協同体制の構築によるブランドカ向上プロジェクトの推進を図る。 「計画速成かための方策」 産学協同体制の構築によるブランドカ向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的なPR促進。 3. 地域社会との連携によるPR促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。 5. 国際交流グローバル化推進。 「国際交流がリーバル化推進。「ブランドカ向上プロジェクトの推進状況	IV	1-3. 産後ケア研究センターでの取り組み内容について、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページ域の紹介などの限促進列果により、利用者数が維持されている。地社会との連携により、日帰り型産後ケアについて、新たな形態として保健センター内で実施できるよう、場所や物品、人員の検討準備を行った。5. 外国籍の対用者は前年度3名であったが、今年度は10名と増加したいるが、外国語の対応が可能なスタッフが従事していると増加しかららに保健センターからも外国籍の対象者の紹介があり、区とり、さらに保健センターからも外国籍の対象者の紹介があり、区との協力体制も調整できてきている。 ・産後ケアの利用者数は以下のように推移している。 ・和元年度 令和2年度 令和3年度 令和4年度日帰 325 162 228 223 15 間 344 127 194 202 電話相談 639 925 367 348 ※令和4年度は、1月までの数値となっている。	向上を図る。 1. 卒業生との交流活性化によるPR効果 の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的なPR促進。 3. 地域社会との連携によるPR促進。	IV	1-3.産後ケア研究センターでの取り組み内容について、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページでの紹介などのR促進効果により、利用者数が維持されている。卒業生も従事者として勤務し、交流が図られている。4.5.外国籍の利用者は今年度は5名おり、外国語の問診票を使用するなどして対応し、保健センターからも外国籍の対象者の紹介があり、区との協力体制も調整できてきている。				

第3期中:	期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○学長歌略本部等 【計画25-1】⑦(発生 健康25-1】②(発生 健康25-1】の(発生 健康25-1】の(表生 ルスピステズ) (文科ト国連成部かたのの すべて、の三 計画での学のへを研究・ 形で、31論ののための がで、31論のからのでので、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	ニット (TIS) 、へト (TIS) 、へイ (TIS) 、へイ (TIS) 、へイ (TIS) 、 へイ (TIS) で の で の で の で の で の で の で の で が と (TIS) に の が 上 (TIS) に の が 上 (TIS) に の が 上 (TIS) に で が と 業に 還元する。	ш	・3つの研究ユニットを立ち上げ、学内外に向けての各ユニットの活動を模索した。令和4年度は、健康情報基盤研究ユニット、教育DX研究ユニット、ヘルスシステムデザイン研究ユニットそれぞれのユニットで具体的な活動を実施した。	き研究活動を行う。		・新たに提携を行った京急サービス社との連携を深め、同社主催へ各種イベントへの本学の参加や連携しての新規事業への参画を図るなどにより、研究ユニットの活動推進を図った。 ・ヘルスシステムデザイン研究ユニットでは、台湾の提携先がカナダで展開しているホームケア支援システムを日本にローカライズするための研究に着手した。				
【計画25-2】⑦(総合 ヘルスラステム、ケータ のルスラステム、ケータ の大きに事として、カータ の大きに事として、カータ ののであり、大きな、カータ ののであり、大きな、カータ ののであり、大きな、カータ であり、大きな、カータ ののであり、大きな、カータ ののであり、大きな、カータ ののであり、大きな、カータ ののであり、大きな、カータ ののであり、大きな、カータ のであり、大きな、カータ のであり、大きな、カータ のであり、大きな、カータ のであり、大きな、カータ のであり、大きな、カータ のであり、大きな、カータ のであり、カータ のでは、カーをは、カーをは、カーをは、カーをは、カーをは、カーをは、カーをは、カーを	イン研きカー イン研究 ユニケー イを巻ック。 ・	IV	これから」と題したにヘルスケアDXシンポジウムを、台湾から医療 界のゲスト講師を招き、令和5年2月17日に実施した。対面・オンラ インをあわせ52名の参加申込があった。 ・学内学部生や若手教員を対象に、12月に懸賞論文「アジアととも に歩む一歩先の医療保健」を実施。応募論文の中から、学生の部で 2組3名が最優秀賞、若手教員の部で、1名が最優秀賞、2名が優秀賞 を受賞した。最優秀賞、優秀賞の受賞者は、受賞賞品として3月20	を継続し、そこで生まれたアイディアを選売し、研究プロジェクトなどの立ち上げを検討する。また、成果の一部を授業に還元する方法を検討する。 「評価指揮」		・京急サービス社が主催する横須賀市のイベントに、ゴールデンウィークとスポーツの日の2回参加した。医療栄養学科、医療情報学科の教員が中心となり、学科学生も参加して「子ども向け野菜カー」によっか野菜を使った試食提供」「骨密度測定」「頭動脈エコー体験」など種々の『健康チェック』のイベントを企画して、・京急サービス社、本学を含む三者による共同事業体を結成し、京急沿線の自治体が募集した体育施設の指定管理の競争入札に参加した。本学としては同施設を利用しての公開調座や健康携、本学としては一般でが入の地元での公開調座や健康増、でいれていた。を沿端では、大きないが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きな				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画25-3】 ⑦(総合研究所) 教育D X 研究ユニットの主管により、 教教員、大学教員がともに教育D X を学ぶ場としてオンラインシンポジウムを開催する。 「計画達成のための方策」 X減雷科目における授業満足度及びICE モデルによる自己評価が、DX以前より と0%以上向上する。 「評価指揮」 ・DX演習科目における授業満足度及び CEモデルによる自己評価の状況	īV	・教育DXユニットのイベントとして、令和4年12月10日に高校教員や大学教員を主たる対象として、「持続可能な社会を支える大学教育のこれから」と題したシンポジウムを、対面・オンラインのハイブリッド形式で実施し、計25名参加申込みがあった。「アクティブ・ラーニングと指導者コンピテンシー」の特別講演、「Society5.0niおける大学の役割」のバネルディスカッション行った。・令和5年3月13日に、教育支援コンテンツの開発支援を念頭に、教員経験が3年未満の教員や大学院生を対象とした「授業設計ワークショップ」を対面・オンラインのハイブリッド型で実施、25名が参加した。	評価が向上していることを確認し、評価する。 「 評価指標」 ・DX演習科目における授業満足度及び	ш	・前年度の授業設計を受けて、複数の学部の全体および一部の科目において、IGEモデルの本格運用を行った。授業満足度については、引き続き評価について分析を行っている。・株式会社ケアコムとの連携により、同社のケア環境研究所(群馬県)でのコメの栽培を通じて、デジタル教材を活用した食育の展開を、医療栄養学科及び青葉学園野沢ごそも園ともに図り、左配分野の中で「産業DXユニット」での活動を推進した。				
【計画25-4】⑦(総合研究所) 健康情報基盤研究ユニットの主管によ り、萌芽的研究に対する学内助成活動 を推進する。 「計画達成のための方策」 対から、研究成果(論文・書籍・知的 財産等)が生まれ、その成果を授業に 還行を指揮しまする。 「評価指揮」 ・学内助成活動による研究成果や社会活動からの研究成果の状況		・TIS株式会社との連携での資金導入により、学内での研究活動の助成を実施。前年度2月~3月に実施した学内募集に7件の応募があり、4月に厳正な審査を行い、最優秀賞1名(40万円)、優秀賞2名(5万円)を選定した。	せるためのフォローアップを行う。ま	п	・ユニットにおいて昨年度の助成対象者や外部資金の獲得テーマに ついてレビューを行い、事業化可能性について検討をした。 ・合わせて、オンラインセミナーの次年度実施について計画した。				
【計画25-5】⑦(I R推進室) IR推進室として、中期目標・計画やアウションプランに基づ定者では諸活動につは、 では検評価を行う際、報の共進者では、 では、計画・分析、情報の共進者である化」を推進する。 「計画達成のための方策」 1. 授業でのなり、「全学的な見るの代数で情報の表すでは、 が指する。「計画を収めための方策」 2. 授業であるでは、「全学的な見るの代」を推進する。 「評価推模」 「評価推模」 「中価推模」 「「学価指標」 「学価格機構」 「「学価格機構」 「「学価格機構」 「「学価格機構」 「特別である実態調査アンケートの回答率(継続)90% ・ 授業評価アンケートの回答率(継続)90% ・ 分析結果に対する感想や意見の件数年10件	ш	1. 学生の学修に関する実態調査アンケート、授業評価アンケートに は重要な定点調査であるところ、令和4年度は、分析結果を学生に 還元する「IRNessで学生版」の刊行ができなかったので、このデータ に対する意見収集を行えていない。令和5年5月までに「学生版」を 公表予定なので、早めに意見収集を行うようにしたい。 「学生版」を ・学年毎日標 ・授業評価アンケートの回答率(継続)59.2% ・授業評価アンケートの回答率(継続)62.7%	わる事項について機断的な情報収集・ 分析を行うことにより、「全学的な見 える化」を推進する。 「 評価指標」 ・学生の学修に関する実態調査アン		1.・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率は69.9%、授業評価アンケートの回答率は70.3%と、いずれも目標を下回った。回収率向上のための取り組みを次年度検討したい。2023年度は、分析結果について他大学IR推進室と意見交換会を行うことを優先したため、「感想や意見の件数」は算定不能である。昆交換会の結果、LMS利用時間という指標を有効活用することをはじめ、その結果を学内公開し始めたので、2024年度はその公表を行っていきたい。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
2. 高等教育に求められる役割が変化している情勢を十分に踏まえ、学修成果の可視化を図る基盤を整備する。	1	2. ディブロマ・ポリシーの運用状況等について、IR推進室運営会議 ・学修成果の可視化の一環としてキャンパスプランの改修に取り組 み、とくに出席状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実 装した。令和6年度から段階的に運用予定である。 ・九州大学で開催されたIR担当者会議に室員2名が出席し、情報交 換を行った。その後、近隣大学と連携し、IR推進室同士の情報交換 会を実施した。	ている情勢を十分に踏まえ、学修成果 の可視化を図る基盤を整備する。	Ш	2. 他大学IR推進室との交流は活性化し、2つの医療系大学と意見 交換を行うことができた。 ・ディブロマサブリメントの分析結果は、IR年報を通じて学内に フィードバックできた。				
「評価指標」 アセスメント・ブランに基づく学修 成果の定量的評価指標(ディブロマ・ サブリメント)分析結果の報告件数 (新規) 年2回 ・学修成果を可視化するためのデータ 基盤整備くキャンパス・ブラン整備> (継続)	: (「評価指標」 ・アセスメント・ブランに基づく学修成果の定量的評価指標(ディ ブロマ・サブリメント)分析結果の報告件数(新規) 年1回 ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告 件数 年1回	成果の定量的評価指標(ディプロマ・						
・高等教育関係団体や他大学からの情報収集(継続) ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年2回	<u> </u>		・高等教育関係団体や他大学からの情報収集(継続) ・他大学が修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年2 回						
3. 活力あふれる大学づくりを推進するため、情報分析の結果を積極的に還元する。	3	3. 令和4年度は、COVID-19対策本部が学校する「遠隔授業だより」 に掲載するためのLMSの利用状況データの提供等を行ったが、その 反面、IR推進室としての媒体発行には至らなかった。令和5年度は 独自媒体での広報活動を進めていきたい。 ・令和4年度は医学中央雑誌ペースで1857の研究業績があったが、 令和3年度は209件、令和2年度は202件であり、1割程度の減少がみ られている。また、原著に限れば令和4年度は19件と、令和3年度の 4代を和2年度の38件と比べても大幅な減少といえる。この状況 が続くことは望ましくないので、まずは現状を共有した上で投稿を が続くことは望ましくないので、まずは現状を共有した上で投稿を	ため、情報分析の結果を積極的に還元	II	3.・広報媒体については、2022年度まではCOVID-19対策本部が発行する「遠隔授業だより」にIRデータを提供する形をとることが多かったが、2023年度の途中で同本部が解散となったため、どの媒体を用いるのが効果的かはまだ検討段階である。・研究業績については、2023年度中に研究力強化会議が設置されたことから、同会議とも連携して研究パフォーマンス指標の策定を検討していく。				
「 評価指揮」 ・広報媒体の発行件数(IR News・IR年報の刊行)年2回 ・学生向け広報媒体の発行件数 年2回 ・研究業績に関する分析の検討(新規)	<u> </u>	促すとともに、引き続きモニタリングにつどめていきたいと考えている。 「評価指標」 ・広報媒体の発行件数(IR News・IR年報の刊行)年0回 ・学生向け広報媒体の発行件数 年0回	「評価指標」 ・広報媒体の発行件数(IR News・IR年報の刊行)年2回 ・学生向け広報媒体の発行件数 年2回 ・研究業績に関する分析の検討(新規)						

第3期中期計画	評価区	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区	令和5年度計画達成状況	評価区	自己点検・評価委員会	価区	内部質保証推進会議
【計画26】【計画2の再構】 (学長戦略本部・企画師) 教育の記録点から、毎年度定期、公本と画師の観点から検証を実施戦なで、観点からび検証を実施戦など情報を実施戦ならな表すの結果を中心では、大学後面路番手で、一般では、大学後の路本が、大学後の路本が、大学後の路本が、大学後の路本が、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のより、「解析を表す。」「解析を表す。「解析を表す。」「解析を表す。「解析を表す。」「解析を表す。「解析を表す。」「解析を表す。「解析を表す。」「解析を表す。「解析を表す。」「解析を表す。「解析を表す。」「解析を表す。「解析を表す。」 「教学のなどのでは、表す。」 「教学のなどのでは、表す。」 「教学のなどのでは、表す。」 「教学のなどのでは、表す。」 「教学のなどのでは、表す。」 「教学のなどのでは、表す。」 「教学のなどのでは、表す。」 「教学のなどのでは、表す。」 「教学のなどのなどのでは、表す。」 「教学のなどのなどのでは、表す。」 「教学のなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどの	IV	・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェなト手を踏まえ、「学格者本位の教育の実現」のため、「教学マネジメント」が適切に機能しているかを各階層ごとに、恒常的・総合的に点体が評価を実施した。適切であれる。「教学マネジメント」を検討・準備した結果、今知、リスト」及び「でセスメントブラン」を検討・準備した結果、今年111日開催の内部質保証推進会議にて正式に策定した。 趣、1717日には、各部局代表者等に対する説明会を開催した。 趣旨や内容等の説明を行ったほか、同説明会資料等は学内デスクネッカ内容等の説明を行った。 カースのでも資料や動画 08Aを確認できるよう情報共に突動なとともに、本年度内の試行的な運用についても依頼した。	学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメント、「デェックリスト(仮称)」を完成させ、「大学全体レベル」、「学位プリスト(版称)」を完成ログラに活用し、自己点検・評価及び検証を開始する。 「評価指標」・「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」の作成及び活用した自己点	ĬV	・入学者受入れの方針に基づく大学入学者選抜の実施に関する「教学マネジメント指針(追補)(令和5年2月24日)」が文部科学省から発出されたことを踏まえ、学長戦略本部の担当プロジェクトチームにおいて、「教学マネジメント月まックリスト (Ver. 21 」の改正案を策定し、令和5年7月12日開催の内部質保証推進会議において審護・承認されたので、改正版を7月13日付で学内関係者に周知した。・また、「アセスメントブラン」についても、日本私立学校接興與担大済事業団からの指導等も踏まえ、評価指標を追加する等のたり月18日開催の内部付いて等政策を策定し、令和5年10月18日の1931年進金議において審議・承認されたので、改正版を10月23日付で学内関係者に周知した。・令和5年をから「教学マネジメントチェックリスト」に基づく高様の10月23日の1931年を10月25日に開催し、「教学マネジストを10月25日に開催し、「教学ストンストスト」に基づく直接、評価の実施に向けてで美球機が参加する「東京医保保性を10月25日に開催し、「教学マネジスントチェックリスト」の現場について、上巻づく高校・評価の実施に向けで発援といる表表をいただき、「教学マネジメントチェックリストに表づく自己点検・評価を10月25日に開催し、「教学マネジストを書きないなが実が伝統で、「教育を行政が実がないまから、「教育を行政が大き、「教育を行政が表現といるのでは、「教育を行政を対して、とし、「令和5年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価」について、担当プロジェクトニームに表示を10月19日付で学内関係者に関した。・「令和5年12月6日開催の内部質保証推進会議において、担当プロジェクトニを発表で、18月19日付で学内関係者に関した。・「令和5年12月6日開催の内部質保証推進会議において、担当プロジェクトラに表示をで、18月19日付で学内関係者に関した。・「令和5年12月6日開催の内部質保証推進会議において、担当プロジェクトラに表示を10月19日付で学内関係者に関した。・「令和5年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価」について、2月19日付で学の対した。1月19日付で学内関係者に関した。・「令和5年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価」について、2月19日付で学の対した。1月19日付で学内関係者では、1月19日付で学内関係者では、1月19日付で学内関係者では、1月19日付で学内関係者では、1月19日付で学内関係者では、1月19日付で学内関係者では、1月19日付で学の対した。1月19日付で学の関係者では、1月19日付で学の関係者では、1月19日付で学の関係者では、1月19日付で学の関係者に対して、1月19日付に、1月19日付で学の関係者に対して、1月19日に、1月	9		分	

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
(計画27) (八枝季秀都) 本学生の受け入れ 【計画27) (八枝季秀都) 本学の登け入れ 本学の理念けらい。 (八枝季秀都) 本学の理念けらい。 (八枝季秀都) 本学の理念は、(一大社会に基立。) 本学のは、(一大社会に基立。) 本学、(一大社会に基立。) 、(一大力に表されて、人) 、(一大力に表すると、人) 、(一大力に表すると表すると、人) 、(一大力に表すると、人) 、(一大力に表すると表すると、人) 、(一大力に表すると、人) 、(一大力に表すると、人) 、(一大力に表する、人) 、(一	ш	1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し社会に周知を図るとともに、受性人ないので、大学方とで説明し周知を図った。2. 令和5年度総合型選抜では、医療保健学部医療栄養学科の入学者受け入れの方針を、学生募集に係る入学者選抜を踏まえ、各選抜人工でおいた選抜方法から自己推薦書、課題探求型の事前提出、療保健学部医療情報学科の選抜方法を、これまでの自己推薦書、及び面接いが、自己推放・製験は、一、総合か・多面的な評価とした、医療保健学部医療情報学科の選抜方法を、これまでの自己推薦書、とび面接いが、自己推放・科学教授、中人及び面接に続き、といるの主義を表した。3. 令和4年度入学者選抜について、総合助選抜方法を、記由書後の調査書に変更した。3. 令和4年度入学者選抜について、総合型選抜を導入し、多様な入学者選抜の分析を選抜をの入学者選抜について、総合型選抜を導入し、多様な入学者選抜をから、型選抜では、これまでの医療保健学部に加え、東が丘看護学部、和歌山看護学部の高学部が、高麗者を導入し、多様な入学者選抜から総合型選抜を導入し、多様な入学者選抜の学者選抜いる総合型選抜を薬施したが、残念ながら学生募集の増加にはつながらなかった。・一般選抜においては、6日程入試の内容を、英語+選択1科目の学力試験に調査書等がは、3月に特別日程の対すを対しました。・・一般選抜においては、6日程入試の内容を、英語+選択1科目の学力試験に調査書等が、1歳の第一年で、1年、1年、1年、1年、1年、1年、1年、1年、1年、1年、1年、1年、1年、	「入学者受け入れの方針」を学生募集 案項、本学ウェブサイトで公開するス 各種のイベント、オーブンキャンパス での周知と浸透を図る。 2、入学者選抜の方法の変更にともない、「入学者受け入れの方針」の事項 の見直しを行う。 3、前年度に引続き、前年度計画記載の 高大楼続システム改革に伴う記述式問題の実施等の継続検討を行う。 4、令和7年度入学者選抜での変更点を検	ш	1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し、社会に周知を図るとともに教験自対象説明会等各種イベントで説明し、周知を図った。2. 令和5年度実施の総合型選抜では、医療保健学部医療情報学科の選抜方法にのいて、これをで表現する面接重視型を追加した。また、立川看護学部について、入学者選抜の多様性の観点からを導した。このことにより、全学部で総合型選抜を実施すること、等は、事前課題レポート、面接で評価を行う総合型選抜をとした。このことにより、全学部で総合型選抜を実施すること、自身により、全学部で総合型選抜を実施すること、自身により、全学部で総合型選抜を実施すること、自身により、全学部で総合型選抜を実施の一般選抜では、A 日程について、競合校との重複を目的として、6 和5年度実施の一般選抜では、A 日程について、競合を一層で、10 たっ、令和5年度実施の一般選抜では、A 日程について、競合を一層で、10 た。医療保健学部医療情報学科においては、英語型した。た、医療保健学部医療情報学科の選択科目国語系数学、化学基礎・生物基定を上し、6 科目からの選択科目目国語系数学、化学基礎・主物基礎を上り、6 科目からの選択受験で高得点科目重視方式に変更験を対した。との表に会には、英語の大学入学共通テスト利用入賦では、受験生が受した。との表に保健学部医療用目を対式に変更した。これら入学者選抜方法の変更にともない、入学者受け入れの方針についても併せて見直しを行った。3 令和5年度実施の入学者選抜の変更にといて記述式問題を実施した。その特別を解析を対して記述式問題を実施については、第学習指導の領に表するなど、その方法・内容の検討を継続的に行った。				
「評価指標」 ・学力の3要素に基づく入学者選抜の実施状況 ・令和7年度入試に向けた準備・実施状 兄記述式問題の実施、英語の外部資格・検定等の利用についての検討状況、実施状況			「評価指標」 ・令和7年度入試を念頭においた「入学 者受け入れの方針」の見直し検討の状況 ・記述式問題の全学ベースでの検討と 取組状況 ・令和7年度入試に向けた変更点の取りまとめと実施検討 ・英語の外部資格・検定利用に関する 検討状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画28】(入 长事務 部) 大学者選抜試験の実施内容について、 大学者選抜試験の実施内容について、 「計画建成のための方策」 大学者選技試験問題について、「入 大学者受け入れの方針」 大学者受け入れととし、記問的制を が生じないようチェッリに応いる意に、 る。 一、大学者といいでは、 、人学者選抜試験の場像にをでう実力を は、大きる は、大きな は、 は、も、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は		3. 大学院研究科においては、学位授与の方針に合致した学びを修め	した試験問題を、外部の第三者機関に よる査読及び問題チェックを実施し、 作問ミス、解答ミスの撲滅に努める。 さらに入試担当委員が最終確認を行い、ミスの発生を防ぐ。また総合型選 抜、学校推薦型選抜の入試において も、各学科の入試担当委員が水際の	IV	1. 入学者選抜試験問題の作問ミス、解答ミスの防止や公正な試験運用に関しては、十分に注意を払い実施し、外部の第三者機関による査施、問題チェックを経て作問者が各日程の試験問題を作成し、学の人試担当委員での最終確認を行うことにより、出題ミスの発生防止に努めた。 2. 入試実施においては、実施要項、監督要項を作成するとともに学内で教験員に対する説明会を実施し、円滑な入試実施に努めた。 3. 研究科の入試については、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定した。				
「評価指標」 ・入学者選抜における作問ミスの発生 方止の取組状況 ・入試実施にともなうトラブル等の発 住防止の取組状況 【計画29】(入試事務部)			「評価指標」 ・入学者選抜における作問ミス等の発生防止の取組状況 ・入試実施上のトラブル等の発生防止の取組状況						
学部・研究科等の人学定員に基づき、 適切な入学者数を受け入れるとともに 又容定員の適正な管理に努める。 「計画達成のための方策」		療栄養学科は、令和元年度より高校での出張講義等にも積極的に取り組み、さらに来校型のオープンクラスやオンラインによる個別相談会等のイベントに参加する受験生の発掘やフォローアップに注力	区分での受験者ニーズに合った学生募集イベントを実施し、それぞれの入試 度分に適用した受験生増をめざす。 2 収容定員を念頭においた入学者確保 を意識する。 2 戦学者減少に向けての取組や対策を 検討する。	п	1.2. 新型コロナウイルスによる制限が概ね解除となり、入試広報和を中心に高校訪問や講演・ガイダンスを積極的に行った。また、入試広報名といると称をキャンパス速機のもと、在校生との交流や学びを体験できる企画を取り入れた来校型イベントを実施し、看護学科においては収容定員を踏まえた入学者を確保することができた。・令和4年度は入学者65名と大幅に募集定員を下回った医療栄養学科では、令和6年より管理栄養学専攻と臨床検査学専攻を新設し定た。管理栄養学専攻のは毎月のイベントにおける企売を持ちるとが自身を持ちるとができるのでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		3. 学修成果の可視化の一環としてキャンパスブランの改修に取り組み、とくに出席状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実装した。これにより退学する前に様々な視点で学生支援が行えることとなり場合で発生を強力を開始していまった。令和5年度から段階的に連用予定である。 4. 和歌山看護学部の入学定員は、平成30年度開設当初から90名としていたが、地域のニーズ等を踏まえ、他の学部と同様に入学定員を100名に増員することとし、令和5年3月8日開催の理事会・評議員会において審議・決定した。令和6年度定員増が行えるよう、令和5年度において必要な申請手続き等を進めていく予定である。			3. 出席が思わしくない学生を、教務システム(CampusPlan)のカスタマイズ機能で監視して教職員や保護者にアラームを発するシステムを構築した。令和6年度にはテスト連用を行い、令和7年度から本連用に移行できるか検討する。退学機軍を早期に洗い出してフォローアップする仕組みを進化させたい。 4. 和歌山看護学部の入学定員は、平成30年度開設当初から90名としていたが、地域のニーズ等を踏まえ、他の学部と同様に入学定員を100名に増員することとし、令和6年3月19日開催の理事会・評議員会において審議・決定した。令和5年度実施した入学者選抜において、収容定員超過率を見据えた入学者とすることにより、令和7年度定員増が行えるよう、令和6年度において必要な申請手続き等を進めていく予定である。				
【計画30】(入試広報部) 全学部・全学科の入学定員確保に向け こ、募集活動の強化と高大連携・高大 接続の構築を図る。									
「計画達成のための方策」 新学習指導要領に準じた出張講義の 削出と高大体熱関係の強化を図る。 オープンキャンパスや入試説明会な さイベント内容の充実を図るととも こ、様々な方法での情報発信の強化を よ、学案内及び大学紹介パンフレット D刷新とSNS等情報発信の強化を図る。 地域性を重視した高校訪問活動 (塾 等含む)の強化を図る。	Ⅲ	し、高校との連携関係は質量ともに強化された。 2. 各キャンパスにて来校型とWED型でのオーブンキャンパスを実施 した。特に対面での実施に注力し、体験授業や入試個別相談、在校 生・卒業生との対話の機会を増やすなど内容の充実を図った。さら に医療保健学部看護学科では、地域貢献を目的とした公開講座に看 護体験の機会を設けたところ、新たな高校層の開拓につなができる。 3. 令和5年度大学案内については、業者継続にて制作を進めた。ま	時間」と連携・連動した内容の出張講義を実施する。連動した内容の出張講義を実施する。連動とはいるでは、来校型イベントに限定せず、ソフラント等を実施する。また、新たな方法にしたも試行及び大学紹介パンフレットについての刷新に取り組む。3、大学案の刷新に取り組む。4、高等学校等の獲得を目指す。特に私	п	1. 高校訪問活動を通じて「医療系教養講座」「看護医療系進学対策 講座」と題した出張講義を提案し、その実施に注力した。結果、新 規校も開拓され、実施校数も前年を上回り、学生募集活動における 高大連携は確実に強化された。 ス・プンキャンパス等イベントについては、各キャンパス主体 で、各教育活動、学生支援、入試対策などについて、各外員よ、各内 の充実に努めた。特に、在校生や卒業生との交流については、 大学案内については、大幅な刷新に向けて、業者の選定からた、成 生に大変好評でいては、大幅な刷新に向けて、業者の選定からた、 生に大変好評と医療栄養学科については、今和6年6戸飛び予定) また、成 機情報学科と医療栄養学科については、学生募技訪問の活動範囲、 無点をあてたリーフレットを作成し、学生募技問問の活動範囲、 集にほぼ限定した。18歳人口の減少(2024年間)もあり、高に力 集にほぼ限定した。18歳人口の減少(2024年間)もあり、高に力 集にほぼ限定した。18歳人口の減少(2024年間)もあり、高に力 集には「経歴とした。18歳人口の減少(2024年間)を、高に力 集には「経歴とした。18歳人口の減少(2024年間)もあり、高た力 人れている私学公立などを中心に新規開務に努めた。 たいしながら、全学部については、臨床検査学専攻を計設したこなかった。医療栄養学科については、臨床検査学専攻を計していては、 前年を上回る改きは図られたが、医療情報学科については、 節様な会である強化を書様については、 10年間、第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりにある。 第一年間、日本によりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりに				
「 評価指標」 ・全学部・全学科の定員確保状況及び 受験競争率の確保状況			「 評価指揮」 ・全学部・全学科の定員確保状況及ひ 受験競争率の確保状況	:					

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
計画31] (和歌山青慶学部) 学の意思の高い優秀な学生を確保す ために、多様な入試選抜の下、受験 数を維持する。 計画建成のための方策」 選抜区分ごとの受験生数を維持し、 派疑証べ人数活動入大学に大学説する。 行のは、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	IV	1. 大学説明会関連行事を6回実施した。 2. 令和4年度に新宮高校と連携協定を結び、合計8校となった。高校教諭との意見交換会として「東京医療保健大学連携校連絡協議会」を開催し、総打名の参加、学部からは10名が参加した。出前講義10回、高校に訪問しての説明会を25回実施した。高校生の本学部での大学体験では学生も参加して実施した。・連携高校は8校。・受験延べ人数365名連携校の受験人数と入学者数154名中48名連携校の受験人数と人学者数154名中48名・高校との交流回数38回(出前授業、説明会、学生懇談会、大学訪問他)・大学説明会関連行事6回実施	実施する。 2. 連携協定を結んだ高校との4回以上の	ш	・広く学生を募った大学説明会、入試説明会、オープンキャンパスの実施した。また各高校に出向いての出前講義・大学説明会、大学訪問を実施した。高校教諭対象の懇談会も実施した。1. 高校教諭との意見交換会として「東京医療保健大学連携校連絡協議会」を開催し、8校17名の参加、学部からは10名が参加した。・高校に訪問しての説明会を23回実施した。教員の同行は内7回、高校生の参加は396名であった。 2. 連携校関係行事及び出前授業は17回実施した。高校訪問したのは9回、大学訪問は5回、連携校協議会の連携校教員授業見学が1回、学生との懇談会が2回であった。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
評価指標」			「評価指標」 ・受験延べ人数、大学説明会関連行事 への参加数、高校との交流回数、連携 高校数、連携校との交流回数、連携校 の受験者数と入学者数						
の受入れを推進し、大学の国際化を成 が、国際的環報野をび地域の国際化 を持つ地域の国際の情に 特別のための方策」 学生・教職員所のための方策」 学生・教職局外からの留学生等の大変 で実施及びいにので、一次では、一次で、一次で、一次で、一次で、一次で、一次で、一次で、一次で、一次で、一次で			イ大学、シャミナード大学との大学間 提携を進めるとともに両大学との研修 内容の充実を図る。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に	ш	(国際交流センター、研究協力部) 1. グリフィス大学との大学間連携の更新は、グリフィス大学担当者の変更によって作業が遅れたためできなかったが、次年度4月中に更新はま了する予定である。同大学との海外研修プログラムに関しては、令和5年9月に第5回グリフィス大学オンライン研修を実施した。参加者は46名と近年で最少であった。参加学生に対する実施後アンケート調査(回答者38名、回答率82.6%)では、研修プログラム全体に対する評価は「大変満足」「まあまあ満は、研修プログラム全体に対する評価は「大変満足」「まあまあ満し、一切が多であった。・ハワイ大学、およびシャミナード大学との提携は、両大学の教職員スタッフの大幅な変更などにより、本学との規携は、両大学の教職時休止状態となっている。今後どのような連携やプログラムを施できるか、両大学と模案中である。・中国の無大学からの申し入れを受けオンライン交流会を令和5年12月に実施した。両大学各10名ずつ、20名が参加した。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	評価区分	内部質保証推進会議
	ппппппппппппппппппппппппппппппппппппппп	2. 国際的な講演会に関しては、リレー講演会「世界の医療を知ってみよう」をテーマとして医療保健学部看護学科と共催した。令和4年12月から令和6年2月までの間に、全学を対象として、オーストラリア、ニージーランド・イギリスの医療に関する講演会系3回オンラインにて実施した。学生、大学院生、専攻科生、教員が、多数参加して非常に好評であった。管生、大学院生、専攻科生、教員が、多数参加して非常に好評であった。各回の参加者数は、1回目リアルタイム86名/オンデマンド67名、2回目リアルタイム61名/オンデマンド42名、3回目73名/オンデマンド22名であった。(世田谷事務部)・9月にオーストラリアのグリフィス大学(学生6名/教員3名)、3月にハワイのシャミナード大学(学生4名/教員2名)とオンライン交流を実施。(立川事務部)・オーストラリアのグリフィス大学(学生6名/教員3名)、3月にハワイのシャミナード大学(学生4名/教員2名)とオンライン交流を実施、(立川事務部)・オーストラリアの参加は、4年生1名だけであったが、ハワイ研修については、学長数量経費の補助もあったため、参加者は13名(3年11名、1年2名)であった。(千葉事務部)・東京医療保健大学総合研究所の依頼に基づき、ヘルスシステムデザインユニットが主導する産科領域の働き方改革に関する研究に、千葉看護学部の教授1名が、3/20-22の期間で台湾医療施設を視察した。・リーにオーストラリアのグリフィス大学(研修参加者学部生1名/教員2名支援教員)、3月にハワイのシャミオード大学(研修参加者学部生1名/教員2名支援教員)、3月にハワイのシャミオード大学(研修参加者学部生1名/教員2名支援教員)、3月にハワイのシャミナード大学(研修参加者学部生1名/教員2名支援教員)、3月にハワイのシャミナード大学(研修参加者学部生1名/教育2名支援教員)、3月にハワイのシャミナード大学(研修参加者学部生1名/教育2名支援教員)、3月にハワインスナード大学(中の本語)・オ学部文流路では、第4名の開催(3回)を支援した。(4日歌山事務部)・学術交流路を開催(3回)を支援した。(4日歌山東名)・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース・オース		m nv m	2 (国際交流センター、研究協力部) 令和5年度には4回の国際的な講演会を実施した。9月にパングラディシュの医師8、Aナイーム氏を五反田キャンパスに招いて、対面およびオンラインの特別講演会「ボングラディシュの医療・介護の現状と未来」を実施した。申込者数133名。またオンラインによる3回にわたるリレー講演会を以下の通り実施した。中込者数173名。2 10月:「アメリカの医療事件の健康課題」(小川真里子氏)12月:「「ベトナムの医療現場からみる女性特有の健康課題」(小川真里子氏)12月:「ベトナムの医療現場から考える国際医療協力」(講師:森山潤氏、勝山なおみ氏)申込者数173名。(五反田事務部)国際交流センター主催のオーストラリア現地研修に医療保健学部看護学科より学部生9名、教員2名が参加した。(世田谷事務部)(と現代書)中で、大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点	検・評価委員	会評価区分	内部質保証推進会議
6. 教員・教員組織 【計画33】(総務人事部) 「教員組織の機械方法」に基づき、教 が研究を円滑に実施するとともに、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	I IV	・教員の補充は科学技術振興機構(JREC-IN)ポータルにて公募を行い、書類選考、面接選考を通じて採用書を選抜した。そして、採用に加え昇格についても、教員選考規程及び教員選考基準に基づき教員選考委員会、人事委員会を開催し、公正かつ適切に行った。令和3年度、教員配置数 244名(R、3現在)令和4年度、教員配置数 244名(R、3現在)・令和4年度の教員選考(採用)は、34名であった。	かつ適切な教員配置を図るとともに、	IV	令和5年度の教員配置数は、250名(R6.3現在)、うち年度内の教員選 考(採用) は、31名であった。欠員の補充は、内部昇格と外部採用 を適切に組み合わせ、教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正 かつ適切に行った。					
「評価指標」・教員の配置状況及び教員選考状況 【計画34】(企画部・教務部)「教員組織の編成方針」に基づき、教員に求める能力の射確化を図った上で、FD活動を積極的に推進する。 「計画速成のための方策」 1. FD活動の実評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。	ш	・授業評価については、令和3年度のアンケート結果を集計し、令和4年11月に学内及び大学ホームページにおいて公表した。学修及び生活に関する実態調査については、令和3年度実施分の集計結束を、一般向けに5月にホームページで公表した。また、令和4年度の実施は、12月に実施し、昨年度より16.9ポイント低い59.2%の回収率となってしまった。	「評価指標」 ・教員の配置状況及び教員選考状況 「年度計画34】 1、FD活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。	ш	・授業評価については、昨年度より令和4年度アンケートの回収率は0.2ポイント上昇(69.9%)した。学部別の集計結果を令和4年9月に学内及び大学ホームページにおいて公表し、科目別の集計結果化業業開議キャンバス事務部経由で科目担当教員に渡し、担当教員からは、次年度の授業計画の改善等を学科長等への提出を求めた。・学修及び学生生活に関する実態調査については、令和4年度実施分の集計程果を、一般向けに5月に大学ホームページで公開した。また、令和5年度調査は、12月に実施し、昨年度より10.7ポイント高い69.9%の回収率となった。					
「評価指揮」・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況 2.全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるFD活動の推進を図る。	IV	2. 令和4年度においては、10月26日(水)に理事長及び学長による 講話の形で開催した。対面、Zoom及び後日オンデマンド配信での開 催とし、各参加数の合計は100%であった。 アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になっ た」の回答が98.8%となっており、内容について好評であった。	「評価推復」・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況・2.全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療、保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるFD活動の推進を図る。	IV	2. 令和5年度においては、10月25日 (水)に理事長講話及び学科発表(医療保健学部看護学科、東が丘看護学部看護学科)の内容で開催した。対面、Zoom及び後日オンデマンド配信で実施し、各参加数の合計は100%であった。アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になった」の回答は合計98.0%で、好評の結果であった。					

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点	検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
「評価指標」 ・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部局毎の教員参加者数、 アンケートの実施状況			「評価指標」 ・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況							
○各学部・学科・研究科等 【計画35-1】 ⑦ (医療保健学部署護学科) 世界をリードする先進的研究の推進及 び教育活用の在り方を検討する。										
「計画達成のための方策」 年2回のFD研修会又は毎月の学科会議に まいて、成果をリードする先進的研究 の推進及び教育活用の在り方につい て、対話・討議を行う。	ш	・春季FD研修会・活動報告会(3月22日)に合わせ、教員研究交流 会を企画した。教員研究交流会の目的は、学科内の他領域の教員と の研究活動の共有を図ること、研究内容・手法について意見交換 し、研究活動の発展の一助とすることである。	【年度計画35-1】 年2回のFD研修会又は毎月の学科会議に おいて、成果をリードする先進的研究 の推進及び教育活用の在り方につい て、対話・討議を行う。	Ш	・2月の学科会議(2月21日)において、研究活動継続に向けた意見 交換会を実施し39名(参加率78%)が参加した。開催目的は、教員 間の研究活動や研究内容の共有、研究活動と教育の両立での工夫、 学科または学内で必要となる支援について対話を行い研究活動を制 進するための示唆を得ることである。先進的研究に焦点を当て大変 のではないが、現状を踏まえて研究推進に向けた対話・討議を実 しており概ね達成している。意見交換内容の集約、アンケート結り を含む実施報告書を作成し全教員が共有できるようにしている。	E E				
「 評価指標」 ・先進的研究推進及び教育活用の在り 方検討会の実施状況 年1回以上実施			「評価指標」 ・先進的研究推進及び教育活用の在り 方検討会の実施状況 年1回以上実施							
【計画35-2】⑦(医療保健学部看護学 料) 教員が国際学会での発表や英文誌に論 文投稿できるよう、教員に英語学習機 会を提供する。										
「計画連成のための方策」 1.FD委員会主催英語研修会を実施する こととし、受講者の希望に合わせて継続的に開催し(年2回)、英語論文執筆 を支えていく。 2. 英語自主勉強会を実施することとして、年間20回ほど、1時間程度の英語の 自主勉強会を継続する。		・FD委員会主催英語研修会(年2回)を継続している。 英語研修会実施回数: 2回 英語自主勉強会実施回数: 15回 ・令和4年を表示語研修への参加者の割合は約30%(16名)であった。国際学会参加については、調査していない。次年度は、目標の通切性を含め、教員対象に調査を行い、目標を共有しながら取り組んでいきたい。	【年度計画35-2】 1. FD委員会主催英語研修会を実施することとし、受講者の希望に合わせて継続的に開催し(年2回)、英語論文執筆を支えていく。 2. 英語自主勉強会を実施することとして、年間20回ほど、1時間程度の英語の自主勉強会を継続する。	Ш	1.FD委員会主催の英語研修会を継続している。令和5年度は教員のニーズに合わせて1回の開催(11月22日)に変更し、31名が参加した(参加率77%)。研修会実施報告書を作成し全教員が共有できるようにしている。 2. 英語自主学習会を継続して実施し、令和5年度は2回/月程度実施した。計画通り実施しており達成できている。参加状況は(R5年度末時点)、過去5年間で季語研修会に1回参加した教員は23人(45%)、国際学会に過去5年間で参加した教員は22人(43%)であった。今後も継続して参加状況を評価していく。					
「評価指標」 ・教員全員が5年のうち1回は英語研修 に参加 ・教員全員が5年の間に1回は、国際学 会(学術集会)に参加			「評価指標」 ・教員全員が5年のうち1回は英語研修 に参加 ・教員全員が5年の間に1回は、国際学 会(学術集会)に参加							

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	評価区分	内部質保証推進会議
【計画35-3】⑦(東が丘看護学部・看 漢学研究科) を学的FD委員会との調整の上、FD、SD 活動を推進する。 「計画連成のための方策」 . FDマップに則した職員にFD研修の実 他。 2. SDの理解を深め全職員向けの全学的 3. 全学的SDとして外部大学や地域との 供催による活動。 4. 社会的関心の高まりやホットイ シューに関する研修会の開催。		について積極的な参加を呼び掛け、東が丘看護学部FD 研修としては、新着任教員研修および5回のFD 研修を企画運営した(100%達成)。特に教育・研究・社会貢献に関する関心の高い内容については、外部講師を招き研修を実施した。 ・FDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアン	シューに関する研修会の開催。 5.FD・SDマップの周知および利活用に 関する東が丘教職員へのアンケートの 実施。	IV	1~6・FDマップに則した教職員に、社会的関心の高まりやホットイシューに関して外部講師を招いたFD研修会を3回、新着任教員研修2回、合計5回/年の研修会を企画・運営した。また、全学や各委員会で企画された研修 (7回) について、FD委員会からも参加案内および回された研修 (7回) について、FD委員会からも参加案内おより、参加率内およの多加案内とFDマップの利活用の案内も行った。これらの活動により、参加率や教職員のFDマップへの周知や利活用も高まってきたといえる。 ・2023度FDマップが応表の達成率は、教育63%、研究54%、研究77%と、学内FD委員会企画以外の研修も推進し、FDマップを利活用することで、研修の充実性が高まったといえる。・FDマップに則した職員にFD研修を5回/年企画し、対面および200m間間としたことで、出席率も100%に近い状況であった。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		2	
「評価指標」 ・ FDマップに則した職員のFD研修の実施状況 ・ SDの理解を深め全職員向けの全学的 SDの理解を深め全職員向けの全学的 SDとして外部大学や地域との 共催による活動状況 ・ 社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催状況			「評価指標」 ・FD・SDマップに則した職員にFD研修の実施 4~6回/年 ・SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進(全学との連携研修開催 2回程度/年) ・全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動 4~6回/年・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催1~2回/年・FD・SDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施状況・FD・SDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出及び課題に対応したFDマップの運営方法検討状況					

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画35-4】⑦(立川看護学部) 立川看護学部として、教員のFD企画、競争的研究間を得にて、教員のFD企画、競争的研究間本の名。 「計画達成のための方策」 1. 他学部で記述を受し、情報とは、1. 他学部ででは、1. 他学者である。 2. 学外請予算(5万/日マ)を を必ずまずに、1. 他学者である看護学部でできる方に、1. のの企画・企画・企画・企画・企画・企画・企画・企画・企画・企画・企画・企画・企画・企		1. 対面2回、動画配信5回を実施。 2. 今年度は共同開催ができなかった。今後は東が丘看護学部だけでなく、別の学部との共同開催も検討する 3. 8月25日に「アロマでせっけんづくり」という公開講座を、12月10日には「やってみよう!自分でできるストレスマネジメント」という公開講座を実施した。 4. 5月上旬に大学PP上に「2021年度年報」をアップした。 5. 6月に大学PP上に「令和3年度自己点検・評価報告書」がアップされた。 6. resarchmapの登録方法や統計ソフトの使い方などの情報を動画で提供した。学外助成金は昨年度(17件)と同程度(15件)であった。 7. 立川警察署などが来校(10月11日)し、広報活動などを実施したが、住民の健康増進に貢献する「町の保健室」のプロジェクトはコロナの関係で進んでいない。今後は、ボランティア活動だけでなく、災害看護の講義・演習なども立川市と協力して行っていく予定である。 8. 今年度の発表状況(学会発表 75回、論文 22偏)は、昨年度(学会発表 60回、論文 19偏)と比較して15~25%の増加が見られた。	【年度計画35-4】 1. 学部単独のFD企画。年間3回(Zoom 2回、対面1回)2. 他学部と共同のFD企画。年間3回(Zoom 3回)3. 学外講師によるFD企画。年間1回(対面1回)5. 立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開。在1. 立川市民への公開。在1. 立川市民への公開。6. 自己点検・評価報告書(立川)の作成。7. 立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。8. 地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。9. 教員の学会発表または論文投稿(いずれも共著含む)を推進する。	III IV IV IV III	1.対面3回、動画配信5回を実施した。また、ICT関係で、VR講習会1回、F. CESSの説明会4回、電子教科書の説明会2回を実施した。 2. 今年度は共同順性ができなかったが、他学部等で行われるFDIに関する広報を表した。との今後は共同開催に拘らず、200mによる形態がある。 加も広報することにした。他学部とはできなかったが、隣接する災害医療センターで開催される派遣報告会(4/26)」「能を動した。教告会は、「トルコ大地震派遣報告会(4/26)」「能を動した。報告会は、「トルコ大地震派遣報告会(4/26)」「能を動した。「100年の計算を持ち、時間的に都合が付く教員は参加した。 3. 学外講師を招いた講習会はできなかったが、災害医療センターの開始を招いた講習会はできなかったが、災害医療センターの、派遣報告会などは実際に派遣されたDMAT隊員からの報告などであり、外部講師を招いた講習会はできなかったが、災害医療センターの制度を表しているが、第四を表している場合である。 4. 8月24日に「アローマビセッけんづくり」という公開講座を、12月16日には「悩みってどう間くの?」という公開講座を実施した。5.5月上旬に大学中上に「令和4年度自己点検・評価報告書」がアップされた。 7. resarchmapの登録方法や統計ソフトの使い方などの情報を動画で提供した。学外助成金は昨年度(15件)と同程度(13件)、学内成金は3件であった。 8. 自衛隊などが来校(7月)し、広報活動や災害実習の講義などを実施したが、住民の健康増進に貢献する「町の保健室」のプロ活動ではいまいまいましていまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいま				
「評価指標」 ・学部単独・他学部と共同のFD企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学即上への公開状況 ・自己点検・評価報告書(立川)の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 ・教員の学術集会発表及び論文投稿状況			「評価指標」 ・学部単独・他学部と共同のFD企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学IP上への公開状況 ・自己点検・評価報告書(立川)の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援 状況 ・地域との連携状況 ・教員の学術集会発表及び論文投稿状況						

第3期中期計画	評価	令和4年度実績	令和5年度計画	評価	令和5年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
【計画35-5】(千葉看護学部)	分			区分		分		分	
DPを可能とする質の保証された教育を、継続的・発展的に行うため、社会のニーズにも対応した教員のFD活動を積極的に推進する。									
「計画達成のための方策」 1. 若手教員を対象とした基礎的FDの実	ш		【 年度計画35-5 】 1. 若手教員を対象とした基礎的FDの実	Ш	1. 基礎的FDに参加している14名の教員の進捗管理・支援を行い、基				
た。 教育経験の浅い教員を対象とした大学 教員としての基礎的な教育観とスキル を養う研修を行う。		が授業参観を終えた。基礎的FDの研修会を1回実施した (3月10日)。2023年度は、9月と3月に2回開催できるよう計画的に取り組んでいく。	^{施。} 若手教員を対象とした基礎的FD研修会 を開催する。(年2回)		礎的FDの研修会 (教員交流会) を1回実施した (3月11日) 。2024年 度は、3月に1回開催できるよう計画的に取り組んでいく。				
「評価指標」 ・若手教員を対象とした基礎的FDの実 施状況			「 評価指標」 ・若手教員を対象とした基礎的FDの実 施状況						
2. 学部全体での情報共有の会の開催。 学部全体の教育・研究・学内外活動に ついて総合的に情報共有をすることを 意図したFD研修を行い、教育・研究能 力向上に向けた相互の学びを深めると もに、大学・学部のPP達成に向けて の課題検討の基盤を構築する。		2. 活動報告会を実施し、学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有した。	2. 学部全体での情報共有の会の開催。 年度末に主として情報交換を目的とした全体FD研修会を開催する。		2.3月13日に学部活動報告会を実施し、学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有した。				
「 評価指標」 ・学部全体での情報共有の会開催状況			「 評価指標」 ・学部全体での情報共有の会開催状況						
3. テーマに基づくFD研修会開催。 過去のFD研修の評価や、時々のトピックスを反映させた譲渡、ゲループディスカッションによるFD研修を行い、社会のニーズに応じた教育・研究能力の向上を図る。		支援研修(学生生活支援委員会)」「THCUCによる地域貢献活動について考える(地域関連活動ワーキング)」「学生の体調不良、こ	3.テーマに基づくFD研修会開催。 夏季及び春季に当該年度ごとの課題解 決に関連したテーマに基づく全体FD研 修会を開催する。		3.8月17日の夏季集中FD研修会において、カリキュラムブロジェクトとの共催で、「実習前CBT・実習前OSCEを取り入れたカリキュラムの実現の検討」というテーマでFD研修を行った。・また、3月14日に、カリキュラムブロジェクトとの共催で、春季FD研修を行った。・そのほかに、DXプロジェクトとの共催で、「516(多目的DXルーム)教室の利活用促進のための学習会を11月、12月、1月、2月の計4回実施した。				
「評価指標」 ・テーマに基づくFD研修会開催状況			「 評価指標」 ・テーマに基づくFD研修会開催状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画35-6】(和歌山看護学部) 教員の資質及びP字裏現に向けた教育力 向上を目指して教員のFD活動を積極的 に推進する。 「水準連成のための方策」 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を 対象育経験の浅い教員に対して大学教 員とでを基礎的な教育観とスキルを 養う研修の基礎的な教育観とスキルを 養う研修用教員に対して学部の特徴とP の理解を図る研修及び教育観の共有を 図る研修を行う。		から、本学部開学の経緯、社会から求められる大学像、更には将来像を共有する、内容と目的で「東京医療保健大学和歌山看護学部は何を目指すべきか」を実施した。 ・アンケートの結果、100%近くが、満足度が高く実務で役立つと	【年度計画35-6】 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施。(対象に応じて開催回数を調整) ①教育経験の浅い教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。(年2回) ②新採用教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。(年1回)	П	1. 新任教員に対しては、採用時のガイダンスにおいて大学教員としての心構えや本学部の3pをもとに教育について、時間をかけて説明した。・教育経験の浅い教員、新任教員を対象としたFD研修は「組織的な研究(科研費等の外部資金研究)を目指し、研究経験の浅い教員の研究力向上を図るために必要な研究計画の立案につながる先行研究のリサーチ」として実施した。教員35名/43名、職員2名/17名、院生11名/18名(3名教員と重複)の参加があり、一部、二部とも好評を得た。後日、数名の教員は個別の研究相談を受けた。・研究費獲得のためのFDを1回、新任教員への説明会1回				
「評価推復」・教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施状況・新採用教員を対象としたFDの実施状況・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有FDの実施状況 2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するFDの実施。 ①学生教育に関する意見交換会の実施。 ②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。		2. 内部質保証を高めるために「アクションブラン研修会」を実施し、中期計画の内容を網羅Uた和歌山独自の活動について共有した。さらに、前年度より要望が高かったハラスメントに関するの投え、コミュニケーションをはかるのか「人間関係に集点を当てたハラスメント予防」がテーマであった。学生教育に関するテーマでの意見交換会は実施できなかった。 ・「人権研修」は対面による開催であり、教職員が短時間であったが小グループで活発に意見交換した。満足度、実務で使に立った制以上の教職員が回答した。これらは学生に対する指導、教育活動にも応用できる内容であり、満足度が高かった。	「評価指標」・教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施状況・教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施状況・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有FDの実施状況 2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するFDの実施。テーマを決めて実施。 「学生教育に関する意見交換会の実施。②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。 (上記合わせて年1回)	П	2.FDとして実施できなかったが、領域長の会合において実習指導について、学生の受講態度について、教育への学年上の学生の参加(SA)についてなどの意見交換を行い、教育に反映した。・教学マネジメントについての研修を専門家を招いて実施し、38名が参加し、理解を深めた。・「ハラスメント研修」を昨年度からシリーズとして継続し、本年度最終ということで具体的な事例をもとに教員間のディスカッションも含めて実施した。対面で開催 35名(教員 330、職員 5名)で参加があり、好評を得た。・意見交換会を4回、教学マネジメント研修を1回実施した。				
「評価指標」 ・意見交換会・情報共有会の実施状況			「 評価指標」 ・意見交換会・情報共有会の実施状況						
3. 教育・研究能力の向上を図るFDを実施する。		3. 研究活動については、研究協力部主催:「令和4年度科学研究費助成事業(科研費)説明会」を学部のFD活動として実施し、科研費獲得に向けて活動した。 ・26名参加、アンケート結果回答した全員が参考になったと回答した。		Ш	3. 研究協力部主催「令和5年度科学研究費助成事業説明会」への参加した。科研費獲得経験者に個別相談できることを教員に伝え、2名が相談を受けた。・他学部FD「医療系カリキュラムにおける知識教授を目的としたアクティブ・ラーニング」への参加、「教学マネジメント入門」を学部で実施した。				
「評価指標」 ・FDの実施状況			「評価指標」 ・FDの実施状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	評価区分	内部質保証推進会議
【計画35-7】⑦(大学院医療保健学研究料) 教員自らの専門性を究めていくことができるよう、必要な学会・随位に関わず、一人年2回の学師集会参加ができる。 が、一人年2回の学師集会参加ができるよう、各領域内で調整を行う。 「計画達成のための方策」 研究レベルに実付けられた大学院での人材育成を推進する。 1.体系的なかりキュラムの構築。 2.学部・大議院の一貫教育の導入。 3.国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 1.幹編会参加 一人年2回	Ш	げるように大学院として検討した。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入に関しては、現状の中では導入に 至る取り組みはできていない。 3. 国際会議発表に関しては、大学院生の中から発表に至ったものが	【年度計画35-7】 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指揮」・学術集会参加 一人年2回		1. 各領域における3Pを作成し、体系的なカリキュラムの構築につなけるように大学院として検討後、運営している。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入は、現状の中では導入に至る取り組みはしていない。 3. 国際会養表に関しては、大学院生の中から発表に至ったものが1名いた。国内発表は各領域でほとんどの院生が年2回程度はできてきているが、今後は国際学会への参加や発表まで至るように推進していきたい。 4. 座学連携・地域連携による共同研究は、各領域から一演題程度は進めてきているがさらに、推進し、研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進していきたい。	N	n	
【計画35-8】⑦(大学院千葉看護学研究料) 大学院における教職員の教育力の開発推進。 「計画達成のための方策」 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、研究指導 を含めた教育前力、大学院での活動を しての地域貢献力について、研修を実 施することで、その向上を図る。	ш	・和歌山看護学研究科との共催で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」と題して大学院FD研修会を行った。千葉看護学研究科教員21人、事務職員1人の参加があった。・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。2023年度は、学部夏季集中FD研修会における実施など計画的に取り組んでいくこととする。	【年度計画35-8】 大学院担当教員/職員を対象とした情報 交換/研修会を、年2回開催する。 うち1回は他研究科との合同研修とす る。 主たるテーマを、実装的な研究とその 支援とする。	ш	・和歌山看護学研究科と共同し、大学院担当教員/職員および大学院学生等を対象とした講演とグループディスカッションからなる公開講座「Afterコロナ時代の新しい実習に向けて~参加型臨地実習の意義と課金」を、1月23日(税・木)に実施した。千葉看護学研究科からの参加者は教員23名、事務職員2名であり、事後アンケートからは、新たな時代に求められる臨地実習の在り方や運営課題についての学びが得られたことが示された。・学部と合同で、定期集中FD研修会・報告会を、3月14日(木)に天飾した。全教員が出席し、ポスター発表として研究科におけるに動が報告された。(事後アンケート集約中)・いずれについてもテーマは実装的な研究とその支援ではなく、海来を見据えた方向性を検討する根拠となる知見や実態の共有であり、研究支援に関してのFD実施が今後の課題である。			
「評価指揮」 ・大学院における教職員の教育力の開 発状況			「評価指標」 ・大学院における教職員の教育力の開 発状況					

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画35-9】⑦(大学院和歌山看護学研究料) 研究科を担当する教員の教育・研究指導能力の向上を図り、学生の学びの質を保証する教育方法の開発と教職員体制の充実を図る。 「計画達成のための方策」 1. 大学院における教育・研究能力開発のためのFD研修を実施し、その向上を図る。	t S V	1. 新しく大学院担当となる教員が加わるために「大学院和歌山看護学研究科の特色と発展に向けて」というテーマで設置の趣旨及び特色について共有することを目的にして行った。今後の課題として学生の確保、教員組織の充実等への取り組みを確認した。 干業看護学研究科との合同研修を、大学院生及び教員を対象に「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」というテーマでそれぞれを守いの過程と指導・支援のポイント」というテーマでそれぞれである学生と指導教員から報告があり、デースカッションを行った。・2回の開催ができた。1回目オンライン参加47名、9割が満足で、参加合計87名、和歌山からは40名で85%が満足で今後の指導に役立つと回答した。		ш	1. 学部との合同FD/SDを実施した。 ・干薬看護学研究科との合同公開講座「Afterコロナ時代の新しい 来習に向けて〜参加型臨地実習の意義と課題〜」を実施した。和歌 山看護学部からは教員2名が参加した。				
「評価指揮」 ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況 2. DPを実現するための学部専門領域を 横断的にした研究領域の編成を継続する。 「評価指揮」	-	2. 新採用教授2名に加え、教授2名、准教授3名、講師3名を大学院担当として加え、3つの領域に学部の専門領域が多様になるよう配置した。・3つの領域に学部の専門領域3~5領域の教員を配置し、できるたけ広い視野で研究に取り組める体制を整えた。	2 員が学部の多様な専門領域で編成するよう配慮する。 「評価指標」	IV	2. 令和4年度の教員構成を引き継いだ。				
研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況 3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。 「評価指揮」 研究発表・投稿状況	<u>.</u>	3. 教員は学部との兼担であるため、学部での研究支援と同様である。 ・大学院兼担教員の研究成果は、自己申告の概算であるが、研究発表10件、論文掲載は13件であった。	研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況 3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。 「評価指標」 研究発表・投稿状況	IV	3. 教員は学部との兼務であるため、学部での研究支援と同様である。 ・大学院兼担教員の研究成果は、自己申告の概算であるが、論文掲載26件、著書4件であった。				
明先記を・技術が加 【計画35-10】 ⑦ (助産学専攻科) 教員としての自己研鑚を図る。 「計画連成のための方策」 1. FD研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参加。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. CBT・OSCEの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑚の実施。 「評価指揮」・自己研鑚のための研修等の参加状況	IV	1. 助産学専攻科(母性看護学含む)の教員に対して、臨床推論に関する学習会を開催し、FD研修会として学びの場を設けた。 2. 全国助産師教育協議会などの教育団体での研修に、全国及び地区 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催上記項目の1・2にも准じて学びの場を設けた。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催上記項目の1・2にも准じて学びの場を設けた。 4. 081・080Eに関しては、全国助産師教育協議会の研究に参加して、作問したり、検討したりする場に参加して、今後、研究室での実施のための勉強会の開催に向けての学習を行った。 5. 製係経合は、医師による助産学専攻科の講義・演習に参加し、経版エコーに関しては、大学院とおての学修を用とするために、監視型のエコー機器を購入できたので、今後は研究室内、助産学専攻科、大学院においての技術の教育のための自己研鑚の実施および研究に役立てていきたい。	【年度計画35-10】 1. FD研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参加。3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. CBT・OSCEの実施のための勉強会の開催。 5. 製傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。 「評価推奨」 ・自己研鎖のための研修等の参加状況	IV	1. 助産学専攻科(母性看護学含む)の教員に対して、臨床推論に関する学習会を開催し、FD研修会として学びの場を設けた。 2. 全国助産師教育協議会などの教育団体での研修に、全国及び地区研修会に参加して学びの場を設けた。 4. CBT・OSCEに関しては、全国助産師教育協議会の研究に参加して、作問やシミュレーションの検討に参加し、プログラム作成に携わった。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画35-11】 ⑦ (和歌山助産学専場料) 助産学を教授する教員の能力向上に務める。 「計画達成のための方策」 全国助産師教育協議会への参加、地方部会での役割遂行を通して、助産学を教授する教員の能力向上に務める。 「評価指標」 ・全国助産師教育協議会主催総会・研修会等への参加状況	K S IV	の共有、意見交換し教員の能力向上に努めた。 ・全国助産師教育協議会主催の総会・研修会に3名が参加した。母	【年度計画35-11】 全国助産師教育協議会主催総会・研修 会等に1名が1回以上の参加と専攻科内 の情報共有を行う。 「評価指揮」 ・全国助産師教育協議会主催総会・研 修会等への参加状況	IV	・教員全員が日本母性衛生学会に参加し、演題発表を行った。他学会や助産に関する研修会にも積極的に参加し、情報の共有、意見交換を行い教員の能力向上に努めた。 ・全国助産師教育協議会主催の総会・研修会にも参加した。助教がNCPRインストラクターの資格を取得し、周産期の教命教急演習の授業がさらに充実した。			χ.	
【計画35-12】 ⑦(産後ケア研究センター) クー) アーン	IV E	1. 品川区への報告書の作成は、年2回実施し、報告に至っている。 2. 電話相談・訪問、訪問型、日帰り型へ、研究室の教員および大学院の院生の参画を図り、学修に繋げられた。 3. 地域での育児クラス開催(対面、オンラインなど)は、11月から12月に助産学専攻科生の健康教育の一環として、産後1~2か月、産後3~4か月に分けて実施した。3回に分け、各5~6名の参加者を得られ、オンラインで実施できた。 4. 産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・適当にかけて3日間で研修課を実施、ブラッシュアップは12月に実施した。 5. 学生実習の受け入れは、2~3年生の母性看護学実習の一部と4年生の看護の合業で、助産学専攻科生に対して実施し、学修につながることができたと効果も得られたと運営・評価ができた。6. 産後ケア研究センターにおいて、フィールドとなる実践の場を得ながることができたと効果も得られたと運営・評価ができた。6. 産後ケア研究センターにおいて、フィールドとなる実践の場を得て、5でも述べているが、学生・院生、教員共に、ケアの質および技術の教育の向上を図ることにつながっている。	ンラインなど)。 4. 産後ケア研究センターにおける研修 会・ブラッシュアップ研修の企画・運		1. 品川区への報告書の作成は、年2回実施し、報告に至っている。2. 電話相談・訪問、訪問型、日帰り型へ、研究室の教員および大学院の院生の参画を図り、学修に繋げられた。3. 助産学専政科生の健康教育の一環として、地域における母子支援クラスを開催した。11月から12月に、産後1~2か月、産後3~4か月に分けて実施、評価した。5月から6月にかけて3日間で研修会を実施、ブラッシュアップ研修は2月に実施に対して3つ間で多くを実施、ブラッシュアップ研修は2月に実施した。5、学生実習の受け入れは、母性看護学実習の一部と4年生の看護の統合実習、助産学専攻科生に対して実施し、学修に繋げることができ、効果的な連密セン専門において、学内に臨床のフィールドを有することにより、臨床実践と研究・教育が一体となり、学生・院生、教員共に、ケアの質および技術の教育の向上を図ることにつながっている。				

第3期中期計画	評	令和4年度実績	令和5年度計画	評	令和5年度計画達成状況	評点	自己点	食・評価委員会		内部質保証推進会議
	価区分			価区分		価区分			価区分	
【計画36】(研究協力部) 学術論文、研究論文等を積極的に ジャーナル等に投稿するとともに、 「東京医療保健大学紀要」への投稿に ついても積極的に行うよう奨励する。	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			,,		,,,				
「計画連成のための方策」 学術論文、研究論論文等を積極的に ジャーナル等に投稿するとともに、 「東京医療保健大学紀要」への投稿に ついても積極的に行うよう奨励するに また紀要に対する社会からの信頼に応 えるため、紀要の投稿論文についても存 の場合による査託に加え、学外の 識者に意味を依頼し、その評価等を踏 まえて 投稿原稿の採否・修正の指示決 定を行う。		・東京医療保健大学紀要第17巻の作成にあたり、それまでの投稿申請 請論文受付の2度に渡る手続きを簡素化する観点から、投稿申請 と論文投稿を同時手続きとしたが、投稿件数が13件と前年度に比べ 大幅な減少となった。さらに、体調不良等があり投稿論文が2件辞 退という結果となり、最終的には11件での公開となった。	【年度計画36】 学術論文、研究論文等を積極的に ジャーナル等に投稿するとともに、 「東京医療保健大学紀要」への投稿に ついても積極的に行うよう奨励する。 また紀要に対する社会からの信頼に応 えるため、紀要の投稿論文について学 内の教員による査読に加え、学外の有 識者に査読を依頼し、その評価を踏 まえて 投稿原稿の採否・修正の指示決 定を行う。	IV	・紀要第18巻の作成にあたり、前年度の反省を踏まえて、小西紀要委員長からの学部長等会議で督励を行い、投稿申請と論文投稿の締切日を分離した結果、投稿申請が29件と大幅に増加した。残念ながら、原稿投稿は21件にとどまり、査読を経て最終的な論文掲載は18件となったが、前年に比べると1.5倍、ブラス7件の掲載となった。					
「評価指標」 ・ジャーナル等への投稿及び「東京医 療保健大学紀要」への論文の投稿数			「評価指標」 ・ジャーナル等への投稿及び「東京医 療保健大学紀要」への論文の投稿数							
【計画37】(総務人事部) 教員の教育研究活動等の実績・成果に ついて、教員個々の「教育活動」、 「研究活動」、「学内外活動」の各項 目について、学長及び各学科長等によ る全学的な評価システムにおいて評価 を実施し処遇等に反映させる。										
「計画連成のための方策」 1. 教員の授業を観を行って評価を招き、 等ピアレミー (同僚評価)の取組が 等ピアレ。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体 キマショまた、他の機関・団体等 下の関係の研修会・セミアションで会等への積極的な参ともに、研究発表等を含む程委員、表現の公司を表現が表現。		1. 今年度は新型コロナの影響があり教員の授業参観の実績同僚評価 (ピアレビュー) については、一部で実施したが、具体的な取り組 みには至らなかった。各学科で徐々に開始している状況にある。今 後積極的に取り組んで参りたい。		Ш	・教員の授業参観実績の同僚評価(ピアレビュー)については、一部の学科で実施され、全学FD委員会を通じて、横展開も行われている。また、毎年の人事面談の中で、ピアレビューに限らず、公開講座の講師などを委嘱された場合など、教員の実績として、教員教育表彰へのエントリー受付時の実績報告の中で記載を促している。なお、8月に開催された全学FD委員会では、各学科の行うFD関係の講演会、研修会などは、全員が最低一回以上は参加していることが報告されている。					
「評価指標」 ・教員のピアレビュー(同僚評価)等 の評価及び処遇への反映状況			「評価指揮」 ・教員のピアレビュー(同僚評価)等 の評価及び処遇への反映状況							
2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「研究活動」、「明 内外活動」の各項目の業績が特に顕著 であると認められる教員に対し教員教 彰を行うとともに、表彰を受賞した教 員のうち業績が特に顕著な教員 に対し てインセンティブを付与するため特別 教育研究経費を配分する。		2. 助教以上の全教員から、5月に令和3年度の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」「アクションブランの進捗状況」の各項目について、成果を報告させ、各学科長による教員評価申告書に受けた学長は各活評価を行い、評価結果を学長に申請する。申請を受けた学長は各活動毎に教育表彰を選定し学長がその結果を理事長に上申し表彰と学長裁量経費から特別個人研究費を受賞者に各100,000円を配分し処遇に反映させた。令和4年度は10名が選出され、9月7日に表彰式を行った。	て「教育活動」、「研究活動」、「学 内外活動」の各項目の業績が特に顕著 であると認められる教員に対し教員表 彰を行うとともに、表彰を受賞した教	IV	2. 助教以上の全教員から、5月に令和3年度の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」「アクションブランの進捗状況」の各項目について、成果を報告させ、各学科長による教員評価申告書に実評価を行い、評価結果を学長に申請する。申請を受けた学長は各活動毎に教育表彰を選定し学長がその結果を理事長に上申し表彰と学長裁量経費から特別個人研究費を受賞者に各100,000円を配分し処通に反映させた。令和5年度は10名が選出され、12月5日に表彰式を行った。					
「 評価指標」 ・教員表彰の実施状況及び特別教育研 究経費の配分状況			「評価指揮」 ・教員表彰の実施状況及び特別教育研 究経費の配分状況							

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
学生支援 生支援の実施においては、「学、全に、「学、全に、「学、全に、「学、全に、「学、全に、「学、全に、すると、「学、全に、いては、「学、全に、いては、「学、全に、いては、「学、全に、いては、「学、全に、いては、「学、全に、いてきない。」といないでは、「学生、「でいていて、この、ないでは、「学生、「でいていて、」の、ないでは、「学生、「でいて、「でいて、「でいて、「でいて、「でいて、「でいて、「でいて、「でいて		1. 学生がいつでもどこでも必要な学内情報を自分のスマートフォンやPCで検索できるよう令和3年度より従来の紙冊子からWebページに変更した「キャンパスガイド」の初の年度更新を行い、提供情報の充実を図った。 2. 本学独自のスカラシップ制度に基づき合計93名(授業料全学免除36名、半線免除57名)に減免措置を行った。 3. 各事務部と緊密に連携して日本学生支援機構の奨学金利用を確実に支援した他、大学への寄附金を活用した新たな学内の奨学金制度(能沢幸子学金、医療保健学部高度学科が対象)を開始している「障がい学生実務者研修」員を派遣し、障がいを持つ学生の理解および支援についての知見なる。4. 日本学生支援機構が実施している「障がい学生実務者研修」員を派遣し、障がいを持つ学生の理解および支援についての知見なる。4. 日本学生支援機構が実施している「障がい学生実後の状況について報告し学内での情報共有を行った。・なお、アンケートの実施については、12月に文部科学省の「全国学生調査」が実施されることになり、そちらを実施したため学内独自のアンケートは実施せず。	なる元実を図るともに、学生が修学する上を代表に、 大生、適切事務に、 大生、適切事務に、 は、本学独自の表に、 は、本学独自の表に、 は、本学独自の表に、 は、本学独自の表に、 は、本学独自の表で、 は、本学独自の表で、 は、本学授業 と、成務優秀な学生についまで、 は、本学授業 と、成務優秀な学生に一致を表す。 は、本学授業 と、成務のがな理ないよが、 は、本学授業 と、できた、 は、本学授業 をある。 は、本学授業 をある。 は、本学授業 をある。 は、本学授業 と、できた、 は、本学授業 をある。 は、本学授業 と、できた、 は、本学授業 と、できた、 は、本学とををあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学を表ま、 は、本学をあま、 は、本学をあま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、、本学を表ま、 は、本学を表ま、 は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、		1. 学生に対するガイダンス機能の柱の1つである「キャンパスガイド・2023年度版」の更新により内容充実を図るとともに、災害発生けるより内容免支援策をはしめ修学継続を支援するために必要な情報のタイムリーな提供を継続した。 2. 本学独自のスカラシップ制度に基づき、令和5年度は成績優秀な免計93名(全額免除37名、半額免除56名)に対して授業料の減免措置を行った。 3. 日寿平生支援機構の奨学金の確実な周知に加えて、各種財団の奨学金募集情を行った。 4. 「障がい学生をデカイントラネットを活用した学生への同報ではした。生産がよりでは、生産の相談をしやすくするよう努めた。また「障がい学生支援」の知見を深めるためにJASSOの障害学生支援実務者研修(応用実習)に職員を派遣した。・「在学生アンケート」については授業関係アンケート、文科省実施アンケートなど学生アンケートが多く、学生の負担が大きくなること、有効な回答率が見込めないことから実施は見送り。				
「評価指揮」 在学生アンケートの実施と満足度向の状況 「計画39】(学生支援センター) 活支援を適切に実施する。 「計画速成のための方策」 心身の健康維持・増進及び毎角ないの自然のではいて、健康ではない、健康ではない、健康ではないがある。というではないが、できるともに、が必要を制度を表して、でする。というでは、大きに関すると表し、のであると、でいると、というでは、大きに関すると、では、は、ですると、は、ですると、は、ですると、は、ですると、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	IV	1. 年間を通してCOVID-19の陽性者、濃厚接触者が多数発生したが、各キャンパスの保健室が一次窓口となり学生からの状況聴き取りおよび出席停止指示などを的確に行った。 2. キャンパスガイド、周知カードなどで「学生相談室」の周知を図り、相当数の学生が利用した。(大学全体で延べ420件) 3. 全新入生に「ハラスメント防止のためのガイドブック」を配布した。(人権倫理委員会、相談窓口は総務人事部) 4. 学生寮においては管理委託先と緊密に連携し、設備の不具合対応を迅速に行った他、三宿寮において衛星放送視聴設備を設置するなど学生の生活環境向上に努めた。 ・なお、アンケートの実施については、12月に文部科学省の「全国学生調査」が実施されることになり、そちらを実施したため学内独自のアンケートは実施せず。 ・寮生は2022年5月に三宿寮でアンケートを実施。 (食事、食堂、インターネット環境は満足度高く、風呂、共用部の満足度が低い結果となった)	を図なたまに、保健室治電と、保健室治電、健康相常的な病気・方がのる。 2.メンタルケアのにも措置、健康に対処する。 2.メンタルケアのに相談等に適ののさい気が、最小ののというできる。 2.メンタルケアのに相談ののさいのののできる。 2. 「ハラスメントに関けする関いを関い、日本のでは、カースを設置し、日本のでは、カースを設置し、日本のでは、カースを設置し、日本のでは、カースを設置し、日本のでは、カースを設置し、日本のでは、カースを表し、	ш	1. 保健センターと連携して新型コロナ感染症対策など最新情報の適切な周知徹底を行うとともに、保健室において発熱・体調不良時の出席停止判断などを適切に対応した。 2. 「学生相談室」の案内をソフトなものに刷新し、デスクネッツTOPページにリンクを貼る等、学生及び教員への周知強化を行った。 3. 「ハラスメント防止のためのガイドブック」を最新の内容に更新し、新入生全員に配布した。(ハラスメントに関する苦情の申し出及び相談対応は人権倫理委員会が行っており、総務人事部所管)				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
4. 女子学生寮(3寮、定員198 名)において学生が社会性や協調性を身につけ健康で自立した学生生活を送ることができる安全、安心な環境を維持し、寮生の生活支援を適切に行う。			4. 女子学生寮(3寮、定員198名)において学生が社会性や協調性を身につけ健康で自立した学生生活を送ることができる安全、安心な環境を維持し、寮生の生活支援を適切に行う。		4、女子学生寮(3寮、定員198名)の運営管理(管理業務は委託)および必要な設備更新などを適切に行い快適な寮生活の提供に努めた。・「在学生アンケート」については授業関係アンケート、文科省実施アンケートなど学生アンケートが多く、学生の負担が大きくなること、有効な回答率が見込めないことから実施は見送り。				
「評価指標」 ・在学生アンケートの実施と満足度向上の状況 【計画40】(学生支援センター)			「評価指標」 ・満足度及びアンケート回収率の前年 比向上の状況						
進路 「計画 強成のための方策」 「大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大の	ш	1. ~3. 概ね計画通り実施した。 4. 就職先アンケートは至近で21年9月に実施したため、22年度は実施せず。 5. コロナ禍もあり対面での説明会ではなく、説明資料の郵送とした。 ・22年度生(過年度生を除く)就職率:99.8%	【年度計画40】 1. 学生発計画40】 1. 学生的な表現が開発します。 (年度計画40】 1. 学生的会別の資質立立に関する場合のの資金を対象のののでは、目をのののでは、自業のののでは、自業のののでは、自業のでは、自業	IV	1. ~3. 概ね計画通り実施した。 4. 3年前から卒業生を輩出している千葉看護学部、和歌山看護学部卒業生の過去3年の就職先アンケートを8月に実施。回収率47%。 アンケートの分析結果を学部長等会議に報告して学内で共有するとともに大学ホームページでも公開した。 5. コロナ前以来4年ぶりに対面での保護者対象説明会を開催した(世田谷キャンパス)。 ・23年度卒業生は、当年度生(過年度生を除く)の就職率、及び全卒業生(過年度生を含む)の就職率はともに就職率100%				
「 評価指標」 ・就職希望者の就職率について、過年 度生を含めて全学での就職率100%を目 指す。			『評価指標』 ①当年度生(過年度生を除く)の就職 率:100% ②全卒業生(過年度生を含む)の就職 率:99.5%						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画41】(学生支援センター) 学部卒業生への支援を適切に実施す る。									
「計画連成のための方策」 1. 学部卒卒業生を対象とした本学ホームページ内ので産業生を対象とした本学ホーので発業生制能ので発生した本学、大学ので展示を表して、大学生サイトの拡充により、本学生ののでは、大学学生のでは、大学学生の表して、本学生の教職支援を行っていくの卒業後の状況を把握するとともに、、教育役立での改善、「卒業とともに、教育役立での改善、「卒業とともに、教育役立でが表して、「支援を行っていくの卒業後の状況を把握するとともに、教育役立では、「本を、「本を、」、「おいるで、大学学生の教職を、「本ので、大学学生の教職を、「本ので、大学学生の教職を、「本ので、大学学生の教職を、「本ので、大学学生の教職を、「本ので、大学学生の、大学学生の、大学学生の教職を、「本学生生の教職を、「本学生生の教職を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学生」を、「大学学学生」を、「大学学学学学学学、「大学学学学学学学学、「大学学学学学学学学学学学学学学学	ш	1. ~3. 概ね計画通り実施した。 ・卒業生アンケート回収率:17.7% (教員にも協力を呼び掛けて回収を図るも前年比ダウン)	【年度計画41】 1. 学部卒業生を対象とした本学ホームとアットの「安生相談のとした本学、、「卒業生を対象としたのとしたので変更・な対解し、卒業生のが、「本業生サイトの拡充により、備・拡入を関係し、支援体制に、支援体制に、支援体制に、支援を行っても継続をしてもので、大変を行っていく。と、学部を集生の卒業後の状況を、在学業との就職支援しまを経験として、「卒るとともに、年本のな職支援しまを経験といる。と、中部本のに対象をできません。「本のは、一本のは、大学を、「中国、大学を、「中国、大学を、「中国、大学、「中国、「中国、大学、「中国、「中国、大学、「中国、「中国、「中国、「中国、「中国、「中国、「中国、「中国、「中国、「中国	ш	1. ~3. 概ね計画通り実施した。 3. 同窓会ではコロナ維力的以来4年ぶりに対面での総会を大学祭に合わせて開催し、卒業4との関係強化を図った。 ・卒業生アンケート回収率14.6%(前年比3.1ポイントダウン)				
「評価指標」 ・卒業生アンケートの実施と回収率の 向上の状況 (注)令和2年度:22.1%			「評価指標」 ・卒業生アンケート回収率の前年度比 向上の状況 (注)令和2年度:22.1%						
【計画42】(学生支援センター) 保護者との連携強化を推進する。 「計画連成のための方策」 本学後援会総会に合わせて教育懇談会を開催する。教育懇談会では、学部等における教育状況等を保護者に報告するともに、場合を見るで使を行う機会を設ける三とにより、本学の教育活動の現状を理解に協力していただくとともに、保護者との連携強化に役立てる。	IV	・計画通り開催 ・3年ぶりに対面で開催した。 出席保護者数:170名(第2会場も使用)	【年度計画42】 本学後援会総会に合わせて教育懇談会を開催する教育懇談会では、学部等における教育状況等を保護者に報告するとともに、保護を決けることにより、本学の教育活動の現状を理解し協力していただくとともに、保護者との連携強化に役立てる。	IV	・保護者の教育状況への理解を深めていただくために当年度より教育懇談会を「教育状況報告会」に変更するとともに、従来の全学部一括での説明から各学部・学科毎に別個に説明する形式に変更した。・出席保護者からは「丁寧な説明を聞ける」「質問がしやすい」、説明する教員からは「十分時間がとれ、保護者と近い距離で話ができる」と双方から好評で、保護者との連携強化を図ることができた。・教育懇談会の出席者数:127名(出席者は前年比ダウン)				
「 評価指標」 ・教育懇談会の実施と出席者の状況			「 評価指標」 ・教育懇談会の実施と出席者数の状況						
【計画43】⑦(学生支援センター) 学生支援センターが担う業務や主管行事の取り組み内容等を迫る。 「計画達成のための方策」 学生支援センター全職員が各自「改善提言」を検討して、支持していまたにで、対して、大のでは、次年度以降の改善等に活用価格機」、次年度以降の改善等に活用価格機」、改善提案の実行及び次年度以降の改善提案を接対を見いる。	ш	・年度前半に組織変更があり「改善提言」、「改善計画シート」は 作成できなかったが、いくつかの業務改善を実現し、経費削減、事 務部の業務効率化を図った。 ・効果の大きい主な業務改善は以下の通り。 ・学の記授与式の保護者出席申込を電子化 (郵送コストの削減、保護者への利便性向上) ・卒業アルバム購入申込のWeb化、クレジットカード決済の導入 (購入希望生の利便性向上、事務職員の業務効率化) ・新入生学生カードの電子化	提言」を検討し、改善計画シートを作成した上で、センターとして実行可能な提案を検討し、実行する。また、実行した取組は、次年度「評価レポート」を作成し、次年度以降の改善等に活用する。 「評価指揮」・改善提案、提案の実行及び次年度以	IV	・学生支援センター所属職員3名中2名が退職・異動で交代し、業務のキャッチアップと維持に努めるのに精一杯で「改善を提言」できるレベルには至らず。 ・その状況下においても、新たに以下の取り組みを行った。 ①新人生学生証写真の電子データによる入学前取得の仕組みを導入し、各事務部の負担軽減、費用削減、発行早期化(学生サービスの向上)を図ることができた。 ②開学以来見直しされず他大学より大幅に低い水準だった各種証明書発行手数料の改定に取り組み、他大学並みの料金水準への引き上				
降の改善の取組状況		(郵送コスト削減、新入生の利便性向上、事務職員の業務効率化)	降の改善の取組状況		げを行い今後の大学収支改善に貢献した。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
8. 教育研究等環境 【計画44-1] (総務人事務) ボストコウに向け、総務人事務) ボストコウに向け、経費・経費・経費・経費・経費・経費・経費・経費・経費・経費・経費・経費・経費・経		・令和4年度整備計画を作成し、計画的整備を推進し、計画10件中7件を完了した。2件は予算獲得や設計変更等の状況から次年度に繰越し、1件は今後のN事業と整合を図るため再検討することした。適正な計画作成と適宜の計画見直が出来た。	【年度計画44-1】 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「会体で研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。 【評価指標】 「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況	IV	R5年度は文科省補助金活用のバリアフリー化を含むR4年度繰越2件を完了した。また、視聴覚設備や受電設備・エレベータリニューアル等、学修・研究及び生活環境の改善を図った。				
【計画44-2】(総務人事部) ボストコロナに向け、「環境整備に関する実施計画」に基づき備・・充実を支援する環境等の整備・・・充実を支援する環境等の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		1. 校舎のバリアフリー化を推進し、R4年度五反田本館バリアフリー化工事の増築確認申請は完了、予算確保の観点からR5年度へ繰越した。2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は調査・検査結果に基づき通正計画・実施できた。世田谷本館でリーナのガラスブェック田面工事、国立病院機構キャンパス本館研究棟外壁防水工事及び世田衛本部アリーナの屋根防水補修工事は完了し、立川体育館用音響設備老朽化による更新と照明交換も完了し老朽化対策を適切実施した。なお、雄湊キャンパス本館事務室拡張工事(要増築申請を次年度/生み応の向上を図るため設計変更が要となり増築申請を次年度に繰越したたの工事もR5年度へ繰越した。3. 世田谷キャンパス期理実習設備老朽化による視聴覚設備の管理に繰越したたの工事もR5年度へ繰越した。3. 世田谷キャンパス期理実習設備老朽化による視聴覚設備の管理責任体制の徹底を図り安全面の管理が向上した。4. 全キャンパス間違隔画像・音声配信設備は、DX事業との整合を図り、学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間(ラーニング・コモンズ)の効率的な整備のため見直し検討することとした。	【年度計画44-2】 1. 各キセンパスを含においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を管推進する。2. 各キャンパスが高速切い症に対策に対策に対すをは、法の表のである。4. 学生の主体な場所での室を順・研究和での習をが強備のある。4. 学生の主体なの後に変更を選手をできない。実験・実態を習るとともに、制の徹底管理を及び設備の後にでいる。4. 学生の主体なのでは、実験・実面を習るを担いましたのでは、実験・実面を関すのを埋・責任に制の徹底管理を見からの本とともに、制の徹底管理を見からの本に、実施に対している。1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	IV	1. 五反田本館パリアフリー化は文科省補助金を活用し完了した。R6年度は維奏キャンバス体育館イトレのパリアフリー化を計画する。各キャンパスのパリアフリー化に配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 法令対応の五反田受電設備の更新、東が丘研究棟エレパークリニューアルを完了した。東が丘消防設備及び絡程エパークリニューアルは契約完了し工事はR6年度に継続実施です。引続き、施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行う。 3. 維奏キャンパス事務室拡張工事や世田谷外壁・防水工事は計画とおり完了した。 4. 実験室・実習室の管理・責任体制の徹底は継続実施中である。世田谷┼ンパス実習室・実験設備の更新・整備はシラパスに適合させて計画的に整備していく予定。 5. 五反田木育館視聴覚設備を更新し開放的空間の活用に努めている。各キャンパスの視聴覚設備のサラライトヒやキャンパス間の遠隔画像・音声配信は、DX事業と継続的な整合のため継続検討する。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画45】(学長、戦略本部) 「多様な価値観を尊重し、一歩先を歩 み続ける医療」を支える「一歩先の教 育」を実現するため、DXによる基盤育 化により「学修者本位の多様な数育の 提供」、「学びの質の向上」を図る。									
【計画達成のための方策】 1. 教育DXの推進 ポストコウナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディブロマサブフ進果とさいにのいるが、では、多元的に学修改育の成果では、多の元的に学修改育の政策を提出をできる。また、それいらの整備を例との、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。		時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」1.7億円を獲得し、ヘルスケア産業のイノベーションの加速とデジタル医療人材育成を実現するための設備・ICTツールの導入(全キャンパス)や教	【年度計画45】 1. 教育DXの推進 ポストコロナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備した・プリメント(DS)やループリックを教育成果や教育成果や被性にを行い教育の質保証とをでは、多元的に学修成果や教育成果を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。	IV	1. 教育DXの推進 ・ 大学ビジョンにDXに積極的に取組む旨を追加した。 ・ 文部科学省支援事業「大学・高専機能強化支援事業」に7月21日 選定された。本事業は基金を創設し「デジタル・グリーン等の成長高東門人材の高に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行う」という新しい試みである。本学は、令和3年度に採択された文部科学省のPlus-DXや産業DXの活動を発展させて、医療情報学科令和8年度4月改組し健康デジタル科(仮)として開設する申請を行った。IT・データサイとによる課題解決、スポーツテクノロジーの活用を柱に人材育成を行い、本学の教育DXのモデル学部としてい、本学の教育DXのモデル学部として、本件では、約9億7千万円の助成金交付(外部資金)を獲得することができた。・学修成果の可視化に関しては、学修ボートフォリオの充実に力点をおいている。				
◇II基盤の強化 ・ネットワークの強化(5G対応) ・セキュリティー対策 ・シングルサインオン導入 ・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備		◇IT基盤の強化 ・仮設66環境を全キャンパスに導入済み。 ・情報セキュリティーに関し学内規定の整備を実施 ・CampusPlanボータル機能を導入済、CampusPlanとWebClassをシングルサインオンできる環境を整備した。全学的運用には学内の調整が必要。 ・貸与継続中 ・CampusPlanに機能追加済み、全学導入を要検討。	◇IT基盤の強化 ・ネットワークの強化(56対応) ・セキュリティー対策 ・シングルサインオン導入 ・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備		◇IT基盤の強化 ・五反田キャンパス、立川キャンパスでは、ICTツール活用が加速する中、WiFiの遅延等が散見されたが、ネットワークインフラの拡張を行い、ネットワークに関しては、今和元年5月24日付元文科高59号の趣旨に基づき、本学における情報セキュリティ水準を適切に維持し、リスクを総合的に低減させることを目的に、新たに「情報セキュリティポリシー」として「情報セキュリティ対策基本方針」及び「情報セキュリティ対策の適正な運営を行うため、「情報セキュリティ対策の適正な運営を行うため、「情報セキュリティ対策の適正な運営を行うため、「情報セキュリティ対策の適正な運営を行うため、「情報セキュリティを最会規程」を制定し、令和5年4月1日より施行、運用を開始した。・シングルサインオンについては、継続検討中。・学生ポータルに関してはれ歌山キャンパ後に関しては、全学生ペラルに関しては、全学生ペータルに関しては、京田キャンパるデステスルに関しては、大学院、五反田キャンパスでテストに関しては、大学院、五反田キャンがスでテストに関しては、大学院、五反田キャンがスでテストにより、大学院に大。ボータルに関しては、中間割があると思われる。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
◇教育設備面の強化 ・教室設備のハイフレックス化(対面・ オンライン選択授業) ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ICTツールの計画的配備 ・ICT利用支援体制の構築		◇教育設備面の強化 ・産業DX補助金による世田谷キャンパス改修において、6教室(A202、A203、A207、A301、A302、A402) に収録用HDカメラと拡 声システムを追加し、Z00M ・次年度以降検討を開始する ・代替実習を含むICTツールに関して、各学部の要望調査を行い、全学共通かつ計画的な調達の視点で次年度アイテムを決定(12月)。 ICT利用支援体制は産業DX予算を活用し、業務委託者を世田谷と 五反田キャンパスにテスト的に配備、検証中。	◇教育設備面の強化 ・教室設備のハイフレックス化 ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代書実習環環境の充実 ・1CTツールの計画的配備 ・1CT利用支援体制の構築		◇教育設備面の強化 ・昨年度までに導入してきたICT環境(教育DX)の運用支援を行う 業務委託体制を構築し、主に五反田、世田谷、立川キャンパスの利 用支援を継続して行った。その結果、設備のフル活用や保守運用面 に貢献できた。 ・本年度4月にスタートした五反田大学院プライマリーケア看護学 領域では、オンデマンドを中心とした講義を展開、多件な社会人学 を持ちずるワーキンググループも講義のオンデマンド化によることができている。全学の手通科対化を 提言しており、今後コンテンツの拡充とともに専用スタジオ環境の 整備も検討中する必要がある。 ・代替実習を含むICTツールに関して、各学部の要望調査を行い、 全学共通かつ計画的な調達の視点で次年度アイテムを決定(12月) し、導入を行った。 ・教育IDYを大学の基本方針と位置付けデジタル技術の更なる活用を を対象としたシミュレーション事例学及び意文換会を充すた。 能した。この意見交換会では、教育職員(常勤・非常勤対象)の ICTレベルの向上を目的としたICTスキルチェックリストの策定を行い、 次年度より本格運用を行う。				
◇学修成果の可視化 ・LMS(学修管理システム)と教務システム連携強化 ・ディブロマサプリメント機能拡充 ・ICEループリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 【評価指標】 ・教育DXの推進状況		◇学修成果の可視化 ・DX補助金を活用して、学修者の出席状況からリタイヤしそうな学生を検知し、教職員や保証人に周知する仕組みを構築中。来年度より医療情報学科で次年度月より試行予定。 ・和歌山キャンパス大学院において、ディブロサブリメント機能を 追動強会を2回実施(9月)、約50名の教員が参加 ・LMS(WebClass)のポートフォリオ機能の学修ビューワ勉強会を 開催(8月)。また、隣地実習に最適化されたF. CESSを12月に全学 デモ、次年度のICTツールとして立川・和歌山看護の導入を決定	 ◇学修成果の可視化 ・LMSと教務システム連携強化 ・ディブロマサブリメント機能拡充 ・ICEルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 【評価指揮】 ・教育DXの推進状況 		◇学修成果の可視化 ・看護演習のボートフォリオ化を実現するため、干薬、東が丘、和 歌山LMS(WebClass)の学修カルテ機能の活用を推進した。 ・和歌山Hキャンパス、立川キャンパスでは、看護演習ボートフォリ オシステムを本格導入して、演習状況の可視化、IRデータ収集、学 生の形成的評価に効果が出ている。2キャンパスの導入効果を見な がら全学展開を検討中。				
2. 研究DXの推進 研究活動を支えるICT基盤環境を図り、 オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。	п	2. 研究DXの推進 ・令和4年度は、教育DXの基盤整備に注力した。次年度より研究DX に関して検討開始予定。	2. 研究DXの推進 研究活動を支えるICT基盤環境を図り、 オープンサイエンス時代を先導する研 究を創出する。		2. 研究DXの推進 ・今年度は急務であった事務作業の効率化に目途が立った。事務部 門のDX化による創出された人的リソースを研究活動の支援、外部資 金獲得に振り向けていく予定。				
◇研究データ基盤の整備 ・研究を支えるICT基盤強化		◇研究データ基盤の整備 ・令和4年度は教育DX整備を先行したが、来年度から研究用ICT基盤 強化について検討予定	◇研究データ基盤の整備 ・研究を支えるICT基盤強化		◇研究データ基盤の整備 研究を支えるICT基盤強化に関して、具体策を検討中。				
◇科研費の管理、運用の効率化 ・科研費獲得に向けICT基盤強化		◇科研費の管理、運用の効率化 ・エクセルによる実績管理から、ICT管理ツール「科研費Pro」を導入し、業務のDX化を進めている。	◇科研費の管理、運用の効率化 ・科研費獲得に向けICT基盤強化		◇科研費の管理、運用の効率化 これまで、手作業で行ってきた科研費の処理に関して、日々の支出 処理、各種報告書出力まで管理業務の効率化と研究費の適正管理 目指して、科研費管理システム『科研費プロ』を昨年度導入した。 昨年度の試行を経て本年度より本格導入したが、事務作業の低減、 科研費の収支状況をタイムリーな可視化、公的機関へのレポート作 成の迅速化に貢献している。				

第3期中期計画	評価区分	171日1十八人198	令和5年度計画 	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【 評価指標 】 ・研究DXの推進状況			【評価指標】 ・研究DXの推進状況						
3. 事務DXの推進 教育研究を支える業務運営全般のDX化 も加速させる。事務的処理に投入され てきた職員のリソースを大学価値創出 にシフトさせ大学の競争力を高める。		3. 事務DXの推進 ・学習基盤推進室が中心となって、教育DX・事務DXに関する調査及 び導入を行っている。ツール導入だけではなく、運用の視点で、分 散した事務職員のリソースを、外注化や集中化によって効率的にで きないか模索中。	も加速させる。事務的処理に投入され		3. 事務DXの推進 ・事務DXを全学的に推進するため、全学模断組織である「事務DX推進プロジェクトチーム」を設置(7月1日)した。メンバーには次世代を担う若手・中堅職員が参加し、学生サービスの充実、サービス向上。業務の効率化に向けた議論を活性化させている。				
◇キャンパスブラン拡張と業務一元化 ・学生募集から卒業まで一元管理		◇キャンパスブラン拡張と業務一元化 ・人事情報システムを追加、任用から辞令までの人事管理を電子化した。 ・経理部門へのCampusPlan導入の可否を調査した。 ・半期に一度、成績表を印刷して郵送を行っているが、今年度 CampusPlanアンシンサイトを導入し、保証人がWebで閲覧きる環境を整備中、来年度から運用開始め目指す。	◇キャンパスプラン拡張と業務ー元化・学生募集から卒業まで一元管理		◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・本学の課題である事務部の分散による業務の非効率化を解消する ため、教務システム(Campusplan)のパックオフィス業務(データ 入力、カリキュラム設定など)を、納入ペンダーであるシステム ディ社にリモートで委託する新サービスの実験を行った。課題はあ るものの、各事務部で共通する事務作業を仮想パックオフィスで集 中的に行う可能性が見えて来た。今後人事部と具体化に向けた協議 を行っていく。				
◇問合せ業務の効率化 ・AIとチャットボット (自動会話プログ ラム) の活用		◇問合せ業務の効率化 ・SIベンダーもチャットボットシステムを紹介いただくなど、調査 中。	◇問合せ業務の効率化 ・AIとチャットボットの活用		◇問合せ業務の効率化 ・チャットボットは、問い合わせ業務の効率化として期待される が、データベース構築に手間暇・コストがかかるため当面現実的で はない。				
◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書コンピニ発行 ・電子マネー決済導入 ・業務の標準化と統合及びバックオフィス強化(共通業務)		◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書のコンピニ(学外)発行システム構築中、 次年度5月以 降にカットオーバーを予定。 ・次年度より検討を開始する。 ・補助金の一部を活用し、新設の大学院プライマリケア看護領域の CampusPlan設定作業やデータ入力業務を外注化、パーチャルパック オフィスの実証実験中。			◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書に関しては、「学外(コンピニ)証明書発行システム」が 学内サーバークラウド化の影響で導入が遅れたが、準備が整い、来 年度月1日より運用スタートする。これによる年間7000件の証明書 発行業務の自動化が実現する。 ・学外証明書発行システム導入に伴いWebによる決済代行システム も併せて導入する、カウンターで現金決裁を行ってきた追試や寮費 の決裁などキャッシュレス化の道筋が見えてきた。次年度以降、電 子マネーも導入も合わせて検討する。 ・事務部の対象による業務の非効率化を解消するため、教務システム (Campusplan) のバックオフィス業務(データ入力、カリキュラーム設定など)を、納入べ数ダーであるシステムディ社にリモートを部 で共通する事務作業を仮想バックオフィスで集中的に行う可能性が 見えて来た。今後人事部と具体化に向けた協議を行っていく。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
◇業務のオンライン化 ・各種決済 ・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション		◇業務のオンライン化 ・証明書コンピニ(学外)発行システムの決済機能を活用して、追 試験などの金銭の授受を伴う申込などをコンピニ決済に移行する。 次年度5月以降に対応予定 ・次年度対応予定 ・次年度対応予定 ・補助金等を活用して、4キャンパスにオンライン会議(Z00M)可能な電子黒板を導入。特に、学部長等会議やC0VID-19対策本部会議など、本部での会議をハイブリッドで先行実施。	◇業務のオンライン化 ・各種決済 ・動怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション		◇業務のオンライン化 ・学外証明書発行システム導入に伴いWebによる決済代行システム も併せて導入する、カウンターで現金決裁を行ってきた追試や寮費 の決裁などキャッシュレス化の道筋が見えてきた。次年度以降、電 子マネーの導入も含め、具体的な移行について検討を行う。 ・動怠管理システムは人事部手動で今年度導入を検討、次年度より 導入を開始する予定。 ・200Mや電子黒板の積極的な導入により、出張費や時間の削減に寄 与している。また、会議そのものの時間短縮という副産物も生まれ ている。				
◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討		◇ペーパーレス化 ・SIベンダーに事務のペーパーレス化を相談中。 ・SIベンダーに事務のペーパーレス化を相談中。 ・SIベンダーに事務のペーパーレス化を相談中。 ・全学的なペーパーレス化を実現するため、従来印刷物を配布して いた学部長等会議をペーパーレスにて試行し、課題抽出する。	◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討		◇ペーパーレス化 ・大学経営会議など、外部メンバーへの従来通り印刷物を配布して いるが、今年度より学内関係者はPDFを事前配布する運用に変更を 行った。紙資源の削減と事務作業軽減に寄与している。学内の主要 会議のレスペーパーにも波及し つつある。				
◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備		◇データによる教学IR、経営IRの推進・学内のビッグデータ解析 ツールとして、データサイエンティストが不要なAI分析サービス (dotData Lite) をSIベンダーにヒアリング。	◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備		◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・大きな進捗がないが、学生募集や経営判断においてビッグデータ の活用が必須であり、次年度の優先課題としたい。				
◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備		◇データによる数学IR、経営IRの推進・学内のビッグデータ解析 ツールとして、データサイエンティストが不要なAI分析サービス (dotData Lite) をSIベンダーにヒアリング。	◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備						
【 評価指標】 ・事務DXの推進状況			【 評価指標】 ・事務DXの推進状況						
【計画46】(研究協力部) 教育研究活動に必要な教員の研修の機会を確するため、学会・研究会に参加する等、就業規則に設立き適なを加まを行う。また、外部資金。 【計画達成のための方策】 教育のの積極的な獲得を奨励していては外資金のの積極的な獲得を奨励しては外資のの方策】 教育のの積極的な獲得を奨励しては外部講師を招いて定期的に説明会を明確が研究で費等補助金については外部講師を指いて定期的に説明会を開催して開催機工。要学客所会等的外部金等外部金等外部金等の獲得、大學研究費等補助参加者教、参加率)	S IV	・科学研究費等補助金の積極的な申請を奨励するため、毎年度外部 請師を招いて説明会を開催しており、今年度は独立行政法人日本学 術振興会研究事業部研究助成第二課 課長代理の荒田 孔明氏を招 聘し令和4年8月8日(月)16:30から90分間オンライン開催で実施した。 参加者数は教職員等166名、参加率は教員58.3%と参加者数及び教員 参加率とも過去最高となった。 ・科研費や部資金の優得状況は次表の「研究費総額に占める学外からの研究費の割合」及び「科学研究費助成事業新規申請件数及び 採択件数」の通りである。 ・令和3年度については、学外からの研究費が、前年度比66.179千 円増(180%)となった。特に総合研究所が積極的に行った共同研究や厚生労働行政推進調查事業費補助金(厚労科研)の受け入れ額の増が外部研究費増となった主な要因である。 また、科学研究費助成事業(科研費)新規申請件数及び採択件数はコロナ禍が続く中で申請件数及び採択件数とも前年度を上回った。	【年度計画46】 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部 資金への積極的な獲得を奨励する。 また科学研究費等補助金については外 部講師を招いて定期的に説明会を開催 は時間・提得を図る。 【評価指標】 ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金 の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況(開催回数、参加者 数、参加率)	ш	・科学研究費等補助金の積極的な申請を奨励するため、毎年度外部 講師を招いて説明会を開催しており、今年度は奈良県立医科大学公 衆衛生学講座 教授の今村 知明先生を招聘し令和5年3月17日(木) 16:30から90分間オンライン開催で実施した。 ・参加者数は教職員等174名、参加率は教員64.6%と参加者数及び教 員参加率とも昨年の過去最高を更新した。 ・科研費等外部資金の獲得状況は次表の「研究費総額に占める学外からの研究費の割合」及び「科学研究費助成事業新規申請件数及び 採択件数」の通りである。 ・令和4年度については、学外からの研究費が、前を比80,986千 円滅(46%)となった。要因として考えられることは、コロナ禍の対応のため準備作業等で研究に費やす時間減少が大きい。また、科学研究費助成事業(科研費)新規申請件数は依然とコロナ禍、分対応のため準備作業等で研究に費やす時間減少が大きい。また、科学研究費助成事業(科研費)新規申請件数は依然とコロナ禍が続く中で前年度を上回り、採択件数は前年度と同数となった。 なお、令和6年度採択件数は令和6年3月末現在(最終的には令和6年9月決定)13件となっており、昨年度に比べて大幅に改善される見込みである。		今年度は未確定であるが、採択付込みであるが、終末のそのでを か改善るのでそとが まましい。		

第3期中期計画	評	令和4年度実績	令和5年度計画	評	令和5年度計画達成状況	評	自己点検・評価委員会	評	内部質保証推進会議
ANGWI TANKITE	価 区 分	1711	17112 1 241 1	価 区 分	10 10 1 201 11 200 200	価 区 分		価区 分	
【計画47】(図書館) ポストコロナに向け、図書館機能の整備・充実を図るとともに、図書館利用 者のサービスの向上を図る。									
【計画達成のための方策】 1. 教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。	IV	1. 例年と概ね同程度の数の図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体 等の受入を実施した。	【年度計画47】 1. 教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。	IV	1. 例年と概ね同程度の数の図書・視聴覚資料・電子書籍の受入を実施した。学術雑誌は休刊と電子版移行により購読数が減少し、その分電子雑誌の購読数が増加した。				
【 評価指標】 ・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子 媒体等の整備状況			【評価指標】 ・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子 媒体等の整備状況						
2. 図書館管理システムにより、利用 サービスの維持・向上を図る。	IV	2. 図書館システムを通して受入資料の目録を公開し、所在情報やアクセス情報を提供した。	2. 図書館管理システムにより、利用 サービスの維持・向上を図る。	IV	2. 図書館システムを通して受入資料の目録を公開し、所在情報やアクセス情報を提供した。				
【評価指標】 ・図書館管理システムによる利用サー ビスの改善状況			【評価指標】 ・図書館管理システムによる利用サー ビスの改善状況						
3. 新入生に対する図書館利用に関する オリエンテーションを実施するととも に、利用者のニーズに対応した図書館 ガイダンスを適切に実施する。		3.全学部・専攻科・研究科の新入生に対してそれぞれ図書館ガイダンスを実施したほか、学部生・大学院生に対して文献検索・データベースガイダンスを実施した。		IV	3. 全学部・専攻科・研究科の新入生に対してそれぞれ対面での図書館ガイダンスを実施したほか、学部生・大学院生に対して文献検索・データベースガイダンスを実施した。文献検索・データベースガイダンスは希望に応じて録画映像の配布も実施している。	i			
【 評価指標】 ・図書館ガイダンスの実施状況			【 評価指標】 ・図書館ガイダンスの実施状況						
4. 図書館利用に関する学生及び教職員 からの相談を適切に行うとともに、文 献複写サービスの提供に努める。ま た、ラーニング・コモンズの整備に努 める。		4. 例年と同程度学生及び教職員からの相談に対して回答を行い、文献複写サービスを実施した。・ラーニング・コモンズの整備について進捗はない。	4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・コモンズの整備に努める。		4. 例年と同程度学生及び教職員からの相談に対して回答を行い、文献複写サービスを実施した。 ・ラーニング・コモンズの整備について進捗はない。				
【評価指標】 ・利用者からの相談状況、文献複写 サービスの活用状況、ラーニング・コ モンズの整備状況			【評価指標】 ・利用者からの相談状況、文献複写 サービスの活用状況、ラーニング・コ モンズの整備状況						
備し、書架の案内掲示を見易くする等 利用サービスに努める。	IV	5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。	備し、書架の案内掲示を見易くする等 利用サービスに努める。	IV	5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。				
【 評価指標】 ・利用サービスの改善状況			【 評価指標】 ・利用サービスの改善状況						
6. 地域に開かれた大学として地域開放 に努めるとともに、図書館利用の拡充 に努める。		6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが 利用申込はなかった。附属東が丘図書館において目黒区地域内図書 館の共同企画展示を実施し、地域連携会議を行った。	6. 地域に開かれた大学として地域開放 に努めるとともに、図書館利用の拡充 に努める。	П	6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館が参加する目黒区の医療系図書館地域連携の名称を「めぐりぶ健康ネット:めぐろ図書館健康情報連携」と決定し、共同企画展示「病気と仕事の両立」を開催した。				
【 評価指標】 ・地域住民等による利活用状況			【 評価指標 】 ・地域住民等による利活用状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
9. 社会選携・社会質献 【計画48】(企画部) 医療・健康・保健康・保健康・保健康・保護師の主推進する様々な上に、地域の音響が発送して、地域の音響が発送しての機能を受ける。 「計画達成のための方策」 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。 「評価指標」・関係規程の整備及び支援体制の整備状況	: : II	ト・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5 月に設置し DXの推進のほか、関連して社会連携・社会貢献の取組 について検討を行っているが、全学的な体制整備の構想案の策定ま	【年度計画48】 社会重様・社会貢献の取組の中核となる支接体制や性組みを整備する。 「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備 状況	ш	・全学的な社会連携・社会貢献の取組の実態が不明なことから、学 長戦略本部において、「地方公共団体、企業、関連病院等との連 携・協力による地域の課題解決に向けた各種取組状況」について各 病院、看護協会、学校、財団、自治会、社会福祉協議会、地域を表 長妻会、防災協議会、ブロスポーツチームなどとの多岐にわたる 接事業を各局単位あるいは教員個人単位で多数の連携事業を行いること、お り負担が増大していること、事経費していること。てお り負担が増大していること、事経費については連携も見えてき た特定の教員グループ・教員個人単位でのいては連携も見えてき たっの課題解決のため、総合研究所の体制強化を図るため、「 ・これらの課題解決のため、総合研究所体制強化を図るため、「 ・これらの課題解決のため、総合研究所体制強化を図るため、「 ・これらの課題解決のため、総合研究所体制強化を図るため、「 ・では、研究力強化会議」を設置し学内の体制強化を図るため、「 京医療保健大学の研究推進、外の体制強化を図るため、「 京医療保健大学の研究推進、不認されたことから、今後具体的 な取組を進めていくこととした。				
【計画49】(企画部・各事務部) 大学が所在する地方自治体との連携を 強化し、共催・後援による公開講座等 や各種事を推進する。 「計画連成のための方策」 大学が所在する品川区、世田谷区、 黒区は、立川市・銀行、世田谷区、 地位、後援による公開講座 で推進するとともに、定を助産実践事」 等を推進するとともに、定な助産子でである。 では、では、では、では、では、 では、では、では、では、では、では、 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	IV	とを意識し、大学のPRとして学生募集につながる取組を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、事前の広報活動や当日の人員配置等についても各キャンパスが主体的に対応す	黒区、立川市、和歌山市、船橋市等と の共催・後援による公開講後で開催等 を推進するとともに、は る母子へのケアに高度な助産実践力を もって貢献していく「産後ケア事業」 等を推進すると 「評価指標」	IV	・公開講座の実施については、令和5年6月29日に開催した「全学公 開講座委員会」において、大学のPRとして学生募集につながる取組 を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、 事前の広報活動や当日の人員配置等についても各キャンパスが主体 的に対応すること等を定めた令和5年度公開講座実施方針について承 認され、それぞれのキャンパスにおいて実施された。 ・「産後ケア事業」の推進については、【計画66】を参照のこと。 ・また、各キャンパスにおいて以下のとおり地域性を考慮した各種 事業を推進した。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		(五反田事務部) ・医療保健学部看護学科と品川消防署が連携を行い、地域・社会貢献を目的に学生消防団員の募集を行い、8名の学生が入団を希望した。令和4年12月13日には品川消防署長等が来校し、辞令式を実施した。 ・五反田キャンパスの近隣に位置する品川区立第三日野小学校より8名が生活学習の一環で来校し、地域看護学領域の教員が施設見学やインタビューに協力した。 ・医療保健学部看護学科の液會教授が中心となり、東京都の一般社団法人「住民とともに活動する保健師の会」からの委託事業を実施してきた。本学との連絡がより可能となり、地域貢献・関連組織として「地域健康づくり研究・教育センター」を設置することの検討を行った。(センターの設置は令和5年4月より)本センターは、品川区をはじめ、全国及び各自治体や地域と連携協同して、保健・健康づくりの発展に関する業務等を行う予定である。 (世田谷事務部)・世田谷区教育委員会と連携して「手の消毒効果について」の体験学習を2月13・18日に三宿小学校で実施。児童参加32名/各日、教員1名、学生7名参加。 (東が丘事務部)・【計画59-1】 ~ 【計画59-3】を参照のこと。 (立川事務部)・【計画59-1】 ~ 【計画59-3】を参照のこと。 (立川事務部)・「計画59-1】を参照のこと。 (立川事務部)・「計画59-1】を参照のこと。 (立川事務部)・「計画61-1】を参照のこと。 (元・丁文本等があり、定員以上の申し込みをいただいた。(千葉事務部)・【計画61-1】を参照のこと。			(五反田事務部) ・医療保健学部看護学科と品川消防署消防団は昨年に引き続き、令和5年10月25日に入団辞令交付式を本学にて実施した。辞令交付式には学生団員1名、品川消防団長等、塩山学長が参加した。・・品川区立第三日野小学校で発展学習として学んでいる「防災」の・・品川区立第三日野小学校で発展学習として学んでいる「防災」の・・令和4年度に医療保健学部看護学科の付属施設として設置された「地域健康づくり研究・教育センター」の活動として令和5年度も聴の資料として周知した。(世田谷事務部)・6月に、世田谷区教育委員会と連携して体験学習「食品から色を取りだして調べよう!」(食品に含まれる合成着色料の種類を調査)を三宿小学校で実施。児童40名、教員1名、学生5名参加。(「千葉看護学部)・・船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業に「ふなばし夏のボランティア」の案内を5月に、「マナフェス」ボランティア活動を行の計2回実掲示した。各活動の参加実績は把握していない、「3かばは世健康まつりに学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。参加人数は教職員9名、学生32名でした。、地域交流イベント2023を3月24日に開催し254名の参加者があった。(和歌山事務部)・和歌山市と共催し、9月16日(土)雄湊キャンパスにおいて「がまんしていないでからげよう一」と題し公開講座を実施した。本学部福山教授の講演や和歌山市と供信所の保健師など名による和歌山市の現状説明をてやわらげよう一」と題し公開講座を実施した。本学部福山教授の書講座や和歌山市保健所の保健師など名による和歌山市の現状説明を「4和歌山市坊主権で3学生支援プロジェイトに参加、増生祭者を行い、市月法を紹介、一緒に行った。	2			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画50】(企画部・各事秀部) 保健医療関係機関等との連携協別大によを図る。 以、医療現場の今日的な課題場から、 、計画達成のための方策」 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立行研究開発法人国立定結構協定で終結に対して必要をの連携協定の表す。 東美野型や二人の大きので、一般では、一般である。 「評価指標」・独立立研等との連携協定の締結を対極の表す、表示を推進する。 「評価指標」・独立立研究開発法人地域医療機能推進機構を担立する。	IV	連携・協力協定を締結した。 ・人事交流では臨床教授4名、非常動講師11名が就任すると共に立 川看護学部に教授として入職している。実習施設として大学院助産 をはじめ学部・学科全体で延74名が利用するなど協働事業は進展中 である。 (干業事務部) ・独立行政法人地域医療機能推進機構より、1名の講師を受け入 れ、人事交流を継続した。 ・・JCHO船橋中央病院において、①令和4年度新卒看護職員研修への 参加、②ラダー四看護研究計画立案指導、③看護研究支援を行っ た。また、30H0東京山手メディカルセンターにおいて看護研究支			(東が丘事務部) ・人事交流では臨床教授5名が就任、非常勤講師21名に授業を担当いただいている。実習施設として大学院助産をはじめ学部・学科全体で延346名が利用するなど協働事業は進展・拡大中である。国立病院機構とも定期的な会合を持ち、密な連携を継続している。 ・別山本部の副理事長の人事交代により、昨年11月末の「限フォーム」への本部職員参加者数が増え、フォーラム終了後、全国のNHO施設に本部から診療者護師の業務基準に係る調査がなされ、NPに対する関心が高まり、地域に動務している修了生からの反応があり、従来に比し密な関係が推進された。 (千葉事務部) ・独立行政法人地域医療機能推進機構より、1名の講師を受け入れ、入事交流を継続した。 ・力にHの監構中央病院において、①令和5年度新卒看護職員研修への参行力な法人地域医療機能推進機構より、1名の講師を受け入れ、入事交流を継続した。 ・力にHの監構中央病院において、①令和5年度新卒看護職員研修への参行った。 ・力の記を推復を行った。 ・力の記を推復を行った。 ・日赤和歌山医療センターとの連携事業として、和歌山看護実践研究センターを連携事業として、和歌山看護実践研究センターとの連携事業として、北京都に参加いただき、キャリア開発の支援、モチベーションアップと生涯教育につながる研修会を開催した。 ・日赤和歌山医療センターにおいて開催された看護研究研修会などに非赤和歌山医療センターに就職する看護学生対象に看護技術の基礎トレーニングを実施、就職予定者40名が参加し日赤と協力して指導を行った。	Ī			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画51】(五反日事務部・感染制御学学表演研究社における研究の取組を紹介する所究の取扱の関連に基本の表示を必要する。 「計画連成のための方策」大学院主権護師の要と、「計画連成のための方策」大学院主権護師の要と、「保証を持ち、保証を持ち、というのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	E P	テーマ: 先をみる医療—新型コロナウイルス感染症がもたらした社会の変化— 昨年度から引き続きZoomでの開催とし、H29年度の実施から最多となる207名が参加し、アンケート結果も好評であった。 (感染制御学教育研究センター) 感染制御学教育研究センターにおいては保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、「感染制御実践看護学講座」を実施している。	御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施により、より参加しやすい環境を整備する。 「評価指標」・公開講座の開催数及び参加者数、	IV III	(五反田事務部) 医療保健学研究科では平成27年度より研究科公開講座を企画・実施しており、令和5年度は以下のとおり実施した。 日時:令和5年7月8日(土) の中、研究発表、教育講演、特別講演のがコグラム構成であったが、今回は教育講演及び特別講演の講演者を登壇者としたパネルディスカッションの時間を設けた。 昨年度と同様200mでの開催とし、208名の申込者があり、うち180名が当日参加した。アンケート結果も好評であった。 (感染制御実践看護学講座 同センターでは保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、平成22年より「感染制御実践看護学講座同センターでは保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、平成22年より「感染制御実践看護学にた。・期間:令和5年月22日(土)~10月28日(土)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				

第3期中期計画	評価	令和4年度実績	令和5年度計画	評価	令和5年度計画達成状況	評価	自己点検・評価委員会	評価	内部質保証推進会議
【計画52】(学長敬略本部、各事務部) 本学を卒業した医療人等の生涯学習の 場づくりを支援するため、 「ボータルサイト」を開設し、学部卒 業生・大学院修了生等が、オンライを 業生・大学院修了生等が、う体制を 備するとともに、看護職に対する生涯 学習支援講座を開設し、継続教育の機 会を提供する。	区 / 文章			分		分		分	
「計画連成のための方策」 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で制を整ち、特別を開設し、学部卒業は、学学内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。	\ X	・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5月に設置し、ボータルサイトの開設の検討を行っているが、ニーズ調査等も必要であるため、引き続き令和5年度に検討を継続することとした。	【年度計画52】 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。	п	・学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェクトチームにおいて、全学共通の卒業生向けのポータルサイトを開設するための検討を行い、まずは医療栄養学科の卒業生にそのニーズ調査を実施した。調査の結果、84名の回答があり、①大学訪問理由については、教員訪問、医愛祭参加、セミナー参加、証明書発行のためが上位を占めた。②大学に求める情報については、転職情報、セミナー情報、大学イベント情報、現在の大学に関する情報が上位を占めた。③卒業生専用ページに求めることについては、証明書発行手続き、転職の相談、セミナーの申し込み、資格取得の相談、現行の業務に関する相談、卒業生同士の交流が上位を占めた。・令和6年度は、看護の分野等においても同様の調査を実施した上で、全学的な卒業生のニーズを踏まえたポータルサイトの具体的な制度設計を進めることとする。				
「 評価指標」 ・「ボータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数			「評価指標」 ・「ボータルサイト」の設置状況及び 看護職に対する生涯学習支援講座の開 催数及び参加者数	ш	(五反田事務部) ・医療保健学部看護学科ではHomecoming Dayを開催しており、令和5年度で7回目となった。在校生等との交流会だけでなく、病院や医療センターで活躍している卒業生数名を招き、トークセッションの時間を設け、生涯学習支援講座としての内容も含んでいる。・令和5年度は福祉グループ、病院等から3名の卒業生を招き4年ぶりに対面で実施し、卒業生26名、在学生8名、教職員等28名、計62名が参加した。				
【計画53】(各事務部、学生支援セン ター) 医療系の大学で学生として社養及 学習意欲の向上を図るとともに、地場 との交流を深め地域社会の発展に寄与 っため、学生のボランティア活動へ の積極的な参加を奨励する。	ī K ţ								
「計画達成のための方策」 組織的なボランティア活動を展開する ための中核となる支援体制や仕組みを 整備する。 「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備 状況	ш	・組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備するには至っていない。ボランティア活動は地域性が高く、ベントの発生ベースで募集があるため、学部を跨いだ組織横断的な取り組みが行いにくく、効果もあまり見込めない一方、事務が単位では地域性を踏まえた活動が行われた。(全事を発展である。)・医療保健学部看護学科では、品川区の在宅介護支援センターとの連携で有志が在学ケアチームの一員としてボランティア活動を実施している。ボランティア活動を実施している。ボランティア活動を実施している。ボランティア活動を実施している。ボランティア活動を実施に応じた観察など看護学生として貴重な体験ができる。	ための中核となる支援体制や仕組みを	IV	(五反田事務部) ・医療保健学部看護学科では、昨年度設置した「地域健康づくり研究・教育センター」が中心となり、学生と行う社会貢献事業、品川区役所と大学教員との連携・社会貢献事業、地域組織とともに行う活動等、様々な活動を積極的に行った。(世田谷事務部) ①世田谷区と連携し区立の教育機関における部活動等支援要員募集の定期的な案内実施、②キャンパス周辺の地区ボランティア団体広報誌等の掲示。				

第2世中和李 西	評	↑ ◆ ★ 11 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4	△和5年度計画	評]	#3	↑ 白コよ☆、瓠原チョ스	## ##	由如際原転供准入◎♥
第3期中期計画	計価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	計価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		(世田谷事務部) ・学生ボランティアの支援体制は事務部が世田谷さキャンパスの2学科共通の窓口となり、以下の活動を実施した。(公舎か和報告有)、②キャンパス周辺の地区ボランティア団体広報誌等の掲示。 (1名参加報告有)、②キャンパス周辺の地区ボランティア団体広報誌等の掲示。 (東が丘事務部)・学生ボランティアの支援体制は学生生活委員会及び事務部が窓口となり以下の活発な活動を実施した。①目黒消防団活動168名、②東京医療センターセタ飾りイベント16名、③目黒区民まつり198名、東京医療センターセタ飾りイベント16名、③目黒区民まつり198名、「東が底をは登上となり以下の活発な活動を実施した。①目黒消防団活動168名、②東京医療センターセタ飾りイベント16名、③目黒区民まつり198名、⑤「東が压保壁全たより、年10条行、⑦教員2名が各々目黒区の生学習推進協議会メンバー、自殺対策推進会議会長に就任し目黒屋の生学習推進協議会メンバー、自殺対策推進会議会長に就任し目黒屋の立流を強化した。(立川市務部)・立川看護学部では、包括連携協定を結んでいる立川市関係を中心として、立川市消防団活動(151名)、立川市ホーナーシップフェスタ(21名)、パートナーシップフェスタ(21名)、パートナーシップフェスタ(21名)、パートナーシップフェスタ(21名)、パートナーシップフェスタ(21名)、パーキ・半年世間(29名)、コ川市ホーナーシップフェスタ(21名)、バード等部生信名をからからだのお話し会(未就学児がからだについて学ぶお話会)」に学部を8が参回した。「東京医療保健大学が多合人が表がしている立川市赤まなで、「東京医療保健大学である」に学生を1が多面となっまる。「東京医療保健大学である」に対している立川市赤和歌山県支部との連携、協力のもと「東京医療保健大学が表している立川市赤和歌山県支部との連携、協力のもと「東京医療保健大学の企画で書も大会では、10年間では、1		ш	(千葉看護学部) 「ふなばし健康まつりの情報」「地域交流イベントの情報」を学生に周知して学生がボランティア活動を行えるよう支援した。それぞれのイベントには学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。参加人数は、みなばし健康まつり:教職員9名、学生32名、地域交流イベント:教職員37名、学生74名(和歌山事務部)・令和4年度に日赤和歌山県支部との連携・協力のもと結成した「東京医療保健大学和歌山看護学部赤十字奉仕団」は合計36名の学生が所属し、日赤県大部の活動に参加するなど、自分たちで企画した市立図書館のイベントを行い、活発に活動した。・和歌山市主催の紀州おどり「ぶんだら節」(46名参加)など地域のイベントにも積極的に参加した。・和歌山市浦防署との共催による多数傷病者訓練を雄奏キャンパス・和歌山市浦防審との共催による多数傷病者訓練を雄奏キャンパス・和歌山市浦防審との共催による多数傷病者訓練を雄奏キャンパス・和歌山市浦防審との共催による多数傷病者訓練を建奏キャンパス・カ和歌山市浦防審との共催による多数傷病者訓練を建奏キャンパス・カ歌山市浦防護近畿ブロック合同訓練(学生31名参加)など地域大規模災害訓練にも多くの学生が参加した。				
【計画54】(学長戦略本部・総合研究所、研究協力部) 教育・研究の充実・発展を図るため、産・学・官等との共同研究や受託研究 の推進及び科学研究費等補助金の申請 等により、外部資金を確保する。	2								
「計画連成のための方策」 「学長戦略本部」を中核として、共同 研究や受託研究のニーズを発掘し、大 学研究者が有する研究シーズとのマ チングを支援するなど、支援体制を強 化する。 「評価指揮」 ・共同研究、受託研究の実施件数及び 科学研究費等補助金等の申請件数及び 採択件数	п	はあったが、受託研究については昨年度を上回る件数を確保したと ころである。 ・また、令和4年度科学研究費等補助金等の申請件数は41件(令和3 年度:30件)、採択件数は8件 (令和3年度:7件)であり、申請件 数・採択件数とも前年度以上の件数を確保したところである。	チングを支援するなど、支援体制を強	Ш	・令和5年度の共同研究の新規契約件数は4件(令和4年度:5件)、受託研究の新規契約件数は7件(令和4年度:8件)であり、依然としてコロナ禍の影響はあったが、共同研究及び受託研究とも昨年度とほぼ同件数を確保した。 ・また、令和5年度科学研究費等補助金等の申請件数は43件(令和4年度:41件)、採択件数は8件(令和4年度:8件)であり、申請件数は前年度を2件上回り、採択件数は前年度と同件数を確保したところである。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画55】【計画32の再掲】(国際交流センター、研究協力部、各本等部) 学生・教員に係る海外に、の交流生と等とともともとともともともともともともともともともともともともともともともと		(国際交流センター、研究協力部) 1. ハワイ大学とシャミナード大学との大学間の正規の提携は、コロナ禍等の影響により先方の受け入れ状況等が整わなかったため、提携までには至らなかった。引き続きの本籍5年度に達成できるよう準備をする。オース・トラリアのグリフィス大学とは令和2年に公式提携を結んでいる。「一般では、今和5年3月にはカンリフィンが修(OSAP1市間)を、令和5年3月にはカンリフィンハワイ研修(OSAP1市間)を素施した。OSAP41では17名が参加、OSAP1市間に本学学生及び教員39名が参加した。後者にはシャミナード大学の学生12名も参加して交流を行った。 2. 国際的な講演会に関しては、リレー講演会「世界の医療を知ってみよう」をテーマとして医療保健学部看護学科と共催した。令和4年12月から令和5年2月までの間に、全学を対象として、オーストラリア、イギリス・ニージーランド、イギリスの医療に関する講演会3回オンラインにて実施した。学生、大学院生、専攻科生、教員が、多数参加して非常に挙げであった。各回の参加者数は、1回目リアルタイム64名/オンデマンド67名、2回目リアルタイム64名/オンデマンド42名、3回目73名/オンデマンド22名であった。	イ大学、シャミナード大学との大学間 提携を進めるとともに両大学との研修 内容の充実を図る。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に		(国際交流センター、研究協力部) 1. グリフィス大学との大学間連携の更新は、グリフィス大学担当者の変更によって作業が遅れためできなかったが、次年度 4 月間しては、令和5年9月に第5回グリフィス大学オンライン研修を実施した名が参加した。さらに令和6年3月に4年半ぶりにグリフィス大学現地が多で実施した。参加者は46名と近年で最多であった。参加学生に対する実施後アンケート調査(回答者38名、回答率82.6%)では、研修を実施した。参加者は46名と近年で最多であった。参加学生に対する実施後アンケート調査(回答者38名、回答率82.6%)では、研修プログラム全体に対する評価は「大変満足」「まあまあ満足」を合わせると100%であった。・ハワイ大学、およびシャミナード大学との提携は、両大学の教職員スタッフ大幅な変更などにより、本学との提携は、両大学の教は一時休止状態となっている。今後どのような連携やプログラムを実施した。中国の無山大学からの申し入れを受けオンライン交流会を令和5年12月に実施した。両大学を10名ずつ、20名が参加した。2(国際交流センター、研究協力部)令和5年度には4回の国際的な講演会を実施した。9月にバングラデシュの医師8.8、ナイーム氏を五反田キャンパスに招いて、対面およびオンラインの特別講演会「バングラデシュの医師。8.4 ナイーム氏を五反田キャンパスに招いて、対面およれて、対面およりによる12月に、明知は大学末まで実施した。申込者数133名。またオンラインによる3回にかたるリレー講演会を以下の通り実施した時、(単込者数133名)10月:「アメリカの医療事情」(講師・定和また)11月:「国際比較からみる女性特有の健康課題」(小川真里子氏)12月:「ベトナムの医療現場から考える国際医療協力」(講師:森山潤氏、勝山なおみより173名。	; ;			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	世田谷事務部) 9月にオーストラリアのグリフィス大学(学生6名/教員3名)、3 Iにハワイのシャミナード大学(学生4名/教員2名)とオンライン 流流を実施。 立川事務部) オーストラリア研修への参加は、4年生1名だけであったが、ハワ 研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は13 i、(3年11名、1年2名)であった。 千葉事務部) 東京医療保健大学総合研究所の依頼に基づき、ヘルスシステムデ・インユニットが主導する産科領域の働き方改革に関する研究に ける、海外事例の収集と日本への適用方策を検討するために、千 看護学部の教授1名が、3/20-22の期間で台湾医療施設を視察し。 9月にオーストラリアのグリフィス大学(研修参加者学部生1名/ 人員2名支援教員)、3月にハワイのシャミナード大学(研修参加者等部生2名・大学院生1名・教員1名/教員2名支援教員)とオンライ 交流を実施。「世界の医療ケアを知ってみよう!」との企画のも、、リレー講演会の開催(3回)を支援した。 和歌山事務部) 学術交流協定を締結しているベトナムナムディン大学の卒業生 (介護士)他との交流会を開催、学生13名が参加し国際的な看護や 、化、海外の医療等を学び、有意義な異文化交流を行った。		IV III	(五反田事務部) 国際交流センター主催のオーストラリア現地研修に医療保健学部看護学科より学部生9名、教員2名が参加した。 (世田谷事務部) ・9月に台湾秀博医療グループの病院、老人ホーム、産後ケア施設を訪問(医療情報学科、学生8名/教員2名) ・3月にオーストラリアのグリフィス大学研修(医療情報学科、学生6名/教員1名) (干薬事務部) 「世界の医療ケアを知ってみよう!」リレー講演会(3回)の参加推奨を行った。 「バングラデシュの医療・ 介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。 中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。 (和歌山事務部)・学術交流協定を締結しているナムディン大学の卒業生で医療従事者2名(ベトナム人介護士)と学部生5名、大学院生1名が参加し交流会を開催した。 ・オーストラリア海外研修には、学生4名、引率教員1名が参加した。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○ 医療保健学部 意識学科 【計画56-1】 ⑦ 開画56-1】 ⑦ 開画56-1】 ⑦ 開頭達成のための方策」 1. 令和5年まで年間9回(大学体育館5回、八潮4回)の健康づくり事業を継続実施する。 「計画達成の社会、書籍の統合、実習において、地域の子育支援事業に参加する。 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。 「評価指標」 ・ 当、地域で呼びかける。 「評価指標」 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		1. 健康づくり事業をコロナ禍でも継続できるよう、開催方法をオンラインへ、実施回数を5回(2会場合同)へ変更し、また実施内容に対した。ので学生によるミニ健康講座)を取り入れるなど数ご名に入るなど数であった。一方で、オンライン院の健康、大型名のいてから実施、学生はオンライン院の健康、生活状況についてからられ、この関わりを通してきた。一方で、オンライン院側値のため参加できなからりにさらないできた。一方で、オンライン院側値のため参加できなからりにさらないできた。一方で、オンライン院側値のため参加できなからりにさらないできた。一方で、オンライン院側でから数ではできた。とは多様を実現することが課題である。2、「NPO法人ふれあいの家 おばちゃんち」につこり、「業を分れた後、学生(20名)は2~3名に分かれ「にじっこ」、「事業しなが参加にた。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じながかれてにおける子育で支援事じていて、学生でもなが、保護者との交流を通じた。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じた。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じた。オがオランティアについて、東五反田ファーム・エイド(東五反田倶楽部・NTI関東病院地域およ子育ンティアについて、学生名がボランティアにかい、中東五反田ファーム・エイド(東五反田県楽部・NTI関東病院地域・東五反田ファーム・エイド(東五反田県楽部・NTI関東病院地域・東五反田ファーム・エイド(東五反田県楽部・113年前に対策を等と連携)に、学生ボランティア19名、教員2名参加・部活動28所属)がを東京都認定資格「東京都エイズ・ジード・ボートを行った。・品川区との締結において、健康大学しながわ、運営・評価、震災・品川区との締第一地域センターにおいて、健康大学において、最近に対して講師を務めた。、中、当時において、最近に対している。第2年年の生活科授業において、品川区内芸術医院院講師を務めた。28代会メンバーも参加した。、研修会運営、研修会運営、研修会運営、研修会運営、研修会運営、研修会運営、研修会運営、研修全では、日本により、日本	館5回)の健康づくり事業を継続実施する。 2. 看護の統合実習において、地域の子育で支援事業に参加する 3. 地域ボランテッドについて、学生に参加を明からる。 4. 地域健康づくり研究・教育センターを設立し活動を開始する。 「・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実能継続(年5回・五反田体育館)・地域の子育て支援事業との協働(実習を通して)の継続(年19名の学生実習)	IV IV	1. 健康づくり事業を前年度のオンラインから対面形式へ、また事業全体(準備、実施内容、終了まで)を学生がグループで分担して計画立案・実施するよう変更して実施した。対面形式での実施は3年ぶりであったため、開催場所を大学体育館のみとして計ら回行った。参加者は30~90歳代の延べ116名(実人数39名)であった。学生は参加者も30~90歳代の延べ116名(実人数39名)であった。学生は参加者と積極的に交流域では15名を持ちて、地域で自分らしく暮らすためにで学生として、看護としてできることについて考える機会となった。2、「NPO法人ふれあいの家 おばちゃんち」についての講義を受けた後、学生(19名)は2~3名に分かれ「にじっご」、「北浜こども冒険ひろば」等の子育で支援事業へ参加した。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じて地域における子育で支援の実際を学んだ。3、地域ボランティアの学生募集については、次のとおり参加している。・東五反田地域 あいおい夏祭り 15名・若年性認知能当事者就労支援ジャムづくりの話し合い 2名・オイズ手の音を指数が表が表があるのみらい ファーム・エイド東五 医田 12名・オレンジフェスタ(品川区認知症啓蒙活動)19名・第 5 回名・オレンジフェスタ(品川区認知症啓蒙活動)19名・第 1 5 回名・オレンジフェスタ(品川区認知症啓蒙活動)19名・第 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画56-2】⑦ 日本バングラデシュ友好病院(JBFH) 及び日本バングラデシュ友好看護師養 成学校(JBFNI)における指導者層を対 象とする研修を実施する。									
「計画達成のための方策」 日本バングラデシュ友好病院(JBFH) 及び日本バングラデシュ友好看護師養 成学校(JBFNI)における指導者層を対 象をする研修について、当初の計画を 見直し現実可能な方策を検討し、令和5 年度に現地スタッフに対する研修を何		1. コロナ禍によりバングラデシュとの往来が制限され、本プロジェクトはほぼ活動できていない状況である。令和5年3月現在、ダッカでの高齢者介護施設は建築中で、4月から日本語学校が開校する。 2. 研修方法に関する検討は実施できなかった。 3. 資金に関する情報収集として、「今和5年度医療技術等国際展開推進事業公募説明会」のオンデマンド配信を視聴した。パングラデ	【年度計画56-2】 1. 実施可能な方法の検討。	I	1. ダッカの高齢者介護施設の責任者が9月に来日し、その講演会に参加した。資金および実習受け入れ先の見通した立たず、研修計画の立案は断念した。 本計画は2023年度までとしており、今年度で活動を終了する。				
らかの形で実施する。 「 評価指標」 ・研修の実施状況		シュは事業対象国リストに入っておらず、加点されないことが確認 できたため、他の資金源を検討する必要があることがわかった。 ・研修は実施できておらず、達成状況は著しく低いが、渡航制限の 緩和による状況の改善に伴い、活動の再開を検討したい。	「 評価指標」 ・研修計画の立案						
【計画56-3】(令和5年度より新規) 全国・東京都・品川区等の各自治体や 地域組織・住民と連携協働し、保健・ 健康づくりに関連する地域貢献活張健・ 健康づくりに関する研究・教育の拠点 となることを目指す。									
「計画達成のための方策」 地域健康がくり研究・教育センターを立ち上げ始動する。 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川医とので生派遣。 ・品川医大崎・地域おり、全の学生派遣。 ・品川が、一地域が、イン・ので生活。 ・品川が、一地域が、大崎・地域・一地域・大崎・地域・一地域・大崎・地域・一地域・大学の、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一			【年度計画56-3】地域健康づ動では、教育センターを立ち上げ始動では、対する。1. 品川区との連携、健康大学しながわにおける運営・評価・イベントの学域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地	IV	・品川区や地域と連携を組み活動したり、東京都、エイズ予防財団や日本性感染症学会など広く外部組織とも関係を持ちながら保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を行った。 1.品川区との連携 (1) 健康大学しながわ(品川区事業)・地域健康づくり活動がループ支援運営委託 運営会議・連絡協議会 4回/年実施(2)品川区図書館からの依頼東京医療保健大学×程原図書館連携事業 講演会実施 阿部先生(3)品川区総発部総務課 平和・国際担当連携(4)品川区の書館からの依頼東京医療保健大学×程原図書館連携事業 講演会実施 阿部先生(3)品川区総発部総務課 平和・国際担当連携(4)品川区の豊富館からの依頼東京医療保健大学×程原図書館連携事業 講演会実施 「コロナ禍でもできる地域の絆づくり~まちで楽しく過ごすためのマナー・防災かるたづくり」渡會 の中金融返回実施(5)品川区立第三日野小学校との連携(生活科ボランティア等)大学見学ソアーの実施 打合せ等2回実施(5)品川区立ジフェスタ(品川区認知症啓蒙活動)学生19名参加2.品川区の地域との連携(1)東五反田俱楽部・NT「関東病院地域連携室等第5回かと!つながるみんなのみらいファーム・エイド事前打ち合わせ6回参加(学生1名・教員1名)当日の学生12名参加・東五反田母、総かしているがるみんなのみらいファーム・エイド事前打ち合わせ6回参加(学生1名・教員1名)当日の学生12名参加・東五反田田保楽部ジャムづくり学生2名・教員2名参加(2)八潮地区総合防災訓練 学生7名・教員1名参加(3)品川で性教育を考える会 研修会5回参加、うち講師1回実施				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
	n			77	3. その他活動 (1) エイズ予防財団主催 エイズデー渋谷街頭キャンペーン 学生6名・教員1名参加 (2) 日本性感染症学会 シンポジスト登壇 学会スタッフ 学生26名・教員2名参加3. 東京都委託事業への学生・教員協力 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業・青少年施設(中高生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓 発拠点ふお・・ていー」事業 40回/年実施・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 80回/年実施・岩者が集う「AIDSフェスティバル」事業 12/9豊島区中池袋公園にて実施 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業の実施 2回/月			77	
「評価指標」・健康大学しながわ評価表の作成 2回/年 ・品川区大崎第一地域センター 連携 3回/年以上・品川区立第三日野小学校との連携 3 回/年以上・東五反田ファーム・エイド 会議年6 回 実施1回/年以上 ・住民ともに活動する保健師の会年間事業への学生・教員協力青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館30回/年、ま者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/2ヶ月			「野価推復」 ・健康大学しながわ評価表の作成 2回 /年 ・品川区大崎第一地域センター 連携 3回/年以上 ・品川区立第三日野小学校との連携 3 回/年以上 ・東五反田ファーム・エイド 会議年6 回 実施回レ/年以上 ・住民とともに活動する保健師の会 年間事業への学生・教員協力 青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館 30回/年、著者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/ 2ヶ月						
【計画57-1] ** 地域の社会課題を解決するため、積極的に社会貢献活動を推進する。 「計画達成のための方策」 教員と学生が共同し、大学近郊でボランティア活動を行う。 「評価権関」・実施テーマ数:6件/年	IV	1. 自主的な料理教室8回に学生が参加し、24 名の学生が体験した。高齢期の男性との協働作業とコミュニケーションにより、学生と住民の交流により多くの学びを得ることができた。 2. 世田谷区民を対象とした、自主的な男の料理教室の参加者を対象にコロナ禍の食生活に関するアンケートを取った。4グループ(約50人)。 アンケート調査結果については検証中である。 ・医療栄養学科では本計画以外にも同様の社会貢献活動を複数実施している。そこで、次年度から、本計画を「地域への社会貢献活動の推進」に発展させ、本活動も他の社会貢献活動と共に、その中で進めていく。		IV	・今年度は10件の社会貢献活動に2年生から4年生の学生、延べ88名が参加した。引き続き、継続して実施する予定である。 ①学習支援等学校でのボランティア活動: 2023年4月から10月 ②玉村圃場と連携した野沢こども園での米作りと食育: 2023年5月から11月実施 ③スポーツコミュニティよこすか 健康増進イベント: 2023年4月29日、5月3日、10月9日実施 (4)せたがや福祉区民学会第15回大会でのボランティア活動: 2023年11月11日実施 ⑤テアコム農園祭: 2023年6月4日、11月12日実施 ⑥三宿小学校 体験学習: 2023年6月10日実施 ⑦世田谷区きたざわまつり 栄養相談ブース: 2023年10月22日実施 ②第3回世田谷教育総合センターメッセ 体験学習: 2023年12月16日 実施 ⑨ドナルドマクドナルドハウス せたがやハウス ミールプログラム: 2024年3月7日実施 ⑩世田谷区男の料理教室支援: 2024年3月21日予定				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
計画57-2】 計画57-2】 計画57-2】 本バングラデシュ友好病院(JBFH) が日本バングラデシュ友好病院(JBFH) が日本バングラデシュ友指導者層を対 とする研修を実施する。 計画連成のための方策」 本バングラデシュ友好病院(JBFH) が日本バングラデシュ友は有院信護師を対 とする研修について、強初の計画画を をは、JBFNI)におけて、当初し、令和5 は、JBFNI)で対する指導者計画をを をは、JBFNI)におけて、当初し、令和5 をし、現地スタッフに対する研修を何		・コロナ禍のため2020年以来、バングラデシュとの往来が制限され、バングラデシュからの介護士の受け入れが激減し、WGの活動はほとんど停止している。現在、ダッカでの高齢者介護施設は建築中で、4月から日本語学校が開校する。またバングラデシュからの介護士、看護補助者の受け入れも増えるので、WGの活動も再開される予定である。			・2023年7月初めにバングラデシュを訪問し、日本とバングラデシュの高齢者介護施設の現状と課題および展望について意見を交換した。また、ダッカの日本語学校での授業を見学し、日本への派遣介護士の養成状況を視察した。さらに、ダッカ郊外の介護施設建築現場を訪問・視察した。				
かの形で実施する。 怦価指標」 研修の実施状況			「 評価指標」 ・研修の実施状況		理事長ナイ― 公先生を当大学に招聘し、パングラデシュの医療事情・介護施設の現況および将来について、当大学で講演していただいた。・今後は日本へ受け入れるパングラデシュからの看護補助者、介護士に対する教育・支援を検討していく。				
区療保健学部医療情報学科 計 画53]⑦ 103年度に締結した本学医療情報学科 秀傳医療グループとの協定にもとづ . 協働でAloTの医療応用に関する国 輸文の掲載又は知財権の取得を行 . その成果を学生にも還元する。									
計画達成のための方策」 学医療情報学科と秀傳医療グループ 防療にもとづき、協働でAloTの医 応用に関する国際協文の掲載又は知 権の取得を行い、その成果を学生に 還元する。		・産業DX補助事業の一環として秀傳医療グループの劉副院長(五反田)、台北医学大学の王副看護部長(オンライン)にご講義いただき、医療保健学部3学科から103名の学生が受講した。また、劉副院長のご講義は計画15-1の書籍にも収載した。また、3月20~22日の3日間、他学科等を含め4名の学生が台中市の劉傳医療グループの病院・施設を訪問した。今後も交流を継続していきたい。	の状況により、(感染が一段落している場合は)日台のいずれかが訪問して対面勉強会を行い、(感染が続いている場合は)公開形式のオンラインシン		・アウトバウンドについては、単位科目として「インターシップ (海外型)」を設定し、学生5名が履修した。また「医療情報ゼミ II」の一環として、学生7名が訪問し、台湾医療保健AloT協会から学 生奨励賞を受賞した。 ・インパウンドについては研修受け入れはないものの、総合研究所 とも連携してホームケア支援システムの共同開発を行い、その打ち 合わせのため台湾側技術者2名の受け入れを複数回行った。				
評価指標」 毎外における短期研修の訪問件数・ 如者数:3件、6名 毎外からの短期研修等の受入件数・			「評価指標」 ・海外における短期研修の訪問件数・ 参加者数:3件、6名 ・海外からの短期研修等の受入件数・		・その他、本学科教員、他学科教員及び客員教員(NTT東日本関東病院職員)の計3名が、日本医療情報学会内の活動として本学提携先病院を訪問し、合同研究会を開催した。交流機会を大幅に拡大した成果は、2024年度に同学会を通じて書発として取りまとめる予定であ				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○東が丘看護学部 【計画59-1】⑦ 「計画250-1】⑦ 「計画速度との共催で実施しているひがしが丘保健室の年間の総来場者数を増加させる。 「計画速成のための方策」 ・ひがしが丘保健室の開催。 ・ひがしが丘保健室の関催。 「評価指標」「保健室の開催。 「評価指標」「保健室の年1回開催・ひがしが丘保健室の年1回開催・ひがしが丘保健室の第1の発行。 ・ひがしが丘保健室の年1回開催・ひがしが丘保健室の第1の発行・出張型ひがしが丘保健室の第2回開催・出張型ひがしが丘保健室の今2回開催・ンがしが上の保健室のの第2回開催・コーナーの満足度の平均:95.0%	ш	1. 令和4年度5月に地域住民に対し、本学院生がひがしが丘保健室便りを200部件成、発送を行った。目黒区民114部、世田谷区民56部、その他30部であった。今回の便りは認知症予防・認知機能の向上がテーマであった。内容について、「良い」または「大変良い」を合わせた回答が約84%であった。今回の便りは認知症を取り入れ、90%の人が今後も動画コンテンツを希望するなど、高評価であった一方で、0駅コードを読み込むかった人が40%いたなど課題も見えたため、動画視聴の仕方を励めのアンケートの回収率は13%と低く、切手代が回答すの負担となっていることを自由のつかりと考えられ、こちらについがしが丘保健室の開催が実現し、ひがしが丘保健室の開発行回数が減少した。 2. 院生が主体となって目黒区の地域における自立支援可時に育さな必要がある。中が便りの発行回数が減少した。2. 院生が主体となって目黒区の地域における自立支援可時に育さイベント「マルチタスクトレーニング」による認知定予防の健康教育を企画・実施した。住民からは笑顔も見られ、和やかな雰囲気となり「アンコール」の同意を預めた。コロナの影響もあり、今後も大【計画節9-3】、全様な保健室の開催は難しい可能性が高いため、【計画等9-2】、そ行い、地域住民に認知していただけるように努めたい。小規模出張型の保健室の評価指標が曖昧であったため、今後は可能であればアンケートなどを取って評価していきたい。	「評価指標」 ・ひがしが丘保健室の大学での開催 ・ひがしが丘保健室来場者の参加した	ш	1. 令和5年7月、公衆衛生看護コースM2院生がひがしが丘保健室便りを発行し、地域住民に201部送付した。目黒区内の施設や老人会での配布が可能であったため、遺加で区内施設に93部配布した。大学中に掲載され昨年度より、自知の阿都が広がった。また、昨年度、アンケート回収率の低さから返送時の切手代が回答者の負担となって金後納郵便を使用したものの、回収率は13%(R4)→16%(R5)と微小な変化であった。発行回数としては1回と少なかったが、Covid-19が5費感染症に移行された後で感染症門家へのインタビューもとの意見があった。アンケート回答者は女性の引かりやすいなどの意見があった。アンケート回答者は女性の引かが5%と少し高から見があった。アンケート回答者は女性の引かが5%と少し高から見があった。アンケート回答者は女性の計算が表現であった。回答者がらも具体的でわかりやすいなが意との意とがあった。アンケート回答者は女性の分が5%と少し高かは一切があった。の内容について「よい」、または「大変良い」が、96.8%がおを側の内容について「よい」、または「大変良い」が、96.8%がお使りの内容について「よい」、または「大変良い」を回答していた。一方で、アブリのダウンロード方法を紙面に載せるなどしても高齢者には右の対していというに対した「ダレラなどは「全解すの情報提供方法の工夫が必ずを表現している。と今和5年9月13日(水)午後には、地域住民が21名参加した「支がらい・いばばた会議」と、2回に及び公衆衛生看護コースの手遊で生がいる。と、2回に及び会衛生看護コースの手遊で生がいる。関連と引きいとの実施とつい。参加者は長いを実施した。日景を記していきなった。次回以降は感想を見なとも動力の表見を大切にして自然な形で評価しくの必要に対しているとなりないまた。			, n	

	第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
	【計画59-2】 かいます は できます できます できます できます できます できます できます できません こう できません できま	IV	の抑うつおよび悩みを軽減することができた。また、その実践報告	を継続する。 2. まちの助産室: 妊娠期パパママクラスの実施を継続する。 3. まちの助産室: 産後クラスの実施を		1~4・全国の自治体の母子に対して、1回1時間のオンライン母子支援プログラムとして、まちの助産室を企画運営した。内容はベビーマッサージ、童歌、母乳相談、育児相談、座談会を行った。開催数はお回であり参加者数は4組84名(うち双子2組)であった。今年度もいて育児中の母親の抑うつおよび悩みを軽減することができた。学郎生および大学院生が見学し、地域貢献、助産ケアを学ぶ教育機会となった。・妊娠期のパパママ教室の代わりに、プレコンセプションケアを大学に対して実施した。若い世代の女性とパートナーのためのヘルスケアの教育機会となった。・昨年までの実践報告をJapanese Journal of Mursing and Health Sciencesおよび打ト 26th East Asian Forum of Mursing Scholars Conferenceで公表した。自治体との連携として碑文谷保健センターの募集協力を得ることができた。後名病院の産科病棟および産科外来での募集のたい臨床のスタッフとも連携ができている。産後支援が必要な母親に対して、産後1か月健診で、まちの助産室参加の案内が行われた。				
:	「評価推復」 ・中学生に対する思春期性教育の実施 状況 ・まちの助産室:妊娠期パパママクラ スの実施状況 ・まちの助産室:産後クラスの実施状況 ・関連学会での活動の公表状況 ・自治体との連携状況			「評価指揮」 ・中学生に対する思春期性教育の実施 状況 ・まちの助産室:妊娠期パパママクラスの実施状況 ・まちの助産室:産後クラスの実施状況 ・まちの助産室:産後クラスの実施状況 ・自治体との連携状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画59-3】 ⑦ 大学の国際化を進め地域の国際化に寄する。 「計画連成のための方策」 学生・教員に係る海外派遣・海外研 多等を実施する。 海外からの留学生・研演会を積極的に 推進する。 ・海外の音護系大学と学術交流を推進 する。		1~4、選択科目国際看護学Ⅱの授業展開を初めて実施した。英語 TOEICを受けた学生から選択。自調自者の精神を発揮し、全てシラバスにある目標を達成するために2人から3人のグループを作り、日本にある国際機関刻調査、施設訪問し、現在の日本に於いてよりり戻る人外国人に支援・対応するためにどう関われば良いか。自分達の課題を問い直し目標化する。クラスで発表し討議して纏める。・学生は町の中で知らない外国人へ自分達が作成した英語の質問肢に基づき、働きかけをし、調査を実施纏めた。・海外かの高学生、研究生はコロナ禍で期間的に難しかった。・海外の講師活用に付いては大学院NPコースに於いて、ズームによるクラス全体の講義を聞いた。	が円滑に参加できるよう支援する。 3. 海外からの講師の招特による講演会 はFD委員会等と連携し開催する。 4. オンライン海外研修の評価の学会公 表により、多文化共存の研鑽に役立て る。	IV	・東が丘看護学部では、3年前から入学生に全員TOEICを受けて頂き、年間2回実施し、2回目以降は自主的に受験している。更に昨年別にも外国人之人による学生ホールでの「イングリッシュカフェ」をやから外国人2人による学生ホールでの「イングリッシュカフェ」をやかに活気あぶれている状況となっている。勿論英語カも向上し、令和5年度全学国際交流委員会主催のオーストラリア研修には学部生は5名と教員1名が参加した。・ハワイでNPとして働いている非常勤講師により、学部性生療制度の特徴などの講義を受け学生達は高い関心を示した。米国の保健生療制度の特徴などの講過でいる非常勤講師により、学部性生療制度の特徴などの講覧した学部は、「国境なき医師団」の事務制度等に関呼」を選択した学部といる。日本と異なる医療制度が高まりた。学出のよりでは、「国境なき医師団」の事務・国際看場では、「国境なき医師団」の事務・国際看場では、「国境なき医師団」の事務・団にコンタクトを取り、ポシアへの支援の主要を確認できた。話を同じ、中間以上でも関係者がの一般でいる。またが最近にない、中間は生きでは、「国境なきとを認てきた。話を個観の多様性を重視することの必要性を認定さどの病院長先生のい、一時間は生き重視することの必要性を認能した。一時間は生きにあると、一次の特別では、大学院生活を価値の多様性を含む、は、国立成発をし、大学院を持てい、近くの子供たちを制にまると、に、世界の子供たちをあめに、よりによりでは、まないの子供たちを動にまるために、よりによりでは、まないの子供たちを動にまる支急にき、手術の子供たちのの出現し、存成を行い、近の事務に差しましていると聴いますに、世界中に手術方法を聴き、手術の子供たちののといまない。または、大学院生まに、世界中に手術方法を聴き、大学院生まに国際的に活きましていると聴います。	л n		N .	
「評価指標」 ・学生・教員に係る海外派遣・海外研 を等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入 ・、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況			「評価指標」 ・学生・教員に係る海外派遣・海外研 修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入 れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○立川看護学部 【計画60】⑦ 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保する。									
「計画速成のための方策」 国際交流研修の申し込み人数を一定数 確保するため、学年担任や全学生に対 して積極的にPRを進めていくととも に、参加した学生の研修結果をメール 配信するなど、学生が興味関心を ような情報提供や研修参加者の声を伝 えていく。	t	・オーストラリア研修への参加は、4年生1名だけであったが、ハワイ研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は13名(3年11名、1年2名)であった。		IV	9月のオーストラリア研修に1年生2名 12月の中国研修に2年生1名 3月のオーストラリア研修に2年生5名、3年生6名の11名 年間で14名の参加者がおり、参加者の満足度は高かったようであ る。				
「評価指揮」 ・国際交流研修の申し込み状況			「評価指標」 ・国際交流研修の申し込み状況						
○千葉看護学部・看護学研究科 【計画61-1】⑦ 地域との協働・共生に関する理解を深める。									
「計画達成のための方策」 1. 千葉看護学部における『地域連携・ 共生に関する活動方針』を作成し、活動方針に基づく活動が行われているか を評価する。	i	1. 『地域連携・共生に関する活動方針』の作成検討委員会で活動方針を検討する。(偶数月に会議を開催する) → 6月に1回開催 (WGメンバー全員4名が参加) したが、それ以降は開催できなかった。	【年度計画61-1】 1. 『地域連携・共生に関する活動方 計』作成委員会を設置しFD委員会と共 同し地域連携活動の将来像を考える会 を開催するともに、地域交流イベント において参加者から情報を収集する。		1. 学部FD活動の一環として定期FD報告会において意見交換を行ったが、『地域連携・共生に関する活動方針』作成委員会を設置するには至っていない。地域交流イベントにおいては、参加者を対象とした意見収集を実施した。次年度はワーキンググループを設置し、今年度に収集した意見から焦点化をはかり、中期的な計画を立案する予定とする。				
[評価指標] ・検討会開催回数(3回/年)、検討会 参加人数(5人/回)、活動評価結果(1 回/年)	:		[評価指標] ・検討会開催回数(2回/年)、検討会 参加人数(5人/回)、活動評価(1回/ 年)						
2. 学生が地域との協働・共生を学ぶ環境を支援する。	III	2. 社会福祉協議会で実施しているボランティア活動の情報収集と情報提供を行った(1回)。	12. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業やボランティア案内などの情報提供を行う。	Ш	2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業 について、「ふなばし夏のボランティア」の案内を5月に、「マナ フェス」ボランティア案内を10月の計2回実掲示した。各活動の参 加実績は把握していない				
【 評価指標】 ・ボランティア等の活動に関する情報 提供回数 (4回/年) 、各活動の参加人 数 (5人/回) 、活動評価 (1回/年)			【評価指標】 ・ボランティア等の活動に関する情報 提供回数(4回/年)、各活動の参加人 数(5人/回)、活動評価(1回/年)						
3. 地域貢献及び地域に本学を理解してもらうために地域交流イベントを開催する。	IV	3a. 第2回地域交流イベントを11月29日に実施し164名の来場者及び79名の学生、10名の入学予定者、教職員43名の参加があった。参加者の満足度(みなさんの声を聞かせてください、公開講座1&2)では70%以上の満足と回答していた。35. 船橋市球珠白治会(社協メンバー含む)の高齢者向け活動への支援を申し入れ、話し合いを行った。(老年・在宅)	市の地域住民・行政・保健福祉機関等	IV	3。a-1) 11月5日 ふなばし健康まつりに学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。参加人数は教職員9名、学生32名でした。 - a-2) 地域交流イベント2023を3月24日に開催し254名の参加者があった。 - b-1) 船橋市まつりへの参加、および地域交流イベントの広報活動により船橋市は域包括ケア推進課、保健福祉課、船橋市社会組織議会、船橋市段生児童委員協議などと顔の見える関係構築ができた。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
[評価指標] ・地域交流イベント参加人数(10人)、参加学生数(100人)、参加教数(20人)、参加者の満足度(満足)	Į		[評価指標] ・地域交流イベント参加人数 (100 人)、参加学生数 (100人)、参加教員 数 (20人)、参加者の満足度 (満足度 70%以上)						
4. 学部及び教員が地域のリソースとして活用される仕組みを整え、活用が促進される。	IV	4.8月の定期FD研修において、「THOUCによる地域貢献活動について 考える」というテーマで意見交換を行った。その際、教育機関とし て大学の場の活用だけでなく、教員が活用される仕組みについて今 後、 検討していくのが良いとの意見交換などがなされた。 ・高校から依頼の模擬授業を9校で実施した。熱心に参加する生徒 が多かった。	り、教員がリソースとして地域で活用	Ш	4 a. 教員がリソースとして活用される仕組みについては、令和4年度、5年度ともに仕組みとしての検討を行うことができなかった。ただし、領域や教員個々の活動として地域のリソースとして多くの活用がされた。次年度はこの実績が大学ビジョンに向かって発展できるよう「仕組み」化について検討することが課題である。b. 高校からの模擬授業の依頼(件および高校からの依頼による大学見学を2件実施した。いずれも参加者の満足度は高かった。				
「評価指標」 ・高校からの模擬授業等の依頼件数 件以上/年)、地域からの講師依頼件 (1件/年)、JOHOや関連施設からの 師依頼件数(1件/年)、勉強会等の 施回数(1回/年)、各参加者の満足 (70%以上)	構 実		「評価指標] ・高校からの模擬授業等の依頼件数 (3 件以上/年)、地域からの講師依頼件数 (1件/年)、JCHOや関連施設からの講 師依頼件数 (1件/年)、勉強会等の実 施回数 (1回/年)、各参加者の満足度 (70%以上)						
【計画61-2】 ⑦ 学際的な共同研究や海外研修等を促し、成果を発表する。	焦								
「計画連成のための方策」 1. 複数領域、学外者及び学際的な共研究への参加を促進し、成果を発表 る。 【 評価指標】 ・複数領域、学外者及び学際的な共研究件数、発表件数	†	1. 活動報告会において情報共有をしたが、部分的な情報共有となった。別途、アンケートを実施し、その結果を情報共有していく。・複数領域の共同研究:課題件数0件、発表0件・学外者との共同研究:課題件数33件、発表7件・学際的な共同研究:課題件数4件、発表4件	【年度計画61-2】 1. 年度末の学部活動報告会等で情報共有を行う。 【評価指標】・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数	ш	1. 学部活動報告会を実施し、ポスター展示を通じて研究・学内外活動について総合的に情報共有した。 ・複数領域の共同研究:課題件数8件、発表5件・学外者との共同研究:課題件数36件、発表20件・学際的な共同研究:課題件数10件、発表4件				
2. 海外研修や学外研修への参加を促進し、その成果について共有する。	ш	ン留学を実施し、学生参加を積極的に推奨し、情報発信を行った。 加えて、「世界の医療ケアを知ってみよう!」との企画のもと、リ	ントや単発の研修会等の情報発信を行 う。	Ш	2.a. 本学主催の海外研修の参加を推奨し、9月と3月のオーストラリアグリフィス大学の準備・運営を以下の通り、行った。・9月:オンライン研修の募集、事前準備・研修中のサポート、千葉学生2名、教員3名で支援・3月:現地研修の募集、事前準備のサポート、教員による現地引率、干薬学生10名、引率教員1名、支援教員2名「世界の医療ケアを知ってみよう!」リレー講演会(3回)の参加推奨を行った。「バングラデシュの医療・介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。b. 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。				
[評価指標] ・研修参加者(教員1名以上/各回海研修)、研修内容とその評価(参加 員数/FD報告会)、成果共有による評価	ý 文		[評価指標] ・研修参加者(教員1名以上/各回海外研修)、研修内容とその評価(参加教 員数/FD報告会)、成果共有による評価						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画61-3】 干業看護学研究科として住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 「計画連成のための方策」 地域交流イベントにおいて、学生を主体とする企画を実施し、主としてのニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 【評価指標】 専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数		・地域交流イベントにおいて学生を主体とする発表を行った : 1回 ・本発表を実践報告として次年度(令和5年度)紀要ならびにJCHO 学会に発表予定である。	【年度計画61-3】 専門職からなる情報交換の会を継続 し、ニーズの把握とともに活動成果を 検討する。 成果を活動報告として紀要等に発表す る。 【 評価指標 】 専門職からなる情報交換会の開催数、 活動報告発表数	ш	・3月24日に開催された地域交流イベントにおいて、研究科学生による演習成果発表会を行った。成果の一部をJCHO学会において発表した。令和6年度は、それまでの活動を令和7年度紀要に発表することをめざして成果の整理を行う予定とする。				
【計画61-4】 ⑦ 干薬看護学研究科の教職員の教育力を開発する。 「計画連成のための方策」 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、文文化共存を視野に入れた研究指導を含めた教育力、大学院での活動を実施することで、その向上を図る。 【評価指揮】 大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の関	П	・和歌山看護学研究科との共催で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」と題して大学院FD研修会を行った。 千葉看護学研究科教員21人、事務職員1人の参加があった。 ・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。 ・令和5年度は、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会に取り組んでいく。		I	・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。 ・研究科FDとして、多文化共存についての勉強会は実施しなかった。令和6年度は、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会に取り組んでいく。特に、必修科目「ヘルス・グローカリゼーション」を生かした研究科FDを検討する。				
○和歌山看護学部・看護学研究科 【計画62-1】⑦ 臨地実習での多機種に進、多職種を図るととはできる。 の促進を図るとともの方策」 1. 学内教育を加によりチェークは臨地からの意識を事業のための方策」 1. 学内教育を加によいは臨地からの意識を多職種連携の体験する機会ををのくる。 2. 多職種・他大学学生とチーム医療・他職種連携の体験を共有する機会をといる。 【評価機工》 「評価機工》 「記職大学との連携状況、演習での実施状況、演習での実施状況	п	・コンソーシアム和歌山からの各種フォーラムや合同研修、タウンミーティングなどの情報を得た。講義・演習ではゲストスピーカーとして多職種の参加を得て実施し、実習においても目標として掲げ、臨地において体験している。・ 公開講座を和歌山市と共催で実施し、学生ボランティアの参加を経て他職種とともに地域貢献している。 キると増やすための呼びかけを行うほか、他のか等の活動とコラボできるよう検討したい。共同プロジェクト事業に1件が採択され活動としている。講義・演習・実習で記むいて各種を増生がある。和歌山市と共催し、公開講座を実施した。	習計画に反映し、実施する。 2. 近隣大学との教育連携を呼びかける。 3. 可能な領域でチーム医療・多職種連携に関する体験の機会を設ける。 [評価指揮] ・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実置での体験状況、演習での実	ш	1. 幅広い次週施設で多職種連携を経験しており、実習施設と本学部が共通する多くの研修の機会を持っている。 2. 研修の呼びかけは積極的には実施できなかったが研修や発表会への参加はできた。 3. 1月に行われた精神看護学シンポジウムについては、一般の参加者含め140名を越え、大変好評であった。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画62-2】 か 地域の教育機関、保健医療福祉施設、自治体等との共同体制の下、医療・福祉・保健面における社会貢献を積極的に推進する。 「計画速成のための方策」 「計画速成のための方策」 「計画速成のための方策」 ・	IV	1. 情報発信するためのニーズ調査を行った。学内の様子など情報発信についてはインスタグラムやホームページを用いて発信し続けている。 2. Zoomのほかにも複数のコミュニケーションツールの紹介をしている。 3. 令和4年度の学生の共同研究には応募がなかったが、共同プロジェクト研究に応募した。 ・情報発信ツールについては、高校生はインスタグラム、高齢者はFacebookやチラシから情報を得ていることがわかった。さらにネットワークを拡大して本学の魅力を発信していく。共同プロジェクト研究に1件が採択された。	2. ICTを活用した会議の効果的な活用を 行う。 3. コンソーシアム和歌山の教員及び学 生の共同研究に応募し、1件以上採択を 得る。 4. 県看護協会の委員会活動、研修会講 師等で積極的に支援する。		1. SMSを用いた情報発信に重点を置き、事務部が中心となり、教職員 で連携し活動を展開した。 2. ICT活用は各種のツールの活用が進んでいる。 3. 教員共同研究に複数応募し1件が採択された。 ・コンソーシアムにおいて採択され教員の近隣大学との共同研究が 採択された。学生共同研究は応募できなかった。				
○助産学専攻科 【計画63】⑦ キャンパス教育環境向上ブロジェクトを推進する。 「計画建成のための方策」 1. 学生が地域貢献できる学修環境の実現。 2. 連携・共生の在り方を学ぶ。 3. 大学キャンパス内の心域活動のの意味が大空目指し整備する。 4. 医療機関にはできない訪問型のきめ細やかななサービスの提供、地域体制のに乗変を整える。 「評価指模」 ・地域模子支援の助産師活動への参加機会の確保 2~3回/年		事業継続のため、地域のニーズに応えることのできる継続従事者となる人材育成を育成する。 1. 訪問型は、報酬が6000円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000円の追加を実施している。 2. 日帰り型は不テルで実施しているが、従事する助産師1人での対応となる。そのため、事故防止のため、開始前後の事務への連絡を対象者の前で実施すること、乳幼児突然死予防のため、アブネアマットセンサーを導入し、従事者が働く場の安全の仮と心の安定を維持を図っている。 3. 日帰り型はこれまでホテルでの運営としてきたが、通所型として、外来機能などへの拡大を検討して、ホテルド部屋で1人/日としてきたが、保健センター内での診療スペースを確保して頂き、そちらで2人/日として、診療する対象者数を2人とする予定としている。。	1. 活動の広報: 学会や市民請座・交流 集会などでの広報活動を行う。 3. 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話 相談の検討と通所型、外来機能などへ の拡大を検討する。 「評価指標」 ・地域母子支援の助産師活動への参加 機会の確保 2~3回/年	IV	年度計画1~3を通して下記の学びに繋がった。 活動範囲が拡大し、いろいろな場で活動や体験することにより、 ・20名全学生が、助産学裏習Vの一環として、産後ケア研究センターの見学実習を体験でき、地域における母子の現状を理解でき、 医療機関にはできない訪問型や日帰り型、電話相談などのきめ細や に触れ、地域母子保健における課題の明確化に繋がった。 ・また助産学実習Vでは、地域の母子を対象とした1~2か月および3 ~4か月の母子養援クラスを企画運営、開催し、母親のメンタルヘルスの支援や児の発達評価など実践し、学生は実際の体験から学ぶと 表に、参加者の満足度も高く、地域の母子に対するケアへの貢献に 繋がった。 ・助産学研究を通して論文作成をし、発表に至れるように行動している。				

	第3期中期計画	評価区	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区	令和5年度計画達成状況	評価区	自己点検・評価委員会	価区	内部質保証推進会議
【和解礎成題る 『和解礎成にで基 『	計画連成のための方策」 欧山県の抱えるローカル化の問題を 決するために「遠隔診療技術の基 を選択科目としたカリキュラム編 を行い、医療情報学科の教授を講師 を行い、医療情報学科の教授を講師授業 の解地医療の問題を解決するための 群知を養成する。		・ガイダンスで当該科目の意義を説明したところ全員が選択した。 ・授業アンケートでは「基本的な専門知識」「新しい考え方や発 想」「発展的な学び」「総合的に満足」の問いに全員が「思う」と 回答した。助産学実習皿「観学級の企画・運営)をハイブリッド で行ったが、方法だけではなく、法律や注意点について理解できた という声を学生から聴けた。	「評価指標」	Ŋ IV	・ガイダンスで意義を説明し、全員が選択した。今年度の授業アンケートは閲覧できなかったが、学生全員が意識して取り組んだものと思われる。	分		分	
聴っています。	計画達成のための方策」	IV	・令和4年度は「「感染制御実践看護学講座」では23名が所定の課程を修了し同数が「感染制御実践看護師」の資格を取得した。 ・「感染制御学企業人支援講座」は2名の企業人が参加し、所定の課程を修了した。	・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は 聴講状況 【年度計画65】 「感染制御実践看護学講座」及び「感 実制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り 継続していく。	ш	・「感染制御実践看護学講座」では募集人数20名に対し45名の申請 者があり、受講試験の結果23名を合格とした。23名は所定の課程を 修了し、「感染制御実践看護師」の資格を取得した。 ・「感染制御学企業人支援講座」については例年どおり募集を行っ たが、応募者がなかった。 ・「感染制御実践看護学講座」「感染制御学企業人支援講座」の需				
[評価指標」 「感染制御実践看護学講座」及び 感染制御学企業人支援講座」の開催 兄及び受講者数			「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び 「感染制御学企業人支援講座」の開催 状況及び受講者数		要数について今後検討していく。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
○度後ケア研究センター 【計画68】の 大学キャンパス内外の地域活動に貢献するとともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備いまするともに、医療機関にはできない動は、一般のきに上一次にも治った対応ができる体制の構築を整える。									
「計画達成のための方策」 1. 産前産後ケア事業(助産師による専門的支援の実施(訪問型)]の推進。 2. 品川区役所や産科医療機関との連携強化事業の強化(情報交換など)を図る。		いために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録		ш	1. 訪問型は、報酬が6000円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000円の追加を実施している。 2. 日帰り型はホテルの閉鎖に伴い、8月からの在原保健センター内での産後ケア室の開設にその実施のため、一時期利用が減少したが、8月以降の正式な開設後は利用者が増加傾向にある。訪問型は増加している。次年度以降の事業拡大に向けて、区との調整や準備を行った。				
「 評価指揮」 - 日帰り型 190件/年→280件/年への増加 - 訪問型 200件/年→280件/年への増 増		「評価指標」実施件数	「 評価指揮」 ・日帰り型 190件/年→280件/年へ の増加 ・訪問型 200件/年→280件/年への 増		「評価指標」実施件数 令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度 - 日 帰 162 228 223 107 - 訪 問 127 194 202 240 - 電話相談 925 367 348 288				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
10. 大学運営・財務 (1) 「大学運営」 【計画67】(企画部) 令和4年度を初年度とする第3期中期目標・計画及び現行「アクションブラン」を着実に推進しつつ、令和9年度を 初年度とする第4期中期目標・計画及び次期「アクションブラン」を計画的に 策定する。	:								
「計画連成のための方策」 第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」を着実に推進しつつ、 第4期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」を策定するための体制 を整備し、計画的に策定作業を進める。		現行「アクションブラン」に基づく取組を含む第3期中期・目標計画の令和4年度計画に係る点検・評価作業を円滑に行うため、令和5年1月11日開催の「内部質保証推進会議」において、「令和4年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価報告書作成要領」を決定し、各部局等において令和4年度内に点検・評価の実施を完了するよう要請した。	ションプラン」を着実に推進する。		・第3期中期目標・計画及び現行「アクションブラン」に係る令和4年度自己点検・評価については、「令和4年度点検・評価無告書として取りまとめた上で、令和5年5月10日開催の内部質保証推進会議・大学経営会議及び5月24日開催の理事会・評議員会において審議・承認された後、令和5年10月20日開催の「外部評価委員会」において、事前に提出いただいた委員からのご意気等に対する回答・対応等を中心に質疑応答を行ったところであり、委員からご指摘いただいた点は次年度の計画等に反映することで、教育研究活動等の継続約な改等等を図ることとした。・特に大きな課題はなく、概ね順調に取組が進んでいることが確認された。				
「評価指揮」 ・第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」の推進状況及び第4期中 期目標・計画及び次期「アクションフラン」の策定作業状況			「 評価指揮」 ・第3期中期目標・計画及び現行「アク ションブラン」の推進状況						
【計画68】(企画部) 本学園のガバナンスの取組について、 社会に対し説明責任を果たすため、ガ バナンス・コードを明示し、その遵守 に取り組むとともに、毎年度適合状況 を点検し、その結果をホームページに おいて公表する。									
「計画連成のための方策」 ガパナンス・コードを明示し、その道 守に取り組むとともに、毎年度適合状 沢を点検し、その結果をホームページ において公表する。	:	・令和4年度ガバナンス・コードについては、令和4年7月15日開催の事務局部長会にて更新作業を依頼後、企画部にて内容の点検等を行い全ての区分で遵守している言確認した。その後「令和4年度私立大学ガバナンス・コード遵守状況報告書」を取りまとめ、10月19日開催の大学経営会議にて承認後、11月9日開催の理事会・評議会とて承認され、11月10日付けで私立大学連型へ同報告書を提出するとともに、同日大学ホームページにて公表した。	況を点検し、その結果をホームページ		・令和5年度ガバナンス・コードについては、令和5年6月26日開催 の事務局部長会にて更新作業を依頼後、企画部にて内容の点検等を 行い全ての区分で遵守している旨確認した。その後「令和5年度私 立大学ガバナンス・コード連守状況報告書」を取りまとめ、10月18 日開催の大学経営会議にて承認後、11月8日開催の理事会・評議 会にて承認され、11月10日付けで私立大学連盟へ同報告書を提出す るとともに、同日大学ホームページにて公表した。				
「 評価指標」 ・ガバナンス・コードの点検及び公表 状況	ŧ		「評価指標」 ・ガバナンス・コードの点検及び公表 状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画69】(総務人事部) 大学経営において重要な政策を策定、 管理する人材の育成や登用を計画的に 推進する。									
「計画連成のための方策」 理事や学長などの大学経営者は、各種セキナー等に参加しるとともに、大学を可なる経営者マインドの醸成を図れているとともに、工事要なが、主要なが、対象値を書いていくなど、人材養成を推進する。		・大学経営を担う理事長・各理事、評議員、監事及び学長に対し、 学内で毎年度開催するFD、SDとなる「東京医療保健大学を語る会」 への参加のほか、文部科学省、私立大学連盟、民間主催の各種セミ ナ一等に積極的に参加いただき、本学を取り巻く各種課題に適切に 対応いただくための経営者マインドの醸成に取り組んでいただい た。 ・また、学長からは、年度当初の各教授会や教員集会等において、 今年度の大学運営方針(組織、課題、目標等)について講話を行っ た。また、そのための資料を作成し、医療保健学部、立川看護 部、東が丘看護学部、千葉看護学部の教員に提供し、大学経営マインドの醸成を図った。	将来を担う幹部候補生に対し、重要な 大学経営業務を担わせるなどにより経 験値を高めていくなど、人材養成を推 進する。		・大学経営を担う理事長・各理事、評議員、監事及び学長に対し、 学内で毎年度開催するFD、SDとなる「東京医療保健大学を語る会」 への参加のほか、文部科学省、私立大学連盟、大学基準協会、民間 主催の各種セミナー等に積極的に参加いただき、本学を取り巻く各 種課題に適切に対応いただくための経営者マインドの醸成に取り組 んでいただいた。 ・また、学長からは、春・秋の各教授会や教員集会等において、今 年度の大学運営方針(組織、課題、目標等)等について講話を行っ た。また、そのための資料を作成し、医療保健学部各学科、東が丘 看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部の各教員 に提供し、大学経営マインドの醸成を図った。				
「評価指標」 ・大学経営者の各種セミナー等の参加 状況及び学長補佐等の登用状況	1		「評価指標」 ・大学経営者の各種セミナー等の参加 状況及び学長補佐等の登用状況						
【計画70】(学長戦略本部) 学長を中心とする大学運営組織を基盤 として、ガパナンス機能を強化する 特に、理事会・評算員会、大学経営会 議、外部評価委員会等の学外委員、有 誠者の意見やニーズを適切に反映する とともに、組織横節かつ柔数な大学 運営を行うための体制整備を行う。									
「計画達成のための方策」 学長を補佐し、大学の重要課題への対応方策の企画と立う、学長戦略本部」を 設置の立ち、学長戦略本部」を 設置の切に配置するとなり、 を通切に配置するとともに、大学学の 要課題である全学的な教学マネ等を システムの改善、DXの推進等を る。		・学長を補佐し、大学の重要課題への対応方策の企画、立案、調整及び推進に関する校務を担う「学長戦略本部」を設置するため、大学学則の改正及び学長戦略本部が開発した上で、総合研究所、IR推進室及び学修基盤推進室を「学長戦略本部」の常置組織とすることで、より機動力のある組織を整備した。・また、喫緊の課題に対応するため、「学長戦略本部」に「学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェクト要綱」に基づき4名の教職員によるプロジェクトチームを5月に立ち上げ、「学修者本の教職員によるプロジェクトチームを5月に立ち上げ、「学修者本の教職員によるプロジェクトチームを5月に立ち上げ、「学修者本の教職員によるプロジェクトナーな5月に立ち上げ、「学修者本の教職員によりであるという。	応方策の企画、立案、調整及び推進に 関する校務を担う「学長戦略本部」を 設置し、学長補佐等として優秀な人材 を適切に配置するとともに、大学の 要課題である全学的な学マネジメントシステムの改善、DXの推進等を図 る。		・「学長戦略本部」の更なる機能強化を図るため、「リペラルアーツ教育推進室」を令和5年11月に設置し、本学のリペラルアーツ教育推進室と数置したほか、令和6年3月から、全学的な研究推進、外部資金獲得及び研究インテグリティを確保する体制の整備を図るため、総合研究所の機能強化及び「研究力強化会議」の設置を行った。・「学長戦略本部教学マネジメント・DX推進FT会議」を令和5年度は10回開催し、DXの推進によるデジタル社会を先導するスマートは10回開催し、DXの推進によるデジタル社会を先導するスマートは10回開催し、DXの推進によるデジタル社会を先導するスマートの適切な利用についての学長メッセージ」の発出、「教学マネジメントチェック」、【Ver.2】」の策定、「教育職員の16Tスキルメ革」の策定及び研修の支援、非常勤教員に対する全学FDの実施や支援、非常勤教員に対する全学FDの実施や支援、事務動教員に対する全学FDの実施と表生を表現した。				
「 評価指模」 ・学長補佐等の配置状況及び重要課題 等への取組状況	į		「 評価指標」 ・学長補佐等の配置状況及び重要課題 等への取組状況						

		1			1				
第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画71】(企画部) 本学の各種情報を様々なステークホルッターに機能を様々なステークの理解を信し、大学の理解を受ける。 大学 1 日本 1 日	Ш	・令和5年度新入生を対象に、大学入学にあたり必要な各種情報を 一元的に確認することができる「新入生のためのスタートアップサ イト」を大学PPに開設した。内容は入学前教育に始まり、各部局の 情報をわからく分類し掲載することで、入学予名を ス同上に努めたところである。 ・また、学長直轄の「学長歌路本部」に、「学長戦路本部教学マネー ジメント・推進DVプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチー ムを5月に設置し、現在の大学ホームページの改善・充実に向けた 検討を行うこととして、現在のホームページの環題等を整理した。 冬和5年度においては、ホームページ改定のための委員会の設置等 具体的なスケジュールの検討を行うこととする。	情報等について、学生や学費負担者、 入学希望者等の直接の関係者に対する 説明責任を果たすため、適切に情報の 公表を進める。		・昨年度に引き続き、入学予定者へのサービス向上のため、「新入生のためのスタートアップサイト」を大学IPIに開設し、入学予定者へのみ学前教育の一環として各種情報発信に努めた。今回から、事務DX推進事と・アップサイトから取り組めるよう工夫したで、大学をこのスタートアップサイトから取り組めるよう工夫したで、人学後速やかに学生証を交付することが可能となり、学生の利便性の向上、職員の負担軽減につなげることができた。・学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェケナ通の卒業学科にいては、現在のホームペー労設定の検討を併せ、大生が通の学業学科の中のサールでは、現在のホームペー労設定の検討を併せ、大生が通の業業学科学等においてに一、不調査を実施したが、令和6年度は、看護の分野等においてに同様の調査を実施したたで、全学的な卒業生のエーズを踏まえたボータルサイトの具体的な検討を進めていくこととする。【計画52】参照。				
【計画72】(企画等・内部監査室) 法令連守による社会の高い信頼をせずるため、内部監査をはまるため、内部監査をは能ささまた。 対策、大学連連にまるため、内部統制の取組について業務監査、「計画連成のための方策」 監査のより円滑策を整査するとも査ることを重要がより環境を整査するとを主義といる方式の環境を整合計画を持った。 監査に、監査を作成に監査を作成に監査を主義と表面を定立るのを表示で、表面を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	ш	性を担保するため、新たに「学校法人青葉学園 監事監査規程」を 制定することとして、令和5年3月8日開催の大学経営会議にて承認 後、3月22日開催の理事会・評議員会にて承認・決定した。今後は 監事監査マニュアル等の策定に向け、検討を進めていくこととす る。	【年度計画72】 監事監査マニュアル等に基づき、監事による監事監査計画や監事額に報告書を作成し、その結果を学定による内部監査室による内部監査計画や内部監査報告書を作成し、その結果を学内会議に報告する。 「評価指標」 ・監事による監事監査計画や監事報告書の作成・報告状況及び、内部監査報告書の作成・報告状況		・私立学校法の改正に伴い、経営に関する管理体制、リスク管理に関する体制、コンプライアンスに関する管理体制及び監査環境の整備等が求められていることから、寄行為の変更の検討をはじめ、既存の学内規程の改正や新たな規程の準備作業を行ったところであり、令和6年度中には、寄附行為の変更をはじめ、関係規定等の整備とれらの体制の整備を図ることとする。・また、内部監査室では、加えて次の活動監事とした。監事と協して和歌山キャンバスの実地調査(2日間)、私立大学等改革総合支援事業における申請書の内部監査(2日間)、私立大学等改革総合支援事業における申請書の内部監査全32項目を実施した。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画73】(研究協力部) 適正な研究活動を実施するため、制研究協力部 適正な研究活動を実施向けた体研行 計推進に向に、不確報を 計構、推進に向に、不確報を 計構、推進を研究倫理の 計構、表防したのの 計構、表防した研究倫理の が表し、研究 が表し、研究 が表し、 の方 が、 の方 が、 の方 が、 の方 が、 の方 が、 の方 が、 の方 が、 の方 が、 の方 が、 の方 が、 の向上と の一 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	IV	・令和4年9月22日に、前年度に引き続き外部講師(有江文栄氏:国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 臨床研究支援部 生命倫理室と 大きにと対象をした倫理教育研修をオンライン方式で実施した。当日は過去最多となる教職員・大学院生合計261名が参加した。・今年度は、「医学系研究に関する倫理指針のポイントと研究不正について」をテーマとして、倫理面での重要ポイントとともに、不正防止に向けた研修内容に重点を置いた。・・倫理教育説明会終了後アンケート調査を実施した。回収率は37.9%であったが、理解度については、「理解が深まった」、「大体理解できた」の合計で99%であり、そのほか各調査項目について大変良好であった。	研究者等に対する研究倫理教育を計画 的に実施する。 2. 不正根総に向けた意識の向上と浸透 を目的とした啓発活動を継続的に実施 する。	IV	・令和5年9月22日に、前年度に引き続き外部講師(有江文栄氏:国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 臨床駅立支援部 教育研修を主人国立精神・神経医療研究センター 臨床駅立た倫理教育研修をオンライン方式で実施した。当日は過去最多となった昨年度を上回る教職員・大学院生合計263名が参加した。終了後の質疑応答でも活発な意見交換がありる倫理は一なのでのでのでのでのでのででででででいる。一个今年度は、「毎年登別ではいまりない。」「大学院生合計263名が参加した。終了後の音樂のでも活発な意見交換がありる倫理がポイントで発不正とさない。一会年度は、「毎年登別では、一年の中でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでので				
「評価指標」 ・本部及び各部局における研究倫理教 年部及び各部局における研究倫理教 大況			「 評価指標」 ・倫理教育実施時のアンケート調査の 分析結果状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	評価区分	内部質保証推進会議
【計画74】(研究協力部) 公的研究費の不正使用を防止するた か、公的研究費等の適正な管理及び運営を行う。 「計画連成のための方策」 下正使用防止対策の実施状況の検証、 コンプライアンスを通じて、公的 研究費等の適正な管理及び運営を行う。	IV	・今年度から科研費管理システム(科研費プロ)を導入し、各部局 長が常時当該部局の科研費採択者の収支状況を閲覧できることととした。これにより経費執行の時期及び特定の業者への発注の偏り等を 部局長が把握・指導できる管理体制が構築された。 ・上記のとおり、今年度は個理教育研修において不正防止に関する 事項を重点的に取り上げた。なお、倫理教育受講後の警約書の提出 状況は教員、大学院生及び公的研究費の管理・運営に携わる事務職 員の該当者に全員提出した。 ・公的研究費等の使用や運営について、学内内部監査室の監査を受け、書面不備等の修正・改善等に努め、学部長等会議に報告した。	コンプライアンス教育及び不正使用防止対策のモニタリングを通じて、公的研究費等の適正な管理及び運営を行う。	IV	・令和5年9月22日に、前年度に引き続き外部講師(有江文栄氏、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 臨床研究支援部生命倫理委員)による、全学の教職人、学院生を対象としった昨年度を上回る教職員・大学院生合計263名が参加した。終了後の質擬応答でも活発な意見交換があり、有意義な研修会となった。・今年度は、「医学系研究における何を持ちれている。・今年度は、「医学系研究における何を持ちれている。・今年度は、「医学系研究における何といる。中の大学を起こさない為の基礎知識」をデーマとして、倫理面での重要でポイントとともに、不正防止の事前防止・根絶に向けた研修内容に立いたとともに、不正防止の事前防止・根絶に向けた研修内容に立いたとともに、不正防止の事前防止・根絶に向けた研修内容に立た。「無理教育説明会終了後にアンケート調査を実施した。回収率は59.0%であったが、その中で研究に関する倫理並びに当該研究に必要な知識及び技術についての理解度については、「理解が完にいた」、「大体理解できた」の合計で59.6%、研修会全体については「大人に参考になった」、「参考になった」で98%あり、そのほか表が表が表していて、文料省の研究機関等における基本事指的に遂行されの創業を管基準等により規関(公益社団法人日本事動物実験の実施について、文料省の研究機関等における基本事指的に遂行される検証を行った。評価結果としては、全動物実験実施者に対する毎年度の教育訓練や自己点検、評価及び環境名の自発を対しては、全動物実験実施者に対する毎年度の表すが表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が			
「評価指標」 ・不正使用防止対策の実施状況の検 正、不正使用防止対策のモニタリング り実施状況、公的研究費等の適正な管 理及び運営の実施状況、コンプライア ンス教育の実施状況、誓約書の提出状 兄			「評価指標」 ・不正使用防止対策の実施状況の検証、不正使用防止対策のモニタリング の実施状況、公的研究費等の適正な管理及び運営の実施状況、コンプライアンス教育の実施状況、誓約書の提出状況					

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画75】(総務人季都) 個人情報を含めた情報資産の適正かつ 円滑な運営のため、情報セキュリティ に関する学生・教職員の意識改革のための研修会等を実施するとともに、各種ソウトウェアの適正な利用等をも 情報資産の管理状況の検証を行う。									
「計画連成のための方策」 情報セキュリティに関する学生・教職 員の意識改革のための研修会等を実施 するとともに、各種シウトウェアの適 正な利用等を含む情報資産の管理状況 の検証を行う。 「評価指標」 ・情報セキュリティに関する学生・教 職員の管理状況 の管理状況		・今年度は情報セキュリティに関する学内規程を整備するに留まったため、情報セキュリティに関する学生・教職員の意識改革含めた対応施策は次年度に繰り越し、推進していく。 ・各種ソフトウェアの適正な利用等を含む情報資産管理については、マイクロソフトの行信。、セキュリティ対策ソフト等の学内標準ソフトは一元管理を行い適正な利用を確保しているが、次年度以降クライアントごとにソフトウェア管理ソール等を導入することで、学内で利用されているソフトウェアの可視化を推進し、情報資産の管理の強化を図りたい。	員の意識改革のための研修会等を実施 するとともに、各種ソウトウェアの適 正な利用等を含む情報資産の管理状況 の検証を行う。 「 評価指標」 ・情報セキュリティに関する学生・教	П	・常勤教職員(約365名)に対して、11月より毎月2回(3月末時点で計10回)e-learningコンテンツをメール配信し継続的に情報セキュリティに関する啓発教育を行っている。約半年経過して、毎回約80~85%の教職員が閲覧並びに確認テストを実施しているが、24名の教職分・度も閲覧していない。なお、学生については費用面を考慮して実施していない。・7月にPP情報資産管理アブリを常勤教職員貸与PCを中心にインストールし、ソフトウェア資産管理を行っている。約390台の貸与PCに対し、253ペンダ・1190ソフトウェアが利用されており、定期的に監視を行っている。				
【計画76】(総務人事部) 年々高度化・複雑化する大学の教教育職 東京語に主義務立る大学の教教を言葉的に対応する大文と等が、 は働いること教育ではいるこのでは、 もないるこのでは、 もないるに、 は、 もないるに、 は、 もないるでは、 もないるでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は									
「計画達成のための方策」 1. 教職協働のために事務職員等に習得させるべき知識・技能等を明確化した上で、それらを習得させるためのSDを計画的に実施する。「評価指揮」・事務職員等に対するSDの実施状況		1. 教職員にとってFD、SDとなる「東京医療保健大学を語る会」については、令和4年10月26日(水)に理事長及び学長による講話の形で開催した。対面、Zoom及び後日オンデマンド配信での開催とし、各参加数の合計は100%であった。 ・アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になった」の回答が98.8%となっており、内容について好評であった。 ・また、事務職員を対象としてSDとして、第31回事務職員研修会を令和4年9月9日(金)にZoomicて開催し100%の参加率であった。 研修会は、医療情報学科の今泉教授による「学修者本位の学びを実現するDX推進~魅力ある大学・選ばれる学科を目指して」他に副理事長から「事務組織変更の狙いと目的等について」の講話と「学事募集の現状と課題について」を入試広報部長から「学生支援及び就職支援に推進について」研修会を実施し事務職員の認識の共有を図った。	させるべき知識・技能等を明確化した 上で、それらを習得させるためのSDを 計画的に実施する。 「 評価指標」 ・事務職員等に対するSDの実施状況	IV	1. 令和5年度の「東京医療保健大学を語る会」については、10月25日(水)に理事長講話及び学科条奏(医療保健学部看護学科、東が 圧看護学部看護学科)の内容で開催した。対面、Zoom及び後日オン デマンド配信で実施し、各参加数の合計は100%であった。 アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になっ た」の回答は合計98.0%で、好評の結果であった。 ・事務職員を対象としてSDとして、第32回事務職員研修会を令和 年9月21日に対面とZOOMのハイブリッドで開催、事務局の理事長講 話、副理事長講話に加え、全部長から次年度の目標と課題を発表して 大学全体の各部の現状の理解を深めた。これは事後視聴を含め全 員参加であった。 ・また、第33回事務職員研修を令和6年3月25日に実施し、全員ZOOM 開催で、今年度から専攻が追加された「臨床検査技師」について広 く学んだ。				

					_				
第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	1-14-1-241-277	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
2. 事務職員等の適正な業績評価と処遇 についての基準の設定について検討を 行い、新たな人事評価制度を導入す る。		2. 新たな人事制度の導入に向けては、令和4年度は現状把握を行うことから着手し、同時に人事評価制度を支えるシステムの情報収集を行った。		ш	2. 令和5年度は、導入すべき人事評価制度のスタディを進めるとともに、全事務職員との人事面談を行い現状把握を行った。 ・令和6年度には、人事考課制度の骨格をまとめ、順次導入に向けて準備を進める。				
「評価指標」 ・新たな人事評価制度の導入状況			「評価指標」 ・新たな人事評価制度の導入状況						
【計画77】(総務人事部) 教職員のワーク・ライフ・バランス支援体制を充実し、職場DXを推進し、改 率化を図りながら、教職員の勤務時間 管理の適正化を図るとともに、休暇の 取得しやすい環境を整備する。									
「計画達成のための方策」 ・各部局において、教職員のワーク・ ライフ・バランス支援体制を充実し、 職場でのDXを推進し、業務の勤務時間の 縮減を図りながら、教職員の超過勤務時間の 縮減を図るとともに、休暇の取得日数の増加を図る。 「評価指模」 一職場でのDXの推進状況、教職員の超 過勤務時間の状況及び休暇の取得日数の状況	i E	・助教以上の教員は、裁量労働制を導入しており、教務システムの 導入や講義演習におけるDXの推進、必要に応じて在宅勤務の実施を 許容 などを通じて、業務の効率化を図り、ワーク・ライフ・バラ ンスの改善を支援している。 ・教職員体取現得は、年間最低5日以上の有給休暇の取得を義務付けており、さらに計画的に取得し、年間付与日数をすべて消化する 職員もいる。 ・職員の超過動務の状況は、令和3年度が10,281時間、令和4年度が 10,232時間と模ぱいに推移。職員の業務効率化をスピードを上げて 取り組んでまいりたい。	ライフ・バランス支援体制を充実し、 職場でのDXを推進し、業務の効率化を 取りながら、教職員の超過勤務時間の 縮減を図るとともに、休暇の取得日数 の増加を図る。 「評価指標」 ・職場でのDXの推進状況、教職員の超		・教員は、引き続き裁量労働制を導入しており、教務システムの導入や講義演習におけるDXの推進、必要に応じて在宅勤務の実施を許容などを通じて、業務の効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスの改善を支援している。 ・教職員体販取得は、年間最低5日以上の有給休暇の取得を義務付けており、年に何回も情宣して取得を後押ししており概ね計画的に取得している。年間付与日数をすべて消化する職員もいる。 ・職員の超過勤務の状況は、令和4年度が10、222時間、令和5年度は12、007時間と、年間1,775時間の増加となった。このうちの83%に相当する1,481時間は、令和5年度から集計を始めた週40時間超の実績、後の年間300時間は、前年度比分額の増加となり、様々な理由で一部の職員に負荷がかかっている。				
【計画78】(総務人事部・企画部) コロナウイルス感染症対策をはじめと する様々なリスクに対する、全学的な リスクマネジメントの取組を推接し、 学生・教職員にとって安全・ キャンパス、職場環境及び教育研究環 境を整備する。	:								
「計画連成のための方策」 コロナウイルス感染症対策をはじめと する様々なリスクした対し、危機対策 括本部等において、適切に全学的なリ スクマネジメントを行う。 「評価推奨」 ・危機対策統括本部等における全学的 なリスクマネジメントの対応状況	Ē	程」に基づき設置されたCOVID-19対策本部において、全国、首都圏	【年度計画78】 コロナウイルス感染症対策をはじめとする様々なリスクに対し、危機対策結 括本部等において、適切に全学的なリスクマネジメントを行う。 「評価指揮」 ・危機対策統括本部等における全学的なリスクマネジメントの対応状況		・新型コロナウイルス感染症については、国の方針により、令和5年5月8日から感染症法上の分類がいわゆる「2類相当」から「5類感染症」に分類替えされたことを踏まえ、「危機管理規程」に基づき設置されたCOVID-19対策本部は解散し、今後はボストコロナを見密表た大学運営を行う上で、パンデミックを始めとする健康だりに対応できる即応体制を構築するため、「東京医療保健大学学則」の一部改正と併せ「東京医療保健大学保健センター規程」を制定た上で、学校保健担当者を構成員とする全学センターとなる「保健センター」を令和5年5月10日付で新たに設置したところである。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画79】(総務人事都) 学生・教職員の健康を維持するため、生活習慣病対策、メンタルヘルスケア意識の向上のための 万策 」 「計画達成のための 万策 」 「計画達成のための方策」 「計画達成のための方策」 「計画域内対策、メンタルヘルス予防対策に取り組む。 「評価指揮」 ・生活習慣病対策、メンタルヘルス予防対策の取組状況	IV	・毎年9月の第2週に全教職員を対象にストレスチェックを実施している。分析結果について、全学衛生委員会で問題点の共有を図り各学部及び事務局内においても衛生委員からの情報共有を行っている。その分析結果を受けて特にハラスメントから来るメンタルペルスの予防対策について、ハラスメン防止研修会を開催した。開催日は参加しやすい様に令和5年3月23.24日の2日間を設け、オンデマンド視聴も整え全員参加できる体制で実施した。また、研修会の内容については、大学で発生している具体的な事例等を基に研修を行い理解を深めて買うように計画したもので、アンケート結果は、理解できた、実践したい内容があった、がそれぞれ85%程度となった。	に取り組む。 「 評価指標」 ・生活習慣病対策、メンタルヘルス予		・毎年9月の第2週に全教職員を対象にストレスチェックを実施している。分析結果について、全学衛生委員会で問題点の共有を図り各学部及び事務局内においても衛生委員からの情報共有を行っている。 ・その分析結果を受けて特にハラスメントから来るメンタルヘルスの予防対策について、ハラスメン防止研修会を開催した。開催日は参加しやすい様に令和6年3月6、11日の2日間を設け、オンデマンド視聴も整え全員参加できる体制で実施した。アンケート結果は、テーマ、講師の満足度高いが71-75%、よく理解できたは80%、実践したい内容があったは90%程度となった。				
【計画80】(総務人事部) 学生・教職員に対っなパワーハラスメント、不力シュアルのラスメント、その他目指連する。 「計画速成のための方策」 ハラスメントを推進する。 「計画速成のための方策」 ハラスメントに関する研修・ 調会等の実施により、に学生・教職員の結構を が変え、また、相談しやすい相談窓口の体制整備を図る。	ш	・ハラスメント相談窓口は、メール相談、申出ができるようにメールアドレスを公表して相談しやすい体制としている。また、令和5年度からは、外部サービスを利用することで、24時間365日対応の電話相談「からだとこころの相談窓口」を学生とその怪者が無料で使えるように手配をした。・ハラスメント防止研修は【年度計画79】に記載済・ハラスメント事例として申し出があったものは、相談員が事情を何い、必要に応じて調査委員会の設営等を行っている。	し、ハラスメントに関する研修・講演 会等の実施により、学生・教職員の意 識啓発を行う。また、相談しやすい相 談窓口の体制整備を図る。		・今年度は、一部のキャンパス全体への人事部による聞き取り調査を実施。以下の対策を行った。 ① ハラスメント事例集の作成と掲示 ② 学内しかなかった相談で取りを、学外にも設置。 教職員が無料で相談できる体制を構築した ③ 弁護士、社労士事務所、心療内科の医師 とそれぞれ 顧問契約を行い、相談を受けた教職員が頼れる専門家 を確保した。 ④ ハラスメント防止研修は【年度計画79】に配載 ・ハラスメントの申出には、利用細則に沿って対応、調査委員会も 忙しく活動している。				
「評価指標」 ・ハラスメントに関する研修・講演会 等の実施状況及びハラスメント事例の 対応状況			「評価指標」 ・ハラスメントに関する研修・講演会 等の実施状況及びハラスメント事例の 対応状況						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
(2)「財務」 【計画81】(経理財務部、入試広報部) 入学定員を充足し、学納金収入等の安定的な確保を図る。 「計画達成のための方策」 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大統制院へは必要を見られて、イベント・地域性を重視した高校訪問活動の強化を図る。 「評価指標」 ・全学部・全学科の定員確保状況	Ш	・高校訪問において進路探究を目的とした出張講義の提案とその実施に注力した。結果、出張講義依頼数も増加し、高大連携関係は質量共に強化された。 ・イベントについては、各キャンパスで対面型の実施を基本とし、体験型授争や入試層別相談、在校生・卒業生との対話の機会を増やすなど内容の充実を図った。 ・更に医療情報学科と医療栄養学科では、新たな動画の作成と配信、特設サイトやランディングページの運用SMSでの情報発信を強化し、募集活動に力を入れた。 ・しかしながら、両学科については、定員の充足に至らず、学納金収入の安定的確保に影響を与える結果となった。	出と高大接続関係強化を図るとともに、イベント運営方法を見直し、紹介パンフレットや トP等の刷新による情報発信強化及び地域性を重視した高校訪問活動の強化を図る。 「評価指標」・全学部・全学科の定員確保状況		・高校訪問活動を通じて、各高校の進路指導のニーズに合わせた出張講義の提案とその実施に力を入れた。結果的に、新規での依頼報も増加し、学生募集活動における高大連携関係は、確実に強化維持された。オーブンキャンパス等については、各キャンパスを主体、具して、体験授業や入試の利力で、そして卒業後のキャリア形成スライフ、そして卒業後のキャリア形であるがから、医療情報学科を通いできる内容の充実に努動と、その学びを養学科では、対サイト上に「教員紹介」ページを新設し、その学びを各挙学科では、がも通いでイメージできるよう工夫した。また、医療栄養学科では、おりな通いでは、といる情報を当ました。ならに学科内に臨床検査学専攻を新設し、従来の管理栄養して特にあらに学科内に臨床検査学専攻を新設し、従来の管理栄養して、たらに学科内に臨床検査学校を新設し、従来の管理栄養して、大らに、臨床検査栄養に大きな影響を成を始めることとした。結果として、大に、臨床検査保護を対してい、定員の充した。と、原情報学科では、昨年を上回る減数となり、学納金収入の安定に、情報学科とでは、昨年を上回る減数となり、学納金収入の安定に、たらに登場に、大きな影響を与える結果となった。医療情報学科については、定員充足に向けて、令和8年4月に学科の改組を構想・計画している。				
【計画82】(経理財務部) 私立大学等改革総合支援事業補助金等の獲得増に向け、大学のシーズを育てる等工夫をする。 「計画達成のための方策」 毎年提示される各選定項目の詳細検証と精査を行い、部長会等上部会議体を通じた各部連携により、全学一丸となった取組みを強化する。 「評価指揮」・タイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色のある教育の展開」の申請と支援対象校としての確実な選定状況	IV	・令和4年度に関しても、文部科学省からの補助金である、タイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色のある教育の展開」へ申請したところ、選定基準ライン69点に対し、本学は75点を獲得した。全体選定率が19%と厳しい環境下、全学一丸となった取組みで無事選定されたところである。	と精査を行い、部長会等上部会議体を 通じた各部連携により、全学一丸と	I	・令和5年度に関しても、文部科学省からの補助金である、タイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色のある教育の展開』へ申請したところ、選定基準ライン70点に対し、本学は62点となり、選定されなかった(全体選定率21%)。				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画83】(経理財務部) 教育研究遂行上必要経費は適切に措置するとともに、管理経費等の内容を精査し節減を図る。 「計画連成のための方策」 稟議・経費申請内容の詳細チェックを行い、経費措置・経費利用に関し全体への啓発を実践し、経費の質を追求する。	IV	・経費に係る各財務比率(R4年度決算着地見込ベース)については、 人件費率上限目途60%に対して51.5%、教育研究比率目途30%超に 対して34.5%、管理経費比率上限目途10%に対して7.5%と、何れ も目途値をクリアしたところである。	行い、経費措置・経費利用に関し全体		・経費に係る各財務比率(R5年度決算着地見込ベース)については、 人件費率上限目途60%に対して57.1%、教育研究比率目途30%超に対して38.4%、管理経費比率上限目途10%に対して7.4%と、何れ も目途値をクリアしたところである。				
・経費に係る各財務比率の推移検証(目 途値達成)			・経費に係る各財務比率の推移検証(目途値達成) ・人件費率上限60% ・教育研定比率30%超 ・管理経費比率上限10%						
【計画84】(経理財務部) 財務内容の精緻な検証と厳格な監査実施、それらに基づく対外公表を実施する。									
「計画連成のための方策」 財務比率指標に基づき、毎年度検証を 実施するとともに、監査法人及び監事 監査の定期実施を行う。 「評価指標」 ・財務諸表の公開 ・監査報告書の公表		・定例の監査法人及び監事による監査を実施済である。 ・令和3年度決算については、監査終了後、財務諸表並びに監査報 告書をPIPにて公表した。また、決資値から財務比率指標に基づいた 検証を実施し、大学経営会議(令和4年7月14日開催)及び理事会・評 議員会(令和4年11月9日)において審議の上、承認された。	監査の定期実施を行う。		・定例の監査法人及び監事による監査を実施済である。 ・令和4年度決算については、監査終了後、財務諸表並びに監査報 告書をPIPにて公表した。また、決算値から財務比率指標に基づいた 検証を実施し、大学経営会議(令和5年7月12日開催)及び理事会・評 議員会(令和5年11月8日)において審議の上、承認された。				